

ユ ー ザ ー ズ ガ イ ド

～運用編～

HA8000/RS220 AN2/BN2

HA8000

2016年4月～モデル

マニュアルはよく読み、保管してください。

製品を使用する前に、安全上の指示をよく読み、十分理解してください。
このマニュアルは、いつでも参照できるよう、手近な所に保管してください。

登録商標・商標

HITACHI、JP1/ServerConductor は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

Intel、インテル、Xeon は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server、Hyper-V、BitLocker は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

発行

2016 年 4 月（初版）（廃版）

2017 年 6 月（第 5 版）

版權

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

All Rights Reserved, Copyright © 2016, 2017, Hitachi, Ltd.

お知らせ

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載したり、複写することは固くお断りします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いません。
なお、保証と責任については保証書裏面の「保証規定」をお読みください。

システム装置の信頼性について

ご購入いただきましたシステム装置は、一般事務用を意図して設計・製作されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は意図されていませんし、保証もされていません。このような高信頼性を要求される用途へは使用しないでください。

高信頼性を必要とする場合には別システムが必要です。弊社営業部門にご相談ください。

一般事務用システム装置が不適当な、高信頼性を必要とする用途例

・ 化学プラント制御 ・ 医療機器制御 ・ 緊急連絡制御など

規制・対策などについて

□ 電波障害自主規制について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

□ 電源の瞬時電圧低下対策について

本製品は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

□ 高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品

JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 — 第 3-2 部：限度値 — 高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

□ 雑音耐力について

本製品の外来電磁波に対する耐力は、国際電気標準会議規格 IEC61000-4-3「放射無線周波電磁界イミュニティ試験」のレベル 2 に相当する規定に合致していることを確認しております。

なお、レベル 2 とは、対象となる装置に近づけないで使用されている低出力の携帯型トランシーバから受ける程度の電磁環境です。

□ 輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替および外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理規制など外国の輸出関連法規をご確認のうえ、必要な手続きをお取りください。なお、ご不明な場合は、お買い求め先にお問い合わせください。

また、本製品に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いとなります。

□ 海外での使用について

本製品は日本国内専用です。国外では使用しないでください。

なお、他国には各々の国で必要となる法律、規格などが定められており、本製品は適合していません。

□ システム装置の廃棄について

事業者が廃棄する場合、産業廃棄物管理票（マニフェスト）の発行が義務づけられています。詳しくは、各都道府県産業廃棄物協会にお問い合わせください。産業廃棄物管理票は（社）全国産業廃棄物連合会に用意されています。

個人が廃棄する場合、お買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

また、システム装置内の電池を廃棄する場合もお買い求め先にご相談いただくか、地方自治体の条例または規則にしたがってください。

システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意

システム装置を譲渡あるいは廃棄するときには、ハードディスク／SSD／PCIe SSD の重要なデータ内容を消去する必要があります。

ハードディスク／SSD／PCIe SSD 内に書き込まれた「データを消去する」という場合、一般に

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトで初期化（フォーマット）する
- OS を再インストールする

などの作業をしますが、これらのことをしても、ハードディスク／SSD／PCIe SSD 内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけです。つまり、一見消去されたように見えますが、OS のもとでそれらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけであり、本来のデータは残っているという状態にあります。

したがって、データ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、システム装置のハードディスク／SSD／PCIe SSD 内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

ハードディスク／SSD／PCIe SSD 上の重要なデータの流出を回避するため、システム装置を譲渡あるいは廃棄をする前に、ハードディスク／SSD／PCIe SSD に記録された全データをお客様の責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（共に有償）を利用するか、ハードディスク／SSD／PCIe SSD を金づちや強磁気により物理的・磁氣的に破壊して、データを読めなくすることをお勧めします。

なお、ハードディスク／SSD／PCIe SSD 上のソフトウェア（OS、アプリケーションソフトなど）を削除することなくシステム装置を譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、十分な確認を行う必要があります。

はじめに





このたびは日立のシステム装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このマニュアルは、システム装置の運用に関する注意、設定、メンテナンス方法、トラブルが発生した場合の対処について記載しています。

マニュアルの表記

このマニュアルの表記ルールについて説明します。
なお、マニュアルで説明している画面やイラストは一例であり、またマニュアル制作時点のものです。
製品や製品の出荷時期により異なる場合があります。

□ マニュアル内の記号

マニュアル内で使用しているマークの意味は、次のとおりです。

 警告	これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
 注意	これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。
通知	これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。
 制限	システム装置の故障や障害の発生を防止し、正常に動作させるための事項を示します。
 補足	システム装置を活用するためのアドバイスを示します。

□ システム装置の表記

このマニュアルでは、システム装置を装置と略して表記することがあります。

また、システム装置を区別する場合には、次のモデル名で表記します。

RS220 AN2/BN2 モデル

システム装置のモデルを省略して

RS220 xN2 モデル

と表記することもあります。

□ オペレーティングシステム（OS）の略称について

このマニュアルでは、次の OS 名称を省略して表記します。

- Microsoft® Windows Server® 2016 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2016 Standard または Windows Server 2016、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2016 Datacenter または Windows Server 2016、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 R2 Standard または Windows Server 2012 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 R2 Datacenter または Windows Server 2012 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Standard または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2012 Datacenter または Windows Server 2012、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Standard または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Enterprise または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 日本語版
(以下 Windows Server 2008 R2 Datacenter または Windows Server 2008 R2、Windows)
- Red Hat Enterprise Linux Server 7.3 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL7.3 (64-bit x86_64) または RHEL7.3、RHEL7、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 7.2 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL7.2 (64-bit x86_64) または RHEL7.2、RHEL7、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.9 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL6.9 (64-bit x86_64) または RHEL6.9、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.8 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL6.8 (64-bit x86_64) または RHEL6.8、RHEL6、Linux)
- Red Hat Enterprise Linux Server 6.7 (64-bit x86_64)
(以下 RHEL6.7 (64-bit x86_64) または RHEL6.7、RHEL6、Linux)
- VMware vSphere® ESXi™ 6.5
(以下 VMware vSphere ESXi 6.5 または VMware vSphere ESXi、VMware)
- VMware vSphere® ESXi™ 6.0
(以下 VMware vSphere ESXi 6.0 または VMware vSphere ESXi、VMware)
- VMware vSphere® ESXi™ 5.5
(以下 VMware vSphere ESXi 5.5 または VMware vSphere ESXi、VMware)

次のとおり、省略した「OS 表記」は、「対象 OS」中のすべてまたは一部を表すときに用います。

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2016 Standard *1	・ Windows Server 2016 Standard *1
Windows Server 2016 Datacenter *1	・ Windows Server 2016 Datacenter *1
Windows Server 2016 *1	・ Windows Server 2016 Standard *1 ・ Windows Server 2016 Datacenter *1
Windows Server 2012 R2 Standard *1	・ Windows Server 2012 R2 Standard *1

OS 表記	対象 OS
Windows Server 2012 R2 Datacenter *1	・ Windows Server 2012 R2 Datacenter *1
Windows Server 2012 R2 *1	・ Windows Server 2012 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2012 R2 Datacenter *1
Windows Server 2012 Standard *1	・ Windows Server 2012 Standard *1
Windows Server 2012 Datacenter *1	・ Windows Server 2012 Datacenter *1
Windows Server 2012 *1	・ Windows Server 2012 Standard *1 ・ Windows Server 2012 Datacenter *1
Windows Server 2008 R2 Standard *1	・ Windows Server 2008 R2 Standard *1
Windows Server 2008 R2 Enterprise *1	・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1
Windows Server 2008 R2 Datacenter *1	・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1
Windows Server 2008 R2 *1	・ Windows Server 2008 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1
Windows	・ Windows Server 2016 Standard *1 ・ Windows Server 2016 Datacenter *1 ・ Windows Server 2012 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2012 R2 Datacenter *1 ・ Windows Server 2012 Standard *1 ・ Windows Server 2012 Datacenter *1 ・ Windows Server 2008 R2 Standard *1 ・ Windows Server 2008 R2 Enterprise *1 ・ Windows Server 2008 R2 Datacenter *1
RHEL7.3 RHEL7	・ RHEL7.3 (64-bit x86_64)
RHEL7.2 RHEL7	・ RHEL7.2 (64-bit x86_64)
RHEL6.9 RHEL6	・ RHEL6.9 (64-bit x86_64)
RHEL6.8 RHEL6	・ RHEL6.8 (64-bit x86_64)
RHEL6.7 RHEL6	・ RHEL6.7 (64-bit x86_64)
Linux	・ RHEL7.3 (64-bit x86_64) ・ RHEL7.2 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.9 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.8 (64-bit x86_64) ・ RHEL6.7 (64-bit x86_64)
VMware vSphere ESXi 6.5	・ VMware vSphere ESXi 6.5
VMware vSphere ESXi 6.0	・ VMware vSphere ESXi 6.0
VMware vSphere ESXi 5.5	・ VMware vSphere ESXi 5.5
VMware vSphere ESXi VMware	・ VMware vSphere ESXi 6.5 ・ VMware vSphere ESXi 6.0 ・ VMware vSphere ESXi 5.5

*1 64bit 版のみ提供されます。

また、Windows の Service Pack についても SP と表記します。

□ 略語・用語

マニュアルやユーティリティ、Web コンソールなどで使用している略語と用語は、次のとおりです。

略語・用語	説明
BIOS	Basic Input/Output System
BMC	Baseboard Management Controller（システム装置のハードウェア監視機能を提供する管理用コントローラ）
CPU	Central Processing Unit
DIMM	Dual Inline Memory Module（メモリーボード）
EFI	Extensible Firmware Interface（BIOS を代替する、OS とファームウェアのインタフェース仕様）
FCB	Front Connector Board（システム装置前面のコネクタ／ランプ／ボタンを搭載するボード）
FRU	Field Replaceable Unit（フィールド交換可能ユニット）
HDDBP	HDD Back Plane（ハードディスク／SSD／PCIe SSD と接続するコネクタを搭載するボード）
IPMI	Intelligent Platform Management Interface（システムや OS に依存することなく、システム装置のハードウェアを監視するための標準インタフェース仕様）
KVM	Keyboard、Video、Mouse
MB	Mother Board（マザーボード）
MC	Management Controller（BMC や ME などの総称）
ME	Management Engine（システム装置の電力管理を行うチップ）
NMI	Non-Maskable Interrupt（マスク不可能なハードウェア割り込み）
PCI	Peripheral Component Interconnect/Interface
PCIe	PCI Express
PROC	PROCeSSor（プロセッサ、CPU）
PSU	Power Supply Unit（電源ユニット）
SDR	Sensor Data Record（ファームウェアがハードウェア監視に使用するセンサーデータ）
SEL	System Event Log（システム装置のイベントログ情報）
SPI Mezzanine	MB に実装する拡張カード
UEFI	Unified EFI
Web コンソール	HTTP/HTTPS プロトコル経由で BMC によるリモートマネジメントを利用するための Web ブラウザと、リモートマネジメント制御を行うためのコンテンツ
リモート KVM	システム装置のローカルコンソールを、ネットワークを介してリモート端末（管理 PC）の Web ブラウザに表示する機能
リモートメディア	リモート端末に接続されている CD/DVD ドライブ、フロッピーディスクドライブ、ISO イメージファイル、USB メモリーを、システム装置に仮想ドライブとして認識させる機能
リモートマネジメント拡張ライセンス	リモート KVM / リモートメディア機能を使用するために必要なライセンス

安全にお使いいただくために

安全に関する注意事項は、下に示す見出しによって表示されます。これは安全警告記号と「警告」、「注意」および「通知」という見出し語を組み合わせたものです。



これは、安全警告記号です。人への危害を引き起こす潜在的な危険に注意を喚起するために用います。起こりうる傷害または死を回避するためにこのシンボルのあとに続く安全に関するメッセージにしたがってください。



警告

これは、死亡または重大な傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。



注意

これは、軽度の傷害、あるいは中程度の傷害を引き起こすおそれのある潜在的な危険の存在を示すのに用います。

通知

これは、人身傷害とは関係のない損害を引き起こすおそれのある場合に用います。



【表記例 1】 感電注意

▲の図記号は注意していただきたいことを示し、▲の中に「感電注意」などの注意事項の絵が描かれています。



【表記例 2】 分解禁止

⊘の図記号は行ってはいけないことを示し、⊘の中に「分解禁止」などの禁止事項の絵が描かれています。

なお、⊘の中に絵がないものは、一般的な禁止事項を示します。



【表記例 3】 電源プラグをコンセントから抜け

●の図記号は行っていただきたいことを示し、●の中に「電源プラグをコンセントから抜け」などの強制事項の絵が描かれています。

なお、❗は一般的に行っていただきたい事項を示します。

安全に関する共通的な注意について

次に述べられている安全上の説明をよく読み、十分理解してください。

- 操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- 本製品やマニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- 本製品に搭載または接続するオプションなど、ほかの製品に添付されているマニュアルも参照し、記載されている注意事項を必ず守ってください。

これらを怠ると、人身上の傷害やシステムを含む財産の損害を引き起こすおそれがあります。

操作や動作は

マニュアルに記載されている以外の操作や動作は行わないでください。

本製品について何か問題がある場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

自分自身でもご注意を

本製品やマニュアルに表示されている注意事項は、十分検討されたものです。それでも、予測を超えた事態が起こることが考えられます。操作にあたっては、指示にしたがうだけでなく、常に自分自身でも注意するようにしてください。

一般的な安全上の注意事項

本製品の取り扱いにあたり次の注意事項を常に守ってください。



電源コードの取り扱い

電源コードは付属のものおよびサポートオプションを使用し、次のことに注意して取り扱ってください。取り扱いを誤ると、電源コードの銅線が露出したり、ショートや一部断線で過熱して、感電や火災の原因となります。

- 物を載せない
- 引っばらない
- 押し付けない
- 折り曲げない
- ねじらない
- 加工しない
- 熱器具のそばで使用しない
- 加熱しない
- 束ねない
- ステップルなどで固定しない
- コードに傷が付いた状態で使用しない
- 紫外線や強い可視光線を連続して当てない
- アルカリ、酸、油脂、湿気へ接触させない
- 高温環境で使用しない
- 定格以上で使用しない
- ほかの装置で使用しない
- 電源プラグを持たずにコンセントの抜き差しをしない
- 電源プラグをぬれた手で触らない

なお、電源プラグはすぐに抜けるよう、コンセントの周りには物を置かないでください。



タコ足配線

同じコンセントに多数の電源プラグを接続するタコ足配線はしないでください。コードやコンセントが過熱し、火災の原因となるとともに、電力使用量オーバーでブレーカが落ち、ほかの機器にも影響を及ぼします。



電源プラグの接触不良やトラッキング

電源プラグは次のようにしないと、トラッキングの発生や接触不良で過熱し、火災の原因となります。

- 電源プラグは根元までしっかり差し込んでください。
- 電源プラグはほこりや水滴が付着していないことを確認し、差し込んでください。付着している場合は乾いた布などで拭き取ってから差し込んでください。
- グラグラしないコンセントを使用してください。
- コンセントの工事は、専門知識を持った技術者が行ってください。



電池の取り扱い

電池の交換は保守員が行います。交換は行わないでください。また、次のことに注意してください。取り扱いを誤ると過熱・破裂・発火などが原因となります。

- 充電しない
- ショートしない
- 分解しない
- 加熱しない
- 変形しない
- 焼却しない
- 水にぬらさない



修理・改造・分解

本マニュアルに記載のない限り、自分で修理や改造・分解をしないでください。感電や火災、やけどの原因となります。特に電源ユニット内部は高電圧部が数多くあり、万一触ると危険です。



レーザー光

DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブや LAN の SFP+ モジュールなどレーザーデバイスの内部にはレーザー光を発生する部分があります。分解・改造をしないでください。また、内部をのぞきこんだりしないでください。レーザー光により視力低下や失明のおそれがあります。（レーザー光は目に見えない場合があります。）



梱包用ポリ袋

装置の梱包用エアークラップなどのポリ袋は、小さなお子様の手の届くところに置かないでください。かぶったりすると窒息するおそれがあります。



電源コンセントの取り扱い

電源コンセントは、使用する電圧および電源コードに合ったものを使用してください。その他のコンセントを使用すると感電のおそれがあります。
→『ユーザースガイド ～導入編～』



目的以外の使用

踏み台やブックエンドなど、PC サーバとしての用途以外にシステム装置を利用しないでください。壊れたり倒れたりし、けがや故障の原因となります。



信号ケーブル

- ケーブルは足などを引っかけたり、引っばったりしないように配線してください。引っかけたり、引っばったりするとけがや接続機器の故障の原因となります。また、データ消失のおそれがあります。
- ケーブルの上に重量物を載せないでください。また、熱器具のそばに配線しないでください。ケーブル被覆が破れ、接続機器などの故障の原因となります。



装置上に物を置く

システム装置の上には周辺機器や物を置かないでください。周辺機器や物がすべり落ちてけがの原因となります。また、置いた物の荷重によってはシステム装置の故障の原因となります。



ラックキャビネット搭載時の取り扱い

ラックキャビネット搭載時、装置上面の空きエリアを棚または作業空間として使用しないでください。装置上面の空きエリアに重量物を置くと、落下によるけがの原因となります。



眼精疲労

ディスプレイを見る環境は 300 ～ 1000 ルクスのもるさにしてください。また、ディスプレイを見続ける作業をするときは1時間に10分から15分ほど休憩してください。長時間ディスプレイを見続けると目に疲労が蓄積され、視力の低下を招くおそれがあります。

本製品の損害を防ぐための注意



装置使用環境の確認

装置の使用環境は『ユーザズガイド ～導入編～』に示す条件を満足してください。たとえば、温度条件を超える高温状態で使用すると、内部の温度が上昇し装置の故障の原因となります。



使用する電源

使用できる電源は AC100V または AC200V です。それ以外の電圧では使用しないでください。電圧の大きさにしたがって内部が破損したり過熱・劣化して、装置の故障の原因となります。



温度差のある場所への移動

移動する場所間で温度差が大きい場合は、表面や内部に結露することがあります。結露した状態で使用すると装置の故障の原因となります。すぐに電源を入れたりせず、使用する場所で数時間そのまま放置し、室温と装置内温度がほぼ同じに安定してから使用してください。たとえば、5℃の環境から 25℃の環境に持ち込む場合、2時間ほど放置してください。



通気孔

通気孔は内部の温度上昇を防ぐためのものです。物を置いたり立てかけたりして通気孔をふさがないでください。内部の温度が上昇し、発煙や故障の原因となります。また、通気孔は常にほこりが付着しないよう、定期的に点検し、清掃してください。



装置内部への異物の混入

装置内部への異物の混入を防ぐため、次のことに注意してください。異物によるショートや異物のたい積による内部温度上昇が生じ、装置の故障の原因となります。

- 通気孔などから異物を中に入れない
- 花ピン、植木鉢などの水の入った容器や虫ピン、クリップなどの小さな金属類を装置の上や周辺に置かない
- 装置のカバーを外した状態で使用しない



強い磁気の発生体

磁石やスピーカなどの強い磁気を発生するものを近づけないでください。システム装置の故障の原因となります。



落下などによる衝撃

落下させたりぶつけるなど、過大な衝撃を与えないでください。内部に変形や劣化が生じ、装置の故障の原因となります。



接続端子への接触

コネクタなどの接続端子に手や金属で触れたり、針金などの異物を挿入したりしてショートさせないでください。発煙したり接触不良の故障の原因となります。



煙霧状の液体

煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどでシステム装置を完全に包んでください。システム装置内部に入り込むと故障の原因となります。また、このときシステム装置の電源は切ってください。



装置の輸送

システム装置を輸送する場合、常に梱包を行ってください。また、梱包する際はマザーボード側（システム装置背面から見てコネクタ類のある側）が下となるよう、向きに注意してください。梱包しなかったり、間違った向きで輸送すると、装置の故障の原因となります。なお、工場出荷時の梱包材の再利用は 1 回のみ可能です。



サポート製品の使用

流通商品のハードウェア・ソフトウェア（他社から購入される Windows も含む）を使用した場合、システム装置が正常に動作しなくなったり故障したりすることがあります。この場合の修理対応は有償となります。システム装置の安定稼働のためにも、サポートしている製品を使用してください。



バックアップ

ハードディスク／SSD／PCIe SSD のデータなどの重要な内容は、補助記憶装置にバックアップを取ってください。ハードディスク／SSD／PCIe SSD が壊れると、データなどがすべてなくなってしまいます。



ディスクアレイを構成するハードディスク ／ SSD ／ PCIe SSD の複数台障害

リビルドによるデータの復旧、およびリビルド後のデータの正常性を保証することはできません。リビルドを行ってディスクアレイ構成（PCIe SSD は OS のソフト RAID 構成）の復旧に成功したように見えても、リビルド作業中に読めなかったファイルは復旧できません。

障害に備え、必要なデータはバックアップを取ってください。

なお、リビルドによるデータ復旧が失敗した場合のリストアについては、お客様ご自身で行っていただく必要があります。

（リビルドによる復旧を試みる分、復旧に時間がかかります。）

本マニュアル内の警告表示

警告

本マニュアル内にはありません。

注意

内蔵オプションの増設・交換

内蔵オプションの増設・交換はすべて保守員が行います。システム装置のカバーの取り外しや内蔵オプションの取り付け・取り外しは行わないでください。不慣れな作業を行うことにより、けがをしたり装置の故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.117](#)、[P.119](#)

通知

ディスクアレイの運用

ディスクアレイであっても、物理ドライブ以外の故障やソフトウェアの暴走、操作ミスによるデータの消失は防ぐことはできません。万一に備え、システムのデータのバックアップをお取りください。

『関連ページ』 → [P.17](#)、[P.42](#)

ディスクアレイのリビルド

ディスクアレイが縮退モードで動作中のとき、さらに物理ドライブが故障すると、ディスクアレイはデータのリビルドができなくなり、データをすべて消失します。障害ディスクはすぐに交換して、リビルドを行ってください。

『関連ページ』 → [P.17](#)、[P.138](#)

ディスクの取り扱いについて

ディスクは本書および、ご使用のディスクの取扱説明書をよくお読みのうえご使用ください。正しく取り扱わないとデータの再生が正常に行われず、データが消失したり、装置が破損したりするおそれがあります。

『関連ページ』 → [P.24](#)

クリーニング

- システム装置のクリーニングは、電源を切り、電源コードを抜いた状態で行ってください。装置の故障の原因となります。
- 水などをシステム装置にかけないでください。また、水分を含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.70](#)

キーボード、マウス、ディスプレイの取り扱い

水などをキーボードやマウス、ディスプレイに直接かけないでください。また、水分を多量に含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.71](#)、[P.71](#)、[P.72](#)

アルミ電解コンデンサ

有寿命部品にはアルミ電解コンデンサを使用しているものがあります。

アルミ電解コンデンサは寿命があり、寿命を超えて使用すると電解液の漏れまたは枯渇により発煙や異臭の原因となることがあります。

これらの危険を避けるために、有寿命部品について、設計寿命を超える場合には交換してください。

『関連ページ』 → [P.74](#)

消耗品

データメディアやクリーニングメディアなどの消耗品は指定されたものを使用してください。指定以外のものを使用すると製品の信頼性を低下させるだけでなく、故障の原因となります。

『関連ページ』 → [P.78](#)

通知

障害ディスクの交換

- 障害ディスクの交換では、操作手順の誤りや交換ディスクの故障などにより、データが破壊されるおそれがあります。交換の前にデータのバックアップを取ってください。
- 障害が発生していないハードディスク／SSD／PCIe SSDを交換するとデータが破壊されます。障害が発生したハードディスク／SSD／PCIe SSD 以外は抜き差ししないでください。
- 冗長性のあるディスクアレイにおいて、障害ディスクの交換はシステム装置の電源が入った状態で行ってください（ホットプラグ）。システム装置の電源を切った状態で障害ディスクを交換すると、ディスクアレイ情報が破壊され、すべてのデータを消失するおそれがあります。
- PCIe SSDは、OSのソフトRAID機能を使った冗長性のあるディスクアレイ（RAID1）において、障害PCIe SSDを交換する場合でもホットプラグはサポートしていません。システム動作中にPCIe SSDを引き抜かないでください。引き抜いた場合、データを消失します。

『関連ページ』 → [P.117](#)

障害電源交換時の電源コードの扱い

障害が発生した電源ユニット以外の電源コードを抜くとシステム装置の電源が切れてしまい、データを消失するおそれがあります。障害が発生した電源ユニット以外の電源コードを抜かないでください。

『関連ページ』 → [P.119](#)

目次

登録商標・商標	ii
発行	ii
著作権	ii
お知らせ	iii
重要なお知らせ	iii
システム装置の信頼性について	iii
規制・対策などについて	iii
システム装置の廃棄・譲渡時のデータ消去に関するご注意	v
はじめに	vi
マニュアルの表記	vi
安全にお使いいただくために	x
一般的な安全上の注意事項	xi
本製品の損害を防ぐための注意	xiii
本マニュアル内の警告表示	xv
目次	xvii
1 運用の前に	1
1.1 トラブルを避けるために	2
1.1.1 システムエラーのチェック	2
1.1.2 整合性検査（コンシステンシーチェック）の定期実行	2
1.1.3 ネットワークセキュリティ	3
1.1.4 Windows Update のチェック	3
1.1.5 データ・設定のバックアップ	4
1.1.6 ドライバ・ユーティリティ・ファームウェアのアップデート	5
1.2 運用時の注意	6
1.2.1 一般的な注意	6
1.2.2 Linux 運用上の注意	11
1.2.3 VMware 運用上の注意	11
1.2.4 LAN 機能の注意	13
1.2.5 UTC 設定の注意	15
1.2.6 ディスクアレイの注意	17
1.2.7 使用する OS のブートモードの注意	22
1.2.8 USB Flash Module の注意	22
1.2.9 内蔵デバイスの注意	23
1.2.10 Hitachi Compute Systems Manager (HCSM) 使用時の注意	25
1.3 運用前の設定	29
1.3.1 BMC ネットワークの設定	29
1.3.2 TCP Checksum Offload 機能の無効設定	29
1.3.3 Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の追加設定	32
1.3.4 Virtual Machine Queues の無効化	33
1.3.5 UTC 設定の解除	34
1.3.6 メモリダンプの採取設定	35

1.3.7	使用する OS に合わせたシステム BIOS の設定	37
1.4	運用に必要なソフトウェア	38
1.4.1	Hitachi Server Navigator	38
1.4.2	Hitachi Compute Systems Manager	39
1.4.3	Hitachi RAID Navigator	39
1.4.4	Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)	39
1.4.5	Log Monitor Logger	39
1.4.6	IT Report Utility	40
2	運用に役立つ機能	41
2.1	ディスクアレイ	42
2.1.1	ディスクアレイとは	42
2.1.2	ディスクアレイの構築	43
2.2	冗長化できるユニット	44
2.2.1	電源ユニット	44
2.2.2	システムファン	45
2.3	省電力機能	46
2.3.1	パワーキャッピング機能	46
2.3.2	電力監視機能	47
2.4	Wake On LAN 機能	48
2.4.1	リモートパワーオン機能の概要	48
2.4.2	Wake On LAN 機能のサポート条件	48
2.4.3	Wake On LAN 機能使用の前提条件	49
2.4.4	Wake On LAN 機能使用上の注意	49
2.5	PXE ブート機能	50
2.5.1	PXE ブート機能の概要	50
2.5.2	PXE ブート機能のサポート条件	50
2.5.3	PXE ブート機能使用の前提条件	51
2.5.4	PXE ブート機能使用上の注意	51
2.6	メモリー RAS 機能	52
2.6.1	Independent 機能	52
2.6.2	Mirroring 機能	52
2.6.3	Sparing 機能	54
2.6.4	Lock Step 機能	57
2.6.5	SDDC	58
2.6.6	メモリースクラビング機能	59
2.7	LAN 拡張機能	60
2.8	リモートマネジメント機能	62
3	運用とメンテナンス	63
3.1	日常のメンテナンス	64
3.2	アップデートの確認と実施	65

3.3	アラートの確認	66
3.3.1	システム装置のランプ	66
3.3.2	通知アラート	67
3.3.3	SEL 情報	68
3.3.4	RC 一覧表示	68
3.3.5	OS イベントログ	69
3.3.6	ユーティリティなどによるエラー通知	69
3.4	クリーニング	70
3.4.1	システム装置をクリーニングする	70
3.4.2	キーボードをクリーニングする	71
3.4.3	マウスをクリーニングする	71
3.4.4	ディスプレイをクリーニングする	72
3.4.5	内蔵 DVD ドライブのクリーニング	72
3.5	バックアップ	73
3.5.1	ハードディスク / SSD / PCIe SSD のバックアップ	73
3.5.2	BMC 設定のバックアップ	73
3.5.3	システム BIOS 設定のメモ	73
3.6	有寿命部品と消耗品の交換	74
3.6.1	有寿命部品	74
3.6.2	定期交換部品（長期保守対応モデル / おまかせ安心長期保守モデル）	78
3.6.3	消耗品	78
3.7	困ったときには	79
4	トラブルシュート	81
4.1	こんな状態のときには	82
4.2	エラーメッセージが表示される場合の対処	85
4.2.1	システム BIOS エラーメッセージ	85
4.2.2	RAID BIOS メッセージ	95
4.3	ハードディスク / SSD 起動時のエラーの対処	103
4.4	ビープ音が鳴る場合	104
4.5	システム装置のランプがエラー表示する場合の対処	105
4.6	メモリダンプの採取	107
4.6.1	Windows 環境でメモリダンプを採取する	107
4.6.2	Linux 環境でメモリダンプを採取する	110
4.6.3	VMware 環境でメモリダンプを採取する	111
4.7	ハードウェア障害を連絡する	114
4.8	システム装置の強制オフとリセット	115
4.8.1	強制的に電源を切る	115
4.8.2	BMC リセット	116
4.8.3	アプリケーションの終了とリセット	116

4.9	ハードディスク／SSD／PCIe SSD に障害が発生したときの交換作業	117
4.10	電源ユニットに障害が発生したときの交換作業	119
5	保守作業後の設定	121
5.1	ネットワークアダプタの MAC アドレス変更	122
5.2	BMC 設定のリストア	123
5.3	BIOS の再設定	124
5.4	パワーキャッピングの再設定	125
5.5	Windows BitLocker の解除と再設定	126
5.6	TPM 使用時の Administrator パスワードの再設定	127
5.7	Windows ライセンスの再認証	128
5.8	UUID の再設定	129
5.9	HCSM の管理対象からの除外、追加	130
付録 A	ディスクアレイの分類と機能	131
A.1	ディスクアレイの分類	132
A.2	ディスクアレイの機能	138
付録 B	オープンソースソフトウェアのライセンス通知	143
B.1	ライセンス通知	144
索引	181

1

運用の前に

この章では、運用する前に理解しておきたい内容について説明します。

1.1 トラブルを避けるために	2
1.2 運用時の注意.....	6
1.3 運用前の設定.....	29
1.4 運用に必要なソフトウェア	38

1.1 トラブルを避けるために

システム装置を運用するうえで起こりうるさまざまなトラブルを回避するために、日常の保守として行っている内容に記載しています。

1.1.1 システムエラーのチェック

システム装置に何らかのエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されたり、ピープ音が鳴ります。トラブルを早期に解決するために、これらのアラートをすぐに確認できるようにしてください。

- ハードウェアのエラー
システム装置の STATUS ランプと「Hitachi Compute Systems Manager (HCSM)」によるエラー監視を行ってください。
→ [「3.3 アラートの確認」 P.66](#)
- ソフトウェアのエラー
イベントログの監視を定期的に行ってください。ソフトウェアでエラーが発生した場合、イベントログに記録されます。
システム装置に付属するソフトウェアのイベントログ確認は、それぞれのマニュアルをご参照ください。
→ [「1.4 運用に必要なソフトウェア」 P.38](#)

1.1.2 整合性検査（コンシステンシーチェック）の定期実行

ディスクアレイにおいて、ハードディスクはデータのリード／ライト処理時に不良ブロック（アクセス不可領域）を検出すると、自動的に交替処理（予備領域へのデータ移行）を実施します。しかしミラーデータ部に不良ブロックが存在した場合、および日々の業務でアクセスしない領域に不良ブロックが存在した場合、交替処理は実施されません。このような状態でハードディスクが故障した場合、ミラーデータが読み取れないため、正常にリビルドできず不良ブロック部のデータが消失してしまう可能性があります。RS220 AN2 モデルの場合は、パトロールリード機能により物理ドライブを定期的に、ベリファイまたは不良セクタの修復をするよう工場出荷時に設定しているため、定期的に整合性検査を実施する必要はありません。



パトロールリードが動作した場合、使用していない状態でもアクセスランプが点滅します。また、SATA タイプのハードディスク / SSD を使用している場合、アクセスランプが点灯状態になる場合があります。

1.1.3 ネットワークセキュリティ

近年、コンピュータウィルスを使ったシステムへの攻撃や、ハッキングなどによるデータの改ざん・流出が増加し、被害も深刻化しています。ウィルスに感染した場合、ご自身のシステム装置に影響を受ける（被害者）だけでなく、ネットワークを通じて不特定の対象に被害を与える（加害者）場合があります。感染するケースの多くは不用意なデータのダウンロードや、出所不明のデータメディアの使用といわれています。

感染を予防する手段としてウィルス対策ソフトや、不正なアクセスを遮断するファイヤーウォールの導入が有効です。ネットワーク接続を行うときは、同時にこれらの予防手段を導入していただくことを強くお勧めします。また、ウィルス対策ソフトは常に最新の状態にすることで安全性を維持することができます。導入後は定期的に次の項目を実施してください。

なお、ウィルス対策ソフトによってウィルスの感染が完全に防げるということではありません。ウィルスの感染を防ぐためのシステム構築・運用が重要になります。

…
補足

ウィルスの中にはネットワークに接続しているだけで次々に自分のコピーを送るものがあります。感染した場合は、二次感染を防ぐために即座に LAN ケーブルを抜き、ネットワークから独立させた状態で対処することをお勧めします。

■ システムスキャン

システム装置内にウィルスが潜伏していないかを定期的にチェックしてください。自動で定期的なスキャンできるスケジュール機能を備えたウィルス対策ソフトが便利です。

■ 最新データのダウンロード

日々進化するウィルスに対応するために、ウィルス対策ソフトは常に最新のバージョンにアップデートする必要があります。アップデートするデータとしてウィルスのパターンファイルと、ウィルス対策ソフト自体のバージョンがあります。その両方が侵入したウィルスに対応していない場合、発見または駆除できません。自動で定期的に最新のバージョンにアップデートできる環境をお勧めします。

ウィルス対策ソフトの使用方法是、お使いのウィルス対策ソフトに添付されるマニュアルをご参照ください。

1.1.4 Windows Update のチェック

Windows をお使いの場合、Microsoft 社では Windows に関する不具合や脆弱性に対して、追加の修正プログラムを公開しています。[スタート] メニューを使用して、「更新プログラム」を定期的に確認しインストールしてください。

1 [スタート] ボタンをクリックし、[すべてのプログラム] を選択します。

2 [Windows Update] をクリックします。

また、コントロールパネルからもアクセスできます。

1.1.5 データ・設定のバックアップ

(1) ハードディスク／SSD／PCIe SSD 内データのバックアップ

ハードディスク／SSD／PCIe SSDなどの記憶装置やUSB メモリーなどのデータメディアは、故障やフォーマットなどの誤った操作によって大切なデータを不意に失ってしまうことがあります。システムデータ（Windows フォルダ内のデータなど）が壊れた場合、OS やアプリケーションの再インストールおよびセットアップが必要になり、システムの復旧に長い時間を要することになります。

その対策として、バックアップデータをテープなどに保存しておくことで、データ消失時に速やかにバックアップ作成時の状態に戻すことができます。また、システム情報のバックアップデータを作成しておくことでシステムデータの破損時には、破損前の正常な状態に戻すことが可能です。定期的にバックアップを行うことをお勧めします。

バックアップの作成方法・復元方法は、Windows のヘルプをご参照いただくか、Microsoft 社ウェブサイトからバックアップについての技術ページを検索してご参照ください。また、バックアップソフトをお使いの場合は、ソフトに添付されるマニュアルをご参照ください。

■ Microsoft 社 Web サイト：<http://www.microsoft.com/ja-jp/default.aspx>

バックアップの重要性と方法については、次の Web サイトをご参照ください。

■ バックアップソリューション：<http://www.hitachi.co.jp/products/it/backup/>

(2) BMC 設定のバックアップ

システム装置の管理のために使用する設定データは、障害が発生した場合の復旧作業時に必要となります。

Web コンソールやリモートコンソールオプションを使用する場合は障害発生時に備え、設定変更時に Web コンソールのバックアップを実施し、紛失しないよう大切にデータを保管してください。

同様に、ハードウェアの構成変更を行った場合も、Web コンソールからシステム情報をバックアップしてください。

故障などによりシステム情報が失われても、リストアにより元の状態に戻すことができます。

バックアップの詳細については、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

(3) システム BIOS 設定のメモと保管

システム BIOS の設定情報は、障害が発生した場合の復旧作業時に必要となります。

システム BIOS の設定を工場出荷時の設定値から変更した場合は、障害発生時に備え、変更した設定項目と設定値を漏らさずメモし、紛失しないよう大切に保管してください。

設定値をメモして保管していない場合、保守作業後に設定を元に戻せません。

1.1.6 ドライバ・ユーティリティ・ファームウェアのアップデート

最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェア アップデートプログラムを「HA8000 ホームページ」で提供しております。

- ホームページアドレス： <http://www.hitachi.co.jp/Prod/comp/OSD/pc/ha/prod/catalog/index.html>

各アップデートプログラムの適用については、お客様責任にて実施していただきますが、システム装置を安全にお使いいただくためにも、ホームページの「ダウンロード」タブをクリックした「ダウンロード」ページにある「ドライバ・ユーティリティ ダウンロード検索」を定期的にアクセスして、最新のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアへ更新いただくことをお勧めします。

なお、『Hitachi Server Navigator』を適用することにより、最新版のドライバの有無を確認し、ダウンロードおよびアップデートを実施することが可能です。（BIOS とファームウェアを除く）

使い方の詳細は、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される「Hitachi Server Navigator」のマニュアルをご参照ください。

また、お客様による BIOS、ファームウェア アップデート作業が困難な場合は、有償でアップデート作業を代行するサービスを提供いたします。詳細は、お買い求め先にお問い合わせください。



「Hitachi Server Navigator」をご使用いただくと、ドライバ、ユーティリティの更新確認、ダウンロードおよびアップデートを自動的に行うことができます。
詳細は、『ユーザーズガイド』CD-ROM 内のマニュアルをご参照ください。

1.2 運用時の注意

システム装置を運用する際、注意すべき事項があります。「安全にお使いいただくために」P.x とあわせてお読みください。

1.2.1 一般的な注意

システム装置の運用において、注意が必要な一般的な事項をまとめています。記載内容を理解した上でシステム装置を運用してください。

(1) システム装置・周辺機器の使用環境

システム装置や周辺機器の使用環境について、次のとおりご注意ください。

- 暑い場所や寒い場所では、しばらく空調などを使用し室温が安定してからお使いください。
- 直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。
- ほこりが極端に多い場所では、使用しないでください。
- 極端に高温、低温の場所、または温度変化が激しい場所では使用しないでください。また、湿度が極端に高い場所では、使用しないでください。
- システム装置を使用する場所の近くで落雷が発生したり、電源の供給状態が悪い場合、使用中に瞬時停電や電圧低下が発生し、突然ディスプレイの表示が消えることがあります。このときは、一度システム装置の電源を切って起動し直してください。

(2) システム装置・周辺機器の取り扱い

システム装置や周辺機器の取り扱いについて、次のとおりご注意ください。

なお、リモートマネジメント機能である Web コンソールやリモート KVM を使用する場合は、注意については、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

- システム起動中や使用中に、POWER ランプスイッチを OFF にすると次回から立ち上がらないことがあります。この場合はお買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
- マウスの光センサー部に異物などが入ったときは、取り除いてください。異物が入るとマウスカーソルがなめらかに動かなくなります。
- システム装置に AC を入力後、操作パネルの STATUS ランプ1 / STATUS ランプ2 が緑 / アンバー点灯から消灯するまでは、電源を入れることはできません。STATUS ランプが消灯してから POWER ランプスイッチを押して電源を入れてください。
- システム装置の電源を切ってから入れるまでは、30 秒以上間隔を空けてください。またシステム装置への AC 供給を遮断（配電盤のブレーカ断や UPS のスケジュール機能による AC 出力 OFF など）してから再投入するまでは、30 秒以上間隔を空けてください。それぞれ必要時間を経過せずに行った場合、システム装置が立ち上がらないことがあります。
なお、電源を切る方法については、『ユーザーズガイド ～導入編～』をご参照ください。
- 内蔵デバイスの増設などシステム装置のカバーを外す作業はすべて保守員が行います。システム装置のカバーは取り外さないでください。

- システム装置および内蔵デバイスは、定期的なお手入れが必要となります。[「3.1 日常のメンテナンス」P.64](#)を参照し、お手入れを行ってください。
- システム起動中、キーボードリセット (Ctrl + Alt + Delete) を実行しないでください。システムエラーとなります。
- 内蔵 RDX (UR5310) を搭載している場合、内蔵 RDX にカートリッジを挿入した状態でシステム装置の電源を入れたり再起動したりすると、OS が起動しない場合があります。システム装置の電源を入れるときや再起動するときはカートリッジを挿入せず、OS を起動してから挿入してください。また、システム装置の電源を切る前にカートリッジを取り出すようにしてください。
- USB 機器をシステム装置に接続した場合、コネクタの接触不良などにより、OS から認識されない場合があります。認識されない場合は、一度システム装置から取り外し、再度取り付けてください。
- ネットワークインタフェースコネクタをネットワーク機器 (スイッチング HUB など) へ接続せず、直接ほかのシステム装置のネットワークインタフェースコネクタへ接続しないでください。通信できないおそれがあります。
- システム装置のシステムクロックは、月に 1 回の割合で時刻にずれがないか確認してください。また、高精度で運用したいときは、タイムサーバー (NTP サーバ) などを利用することをお勧めします。輸送後や長期に保管したあと、本機を再び運用するときも、運用の前にシステムクロックの確認、調整をしてください。
システムクロックを調整しても、時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じるときは、内蔵タイマーの故障のおそれがあります。お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

(3) システム情報のバックアップとメモ

- ハードウェアの構成変更および BMC の設定変更を行った場合、Web コンソールからシステム情報をバックアップしてください。
故障などによりシステム情報が失われても、リストアにより元の状態に戻すことができます。
バックアップの詳細については、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。
- システム BIOS の設定変更を行った場合、変更した設定項目と設定値を漏らさずメモして保管してください。
設定値をメモして保管していない場合、保守作業後に設定を元に戻せません。

(4) 使用時のエラー監視

システム装置は、使用中にエラーが発生してもブザーを鳴らす機能を持ちません。

ハードウェアエラーが発生した場合、システム装置前面の STATUS ランプ 1 が緑消灯または緑点滅したり、STATUS ランプ 2 がアンバー点灯またはアンバー点滅したりして、エラーを通知しますが、システム装置の近くで操作を行うオペレーターが居ない運用形態においては、エラー発生を見逃すおそれがあります。このため、「HCSM」と「Hitachi RAID Navigator」をインストールし、システム装置の管理・モニタリングを行ってください。

→ [「1.4 運用に必要なソフトウェア」P.38](#)

また、「HCSM」と Web コンソールのアラート通知機能を使用してエラー発生通知を受けるよう、運用されることをお勧めします。

(5) ACPI ステートのサポート状況

システム装置は、ACPI (Advanced Configuration and Power Interface) のステートのうち、「S0 (電源 ON)」と「S5 (電源 OFF)」をサポートしています。これら以外はサポートしていません。

このため、Windows ではスリープ、ハイブリッドスリープ、休止状態はサポート対象外となります。

(6) ラインインタラクティブ方式の UPS へ接続する場合の UPS 設定

システム装置をラインインタラクティブ方式（常時商用電源）の UPS に接続する場合、Sensitivity（電圧感度）設定を「Normal」に変更する必要があります。その他の設定で使用すると、停電発生時にシステム装置が異常停止することがあります。

対象となる UPS は、次のとおりです。

- GQ-SBURA120****（"*" は任意の英数字）
- GQ-SBURA150****（"*" は任意の英数字）
- GQ-SBURA300****（"*" は任意の英数字）
- GQ-SBURA500****（"*" は任意の英数字）

設定方法は、UPS のマニュアルをご参照ください。

(7) メモリダンプ

システムが無応答になり業務が停止した場合、原因究明のためにメモリダンプが必要となります。メモリダンプとは、障害が発生したときの物理メモリー上のデータをハードディスク上のファイルに保存したものであり、無応答障害時のシステムやアプリケーションの状態を調査するために使用します。

無応答障害発生時の調査のため、システムの運用前に「[1.3.6 メモリダンプの採取設定](#)」P.35 を参照し、メモリダンプを採取するよう設定してください。

メモリダンプの採取方法は、「[4.6 メモリダンプの採取](#)」P.107 をご参照ください。

(8) エラーや障害が発生したあとの再起動時に起こる仮想メモリ不足

エラーや障害が起きたあとに再起動すると、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

途中でリセットすると、メモリダンプが正しく保存できないことがあります。

(9) システムイベントログの記録方式

システム装置は、動作時の状況をメッセージとしてシステムイベントログ（SEL）に登録します。

SEL は保守作業時、障害状況の確認や解析に使用します。SEL を記録するための SEL 領域は有限のため、SEL 領域がフルになった場合の動作を設定する必要があります。SEL の記録方式は、次のとおりです。

- SEL の記録停止
- SEL の全クリア
- 古い SEL を上書き【推奨値：工場出荷時設定（デフォルト）】

本システム装置では、設定をデフォルト値の「古い SEL を上書き」のままお使いください。

なお、SEL の記録方式の設定は、Web コンソールから行います。

設定の詳細は、『ユーザズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。



SEL の記録方式を「古い SEL を上書き」以外に設定すると、SEL 領域がフルになったあとの SEL がすべて登録されないため、保守作業に支障が出るおそれがあります。

(10)TPM や Intel TXT を使用する場合の「Administrator Password」設定

TPM (Trusted Platform Module) や Intel TXT 使用時は、システム BIOS の「Administrator Password」に、管理者権限のパスワードを設定する必要があります。

設定方法については、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

また、パスワード設定後は、次の操作時にパスワードの入力が必要です。

- システム BIOS のセットアップメニュー起動時
- オフラインツール起動時



「Administrator Password」の使用は、TPM や Intel TXT 設定時のみサポートしています。これ以外の使用はサポート対象外となります。

万一、パスワードを忘れると、クリア作業が必要となります。パスワードを忘れた場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

(11)Fibre Channel ボード (CC7811/CC7812/CC7821/CC7822、CC7831/CC7832/CC7841/CC7842) の BIOS 設定

システム BIOS が UEFI ブートモードに設定されている場合、Fibre Channel ボード (CC7811/CC7812/CC7821/CC7822、CC7831/CC7832/CC7841/CC7842) の BIOS 設定を行う HBA-BIOS セットアップメニューは、UEFI ブートモードに対応していないため、表示されません。

この場合、システム BIOS のブートモードを一時的にレガシー (Legacy) に設定する必要があります。

レガシーブートモードでは、POST 画面から HBA-BIOS セットアップメニューを起動することができます。

HBA-BIOS の設定を行ったあと、ブートモードを UEFI に戻してください。

詳細については、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

(12)PCI ボードからブートする場合および PCI ボードの BIOS ユーティリティを使用する場合の設定

次の場合、システム BIOS のセットアップメニューから、PCI ボードを搭載している PCI スロットの Option ROM を「Enabled」に設定する必要があります。

- PCI ボードに接続されるデバイスから OS をブートする場合
(SAN ブート環境の Fibre Channel ボードなど)
- PCI ボードの BIOS ユーティリティを起動し、BIOS 設定をする場合

また、PCI ボードの BIOS ユーティリティの設定を行ったあと、この PCI ボードに接続されるデバイスからブートを行わない場合は、Option ROM を「Disabled」に戻す必要があります。

詳細については、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

(13) システムファンの回転数

システム装置の POST が継続した場合や、PCI ボードの BIOS ユーティリティを起動した場合には、約 10 分の間にシステムファンの回転数が段階的に速くなり、動作音が大きくなります。システムの動作に問題はありません。POST の完了または BIOS ユーティリティを終了させて、OS が起動し、一定の時間が経過するとシステムファンの回転数は元に戻ります。

すぐに、システムファンの回転数を元に戻すには、システム装置の電源をいったんオフしてからオンにしてください。

(14) BMC リセット時の注意

OS 稼働中に BMC リセット（BMC RESET スイッチを押す / Web コンソールの [BMC リセット] ボタンをクリックする）をした場合は、「Hitachi Server Navigator」の「Alive Monitor」や「Log Monitor」から BMC へ一時的にアクセスできなくなるため、次のメッセージが記録される場合があります。

<OS イベントログ>

- 「Alive Monitor」
イベントログ（Windows の場合）、および syslog（Linux/VMware の場合）メッセージ
メッセージ ID : SNVAM-065-E
メッセージ : Alive Monitor : There is no response from the hardware.
- 「Log Monitor」 - Windows 版
イベントログ
EventID : 1012
メッセージ : IPMI ツールの実行に失敗しました。(Failed to executing IPMI tool.)
- 「Log Monitor」 - Linux 版、VMware vMA 版
syslog メッセージ
[WARN] Failed to executing IPMI tool.

BMC リセット中、OS イベントログにこれらのメッセージが記録された場合には、特に対処は必要ありません。

…
補足

- 「Log Monitor」の上記イベントが 10 件に達していた場合は、BMC へのアクセスを再開させるために、「Log Monitor」のサービスを再起動してください。
- BMC リセット時には、Web コンソールの「システム」タブ [IPMI 情報]-[SEL] に次のイベントが記録されます。
イベント内容 : Record Type = C1h

(15) システム BIOS のメモリ容量について

OS 上で表示されるメモリ容量は、搭載メモリ容量からシステム BIOS が確保するメモリエリアの容量が除かれている場合があります。

システム BIOS が確保するメモリエリアの容量は、あらかじめ決まっている訳ではなく、システム起動時に必要になった容量を確保します。

このため、構成が同じ装置間であっても、OS 上で表示されるメモリ容量に違いがでることがあります。

1.2.2 Linux 運用上の注意

Linux 環境で運用する場合、次の内容にご注意ください。

(1) USB3.0 の無効化設定

USB コネクタ（フロント）1、2 と USB コネクタ（リア）1、2 は USB3.0 に対応していますが、RHEL6.8 や RHEL6.9、RHEL7.3 を除く Linux 環境下では、USB3.0 の動作をサポートしていません。

同様に、内蔵 RDX（UR5310）は、USB3.0 に対応していますが、RHEL6.8 や RHEL6.9、RHEL7.3 を除く Linux 環境では、USB3.0 をサポートしていません。USB3.0 を無効にして、USB2.0 でご使用ください。

USB3.0 の動作を無効にするためには、システム BIOS の「XHCI Mode」の設定を「Disabled」に変更する必要があります。

詳細については、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

※RHEL6.8 や RHEL6.9、RHEL7.3 においては、USB3.0 の動作をサポートしております。USB3.0 の動作を無効にする必要はありません。

1.2.3 VMware 運用上の注意

VMware 環境で運用する場合、次の内容にご注意ください。

(1) VMware vSphere ESXi インストール後の内蔵 RAID コントローラドライバ適用手順について

SAS 12Gbps 対応の内蔵 RAID コントローラ（ディスクアレイコントローラ）を搭載したシステムで次の条件に該当している場合、OS インストール後に追加でドライバを適用する必要があります。

…
補足

VMware vSphere ESXi 6.5 の場合は、適用対象外です。

▶ 作業が必要となる条件

- VMware vSphere ESXi 5.5 Update 3a 以降をご使用の場合
- VMware vSphere ESXi 6.0 Update 1a 以降をご使用の場合
- 推奨ドライバが『megaraid_sas』であり、Install CD（Custom Image）格納のドライバを使用する場合
- VMware 社ダウンロードサイトより入手した推奨ドライバへ更新する場合

最初に次の URL より、ご使用の VMware vSphere ESXi の『推奨ドライババージョン一覧』

カテゴリ『SAS-RAID』の内容をご確認いただき、内蔵 RAID コントローラのドライバ名称およびバージョンを確認してください。

- VMware vSphere ESXi 5.x 推奨ドライババージョン一覧 掲載先

http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/vmware/vmw_suggested_list.html

- VMware vSphere ESXi 6.x 推奨ドライババージョン一覧 掲載先

http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/vmware/vmw_suggested_list_esxi6.html

確認の結果、【作業が必要となる条件】に該当した場合は、次の URL 掲載の内容を実施してください。

- VMware vSphere® ESXi™ インストール後の内蔵 RAID コントローラドライバ適用手順について

http://www.hitachi.co.jp/products/it/server/portal/pcserver/vmware/vmw_mr_drv_chg.html

(2) vSphere Client の「健全性ステータス」表示

VMware の vSphere Client の「インベントリ」画面の構成タブで表示される、「ハードウェア」の「健全性ステータス」表示は、ハードウェア状態を示す参考としてご使用ください。

画面上で警告やエラー表示が出力された場合は、システム装置のランプ点灯状態の確認や、「Hitachi Compute Systems Manager」によるエラー監視を行ってください。

システム装置の STATUS ランプ 1 が緑消灯または緑点滅したり、STATUS ランプ 2 がアンバー点灯またはアンバー点滅したりした場合は、「4.5 システム装置のランプがエラー表示する場合の対処」P.105 を参照し対処してください。



システム装置にオプションの電源ユニットまたはシステムファンを搭載しておらず、それぞれ冗長構成ではない場合、vSphere Client の「健全性ステータス」において次のセンサーが「Redundancy lost」（冗長性の失効）となり、ステータスが「警告」と表示されます。

- ・「電源」センサーの Power Unit の Redundancy

冗長構成が可能なコンポーネントでありながら冗長化されていないため、上記表示となりますが、エラーではありません。この場合表示を無視してください。

なお、電源ユニットにおいてエラーが発生した場合、「電源」のステータスは「アラート」と表示されます。

(3) RAID 管理ユーティリティ「RAID Utility (StorCLI) for VMware」インストールのお願い

VMware を使用する場合、RAID 管理ユーティリティ「RAID Utility (StorCLI) for VMware」をインストールしてください。

「RAID Utility (StorCLI) for VMware」がインストールされていない場合、物理ドライブの 1 台故障時において、オンラインでの保守交換作業を行うことができません。

「RAID Utility (StorCLI) for VMware」は、「HA8000 ホームページ」の「ドライバ・ユーティリティ ダウンロード検索」からダウンロードしてください。

→ 「1.1.6 ドライバ・ユーティリティ・ファームウェアのアップデート」P.5

インストールファイルの検索は「キーワード検索」が便利です。「装置（必須）」で "HA8000" を選択し、キーワードに "StorCLI" を入力して検索してください。

(4) USB の動作速度

USB コネクタ（フロント）1、2 と USB コネクタ（リア）1、2 は USB3.0 に対応していますが、VMware vSphere ESXi5.5 環境下では USB2.0 で動作します。

(5) 内蔵ハードディスクの制限

VMware vSphere ESXi 5.5 / VMware vSphere ESXi 6.0 を使用する場合、内蔵ハードディスク (UH71800BB1、1.8TB:10000r/min) は処理パフォーマンスが低下するおそれがあるため、サポートしていません。

(6) vSphere FT(Fault Tolerance) 機能の注意事項

VMware の vSphere FT 機能を使用する場合、注意事項があります。

詳細については、「日立サポート 360」の OS サポートサービスから入手する VMware vSphere 各種資料をご参照ください。

なお、vSphere FT のサポート OS バージョンは、VMware vSphere ESXi 6.5 / VMware vSphere ESXi 6.0 のみです。

(7) HDD エラー監視サービスについて

HDD エラー監視サービスは、内蔵 HDD 障害による I/O 遅延を最小限に抑止するための内蔵 RAID コントローラ用のユーティリティとなります。内蔵 RAID コントローラを搭載したシステムの場合、HDD エラー監視サービスを導入いただくことを強く推奨します。

VMware ESXi5 または VMware ESXi6 用 HDD エラー監視サービスは以下 URL からダウンロードしてください。カテゴリ " ユーティリティ (ディスクアレイ)" で検索してください。

http://www.hitachi.co.jp/cgi-bin/products/it/server/bladesymphony/dlserch_rev1/dlserch.cgi

1.2.4 LAN 機能の注意

LAN に提供される機能を使用する場合、次の内容にご注意ください。

(1) TCP Checksum Offload 機能

システム装置の LAN 拡張カード (標準: 1G 4 ポート) および LAN ボード (CN7729/CN7730/CN7743/CN7744) (以下 ネットワークアダプタ) は、TCP/IP プロトコルのチェックサム計算をネットワークアダプタ上の LAN コントローラにて実施する機能を持っていますが、本機能は用いずに OS 側で標準的に備えている TCP/IP のチェックサム計算機能をお使いになることを推奨します。

OS 側で計算するように設定した場合、OS のプロトコル処理の最終段階で、ネットワークから受信したパケットデータの整合性確認が行われることになり、より信頼性の高いシステムを構築いただけます。

LAN コントローラの TCP Checksum Offload 機能をオフにする手順は、[「1.3.2 TCP Checksum Offload 機能の無効設定」 P.29](#) をご参照ください。

なお、LAN 拡張カード (標準: 10G 2 ポート + 1G 2 ポート) および LAN ボード (CN7825/CN7826/CN7845/CN7846/CN7847/CN7848/CN7652/CN7653) の場合は、LAN ドライバのパラメータをデフォルトの設定値から変更しないでください。ネットワーク性能に影響を与える場合があります。

(2) Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の制限

Linux で 10GBASE-SR/10G SFP+ Direct Attach 接続 / 10GBASE-T 仕様の LAN を使用する場合、ドライバやシステム構成によって、不具合を回避するために追加設定が必要となります。

[1.3.3 Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の追加設定] P.32 を参照し、設定してください。

(3) Hyper-V 環境下の Virtual Machine Queues 設定

Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 使用時、Hyper-V の仮想ネットワークに、"Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #x"（#x は表示されないまたは任意の数字）と表示されている物理ネットワークを割り当てる場合、Virtual Machine Queues が有効になっていると通信遅延が発生するおそれがあります。

[1.3.4 Virtual Machine Queues の無効化] P.33 を参照し、Virtual Machine Queues を無効に設定してください。

(4) VMware vSphere ESXi 6.5 環境で 1G LAN を使用する場合の制限

VMware vSphere ESXi 6.5 環境で、LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート）および LAN ボード（CN7729/CN7730/CN7743/CN7744）を使用して速度固定を行う場合は、事前に次のコマンドを実行しドライバを切り替えてください。

1 ドライバ切り替え

```
# esxcfg-module -d ntg3
# reboot
```

2 ドライバ切り替えの確認

リブート後に次のコマンドを実行し出力結果を確認します。

```
# esxcfg-module -l | grep ntg3
ntg3 Not Loaded
```

Not Loaded と表示されること。

LAN ボードの速度固定を解除する場合は、速度固定を解除したあと、次のコマンドを実行しドライバを切り戻してください。

1 ドライバ切り戻し

```
# esxcfg-module -e ntg3
# reboot
```

2 ドライバ切り戻しの確認

リブート後に次のコマンドを実行し出力結果を確認します

```
# esxcfg-module -l | grep ntg3
ntg3 x xxx
```

ntg3 と表示されること（Not Loaded と表示されていないこと）。

“x” の数値は環境によって異なります。

1.2.5 UTC 設定の注意

Linux および VMware を使用する場合、システムクロックと UTC (Universal Time, Coordinated : 協定世界時) 設定について注意する必要があります。



UTC (協定世界時) は、JST (Japan Standard Time : 日本標準時) から 9 時間遅れた時間です。

(1) RHEL7 の場合

RHEL7 はシステム BIOS の時刻が UTC (協定世界時) に設定されていることを前提に動作しています。このため、RHEL7 をインストールするシステム装置は、システム BIOS の時刻を UTC に設定する必要があります。

システム装置出荷時は、システム BIOS の時刻を JST (Japan Standard Time : 日本標準時) に設定しています。インストール時にシステム BIOS の時刻を UTC に設定しなかった場合、OS で表示される時刻が JST より 9 時間進みます。

なお、RHEL7 の運用時、システム BIOS の時刻が JST ではなく UTC となるため、次のイベントの発生日時も UTC で表示されます。運用時に注意してください。

- BMC で管理する時刻
- 「Hitachi Compute Systems Manager」に通知されるアラートの発生日時
- Web コンソール上で表示または取得されるログ (システムイベントログなど)
- メール通報 (送信時刻) および SNMP 通報

(2) RHEL6 の場合

RHEL6 はシステムクロックに UTC (協定世界時) を使用することができますが、次のような問題が発生する場合があります。

- システム BIOS のセットアップ画面で表示される時刻が、OS の表示時刻と異なる時刻が表示されます。
- システム装置 のハードウェア保守で使用されるイベントの発生時刻が OS の表示時刻と異なるため、障害解析時に支障をきたす場合があります。(例「RC 一覧表示」など)

上記の問題が発生するため、UTC が設定されている場合は設定を解除してください。設定の確認方法および設定方法は、「[1.3.5 UTC 設定の解除](#)」P.34 をご参照ください。

(3) VMware の場合

VMware は、システム BIOS の時刻が UTC（協定世界時）に設定されていることを前提に動作しています。このため、ESXi をインストールするシステム装置（ESXi ホスト）は、システム BIOS の時刻を UTC に設定する必要があります。

システム装置出荷時は、システム BIOS の時刻を JST（Japan Standard Time：日本標準時）に設定しています。インストール時にシステム BIOS の時刻を UTC に設定しなかった場合、vSphere クライアントで表示される ESXi ホストの時刻が JST より 9 時間進みます。vSphere クライアントから時刻を JST に設定してください。システム BIOS に設定が反映され、システム BIOS の時刻は UTC となります。

… 補足

- vSphere クライアントは、vSphere クライアントを起動している PC のタイムゾーンを認識し、ESXi ホストのシステム BIOS から得た UTC を元に時刻を補正して現地時間（ローカルタイム）を表示します。
たとえば、UTC が "9:00" で、vSphere クライアントを起動している OS のタイムゾーンが日本時間（UTC + 9 時間）の場合、vSphere クライアントの時刻表示は "18:00" となります。
- VMware 代行インストールモデルは、出荷時にシステム BIOS の時刻を UTC に設定しています。

なお、VMware の運用時、システム BIOS の時刻が JST ではなく UTC となるため、次のイベントの発生日時も UTC で表示されます。運用時に注意してください。

- BMC で管理する時刻
- 「Hitachi Compute Systems Manager」に通知されるアラートの発生日時
- Web コンソール上で表示または取得されるログ（「IPMI 情報」－「SEL」など）
- メール通報および SNMP 通報（送信時刻）

1.2.6 ディスクアレイの注意

ディスクアレイの構築や運用で注意すべき事項を説明します。

なお、OS のソフト RAID 機能を使ってディスクアレイを構築する PCIe SSD については、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』、OS のヘルプ、OS サポートサービスの Web サイトをご参照ください。

通知

- ディスクアレイであっても、物理ドライブ以外の故障やソフトウェアの暴走、操作ミスによるデータの消失は防ぐことはできません。万一来、システムのデータのバックアップをお取りください。
- ディスクアレイが縮退モードで動作中のとき、さらに物理ドライブが故障すると、ディスクアレイはデータのリビルドができなくなり、データをすべて消失します。障害物理ドライブはすぐに交換して、リビルドを行ってください。

(1) ディスクアレイの運用

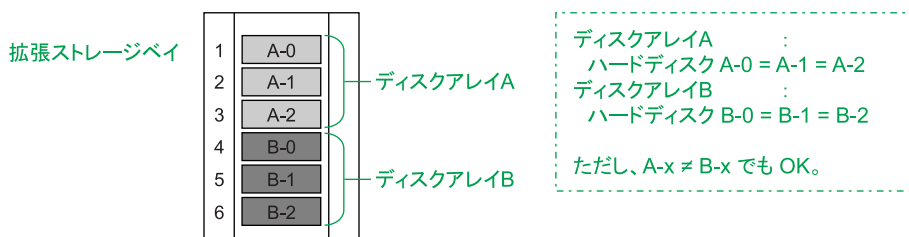
ディスクアレイの運用には管理ツールが必要です。また、システム BIOS のブートモードによって異なるディスクパーティションに注意が必要です。

- システム装置のディスクアレイの運用には、状態を監視・管理するツールとして「Hitachi RAID Navigator」が必要です。詳細は、「[1.4 運用に必要なソフトウェア](#)」P.38 をご参照ください。
→管理ツールのマニュアルは、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納されています。
- システム装置は UEFI(Unified Extensible Firmware Interface)ブートモードおよびレガシー(Legacy)ブートモードをサポートしています。
UEFI ブートは、ディスクパーティションテーブルが GPT (GUID Partition Table) でフォーマットされます。
GPT が認識可能な最大容量は 256TB (NTFS の実装上制限による) であり、レガシーブートでフォーマットされる MBR (Master Boot Record) の 2TB (2199GB) と比較して大容量のブートパーティションサイズを確保できます。このため、OS をインストールするディスクアレイの論理ドライブ容量は、実用上の制限がありません。
レガシーブートは、MBR でフォーマットされ、認識可能最大容量が 2TB (2199GB) になります。
このため、OS をインストールするディスクアレイの論理ドライブ容量は 2TB (2199GB) を超えないように設定してください。超えてしまった場合、OS からパーティションが作成できなくなります。RAID 管理ツールや RAID BIOS からディスクアレイの論理ドライブを構築し直してください。

(2) 搭載するハードディスク／SSD

1 つのディスクアレイに使用するハードディスクおよび SSD は、容量および回転数をすべて同じにしてください。

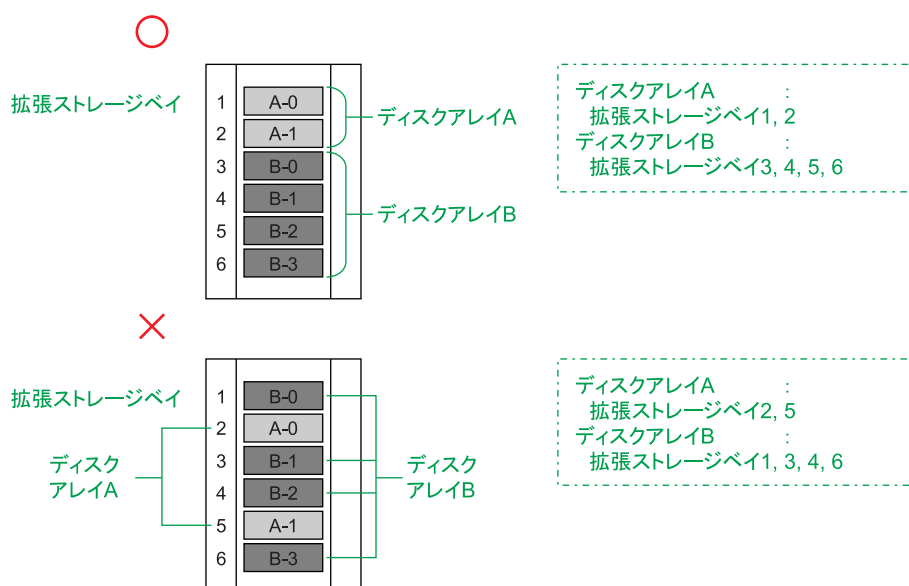
システム装置に 2 つ以上のディスクアレイを構築する場合、それぞれのディスクアレイに使用するハードディスクや SSD の容量が異なってもかまいません。ただし、リザーブディスクが存在する場合は運用上注意すべきことがあります。詳しくは「(4) リザーブディスク (ホットスペア)」P.19 をご参照ください。



(3) ハードディスク／SSD の搭載位置

1 つのディスクアレイに使用するハードディスクおよび SSD は、システム管理を考慮して、連続する拡張ストレージベイに取り付けてください。また、ディスクアレイと論理ドライブの構成を記録しておくことをお勧めします。

ただし、障害が発生すると、リザーブディスクが存在する場合は搭載位置が変わっていきます。そのため、そのつど記録を残すようにしてください。



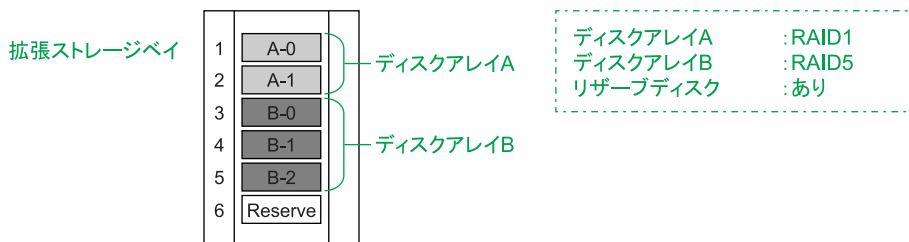
(4) リザーブディスク（ホットスペア）

リザーブディスクは、使用するディスクアレイのディスクタイプと合わせ *1、さらにハードディスクまたは SSD と同じ容量および回転数のものを取り付けてください。ディスクアレイが複数ある場合は、それぞれのディスクアレイにリザーブディスクを用意し、「専用ホットスペア」に設定することをお勧めします。

*1：ハードディスクで構成されるディスクアレイに対してはハードディスクを、SSD で構成されるディスクアレイに対しては SSD をリザーブディスクとして取り付けます。異なるディスクタイプに対してはリザーブディスクとして設定されません。

「グローバルホットスペア」に設定する場合は、ディスクアレイに使用しているハードディスクまたは SSD のうちもっとも容量の大きいものに合わせて取り付けてください。

ただし、ディスクアレイが 2 つ以上ある場合にリザーブディスクを「グローバルホットスペア」として設定していると、次のようなことが起こりますので、運用時には十分注意してください。ここでは、次に示すディスクアレイを例に説明します。

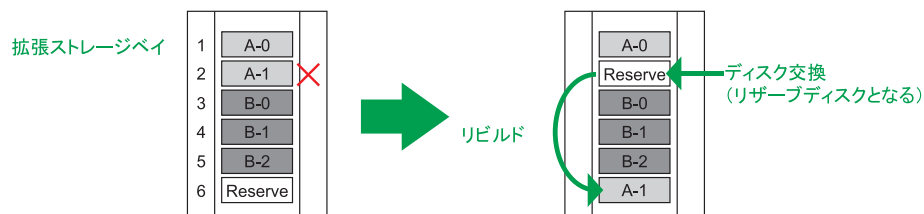


◆ RAID レベルが 1,5,6,10 いずれかの論理ドライブが 2 つ以上の場合

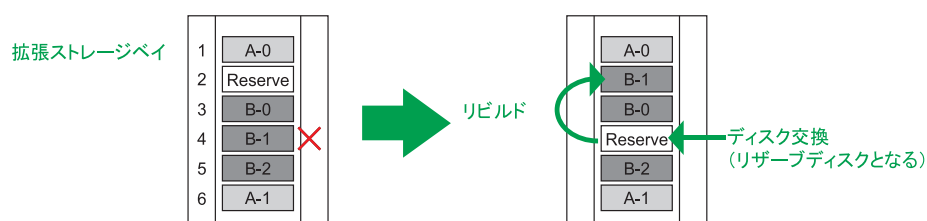
リザーブディスクはどちらのディスクアレイでもホットスペアとして機能します。

物理ドライブのホットスペアにより、次のような構成に変わり得ます。

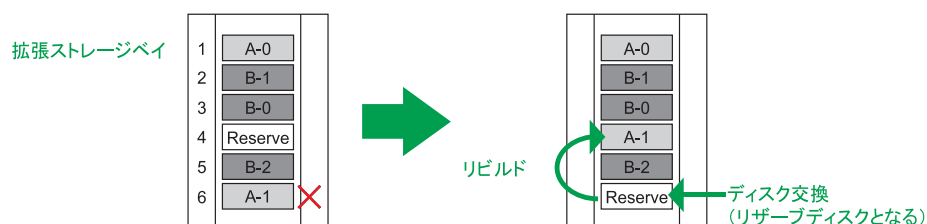
A ディスクアレイ A のハードディスク A-1 に障害が発生



B ディスクアレイ B のハードディスク B-1 に障害が発生



C ディスクアレイ A のハードディスク A-1 に障害が発生



以上のホットスペアの結果、最初の構成と同じ位置にリザーブディスクがありますが、ディスクアレイのデータディスクは A-1 と B-1 が入れ替わってしまいます。つまり、ディスクアレイを構成する物理ドライブは、どの位置にも入れ替わる可能性があります。

このことから、システムを管理するうえで、障害発生時にはそのつど物理ドライブの構成位置を記録するようにしてください。

◆ ディスクアレイ A、B で使用している物理ドライブの容量が異なる場合

リザーブディスクの容量によっては、ホットスペアが機能しない場合があります。

リザーブディスクの容量でホットスペアは、次のようになります。

ただし、ここではディスクアレイ A < ディスクアレイ B (A-x < B-x) として説明します。

■ リザーブディスクが B-x と同容量の場合

リザーブディスクは、ディスクアレイ A と B のどちらでもホットスペアとして機能します。

ただし、ディスクアレイ A でのホットスペアの場合（「RAID レベルが 1,5,6,10 いずれかの論理ドライブが 2 つ以上の場合」P.20 では A と C の場合）、リザーブディスクの容量はディスクアレイ A で使用している物理ドライブ A-x よりも大きいため、リビルド後の物理ドライブには使用していない領域（一切使用できない、無駄な領域）が存在することになります。

■ リザーブディスクが A-x と同容量の場合

リザーブディスクは、ディスクアレイ A でのみホットスペアとして機能し、ディスクアレイ B では機能しません。

リザーブディスクの容量はディスクアレイ B で使用している物理ドライブ B-x よりも小さいため、データをディスクに復元することはできません。そのため、ディスクアレイ B は、縮退モードのままとなります。

以上のことを防ぐには、ディスクアレイの容量を合わせるか、またはリザーブディスクをそれぞれに 1 台用意する必要があります。なお、障害発生時に使用されるリザーブディスクの優先順位は、

1. 障害ディスクと同容量のリザーブディスク
2. Device ID が小さいリザーブディスク（ストレージベイ No. の順）

となります。

1.2.7 使用する OS のブートモードの注意

システム装置がサポートするブートモードは、次のとおり、使用する OS により異なります。

■ UEFI ブート

システム装置は、Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 / RHEL7.3 (64-bit x86_64) / RHEL7.2 (64-bit x86_64) / RHEL6.9 (64-bit x86_64) / RHEL6.8 (64-bit x86_64) / RHEL6.7 (64-bit x86_64) 使用時のみ UEFI ブートをサポートしています。ブートモードはデフォルトで UEFI ブートになっていますので、そのままの設定で OS インストールを行ってください。

■ レガシーブート

システム装置は、Windows Server 2008 R2 / VMware vSphere ESXi 6.5 / VMware vSphere ESXi 6.0 / VMware vSphere ESXi 5.5 のみレガシーブートをサポートしています。ブートモードはデフォルトが UEFI ブートになっているため、レガシーブートに設定したあとに OS インストールを行ってください。

ブートモードを変更するにはシステム BIOS から設定します。

設定方法は、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

1.2.8 USB Flash Module の注意

USB Flash Module には、特性などから運用上注意すべき事項があります。

なお、USB Flash Module のサポート OS バージョンは、VMware vSphere ESXi 5.5 / VMware vSphere ESXi 6.0 / VMware vSphere ESXi 6.5 です。

■ システム BIOS のブート優先順位

VMware vSphere ESXi を USB Flash Module (FK7B4GAEX) にインストールする場合、ブート優先順位の設定を変更する必要があります。

詳細は、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

■ データの書き換え可能回数

USB Flash Module はデータの書き換え可能回数に制限のある製品です。書き換えが頻繁に発生する使用環境では、書き換え可能回数の上限に到る可能性があります。書き換え可能回数を超えて使用すると、データを消失するおそれがあります。このため、構築・構成変更時には VMware vSphere ESXi の構成情報のバックアップを行ってください。

詳細は、『USB Flash Module 取扱説明書』をご参照ください。

1.2.9 内蔵デバイスの注意

内蔵デバイスには、特性などから運用上注意すべき事項があります。
標準搭載される内蔵 DVD-RAM については、デバイスのマニュアルをご参照ください。

(1) 内蔵 SSD / 内蔵 PCIe SSD の取り扱い

内蔵 SSD / 内蔵 PCIe SSD は、そのデバイスの特性から次のことに注意して運用してください。
なお、内蔵 PCIe SSD については、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』をあわせてご参照ください。

- SSD は半導体記録素子であるフラッシュメモリーを使用した記憶装置です。
ハードディスクが媒体に磁気記録する方式に対して、SSD は不揮発性の半導体記録素子であるフラッシュメモリーに記録する方式です。
SSD はランダムアクセス性能と耐衝撃、低消費電力の点で優れていますが、書換容量制限があり、保守サービス期間の 5 年以内であっても、想定を上回る書き換えが頻繁に発生する使用環境下では、最大書換容量制限に至る場合があります。
最大書換容量に到達すると、SSD は書換抑止モード（Read Only モード）に移行します。
定期的に残りの書換容量を監視し、Read Only モードに移行する前に予防交換してください。
予防交換については有償 *1 となりますので、お買い求め先または保守会社にご連絡ください。
また、使用されているフラッシュメモリーは、MLC（Multiple Level Cell）タイプであるため、最大書換容量制限を超えて寿命に至った場合、電源を切って長時間放置すると記録された電荷が放電され、データが消える特性があります。
- SSD はハードディスクとは異なり、デフラグツールを使用しディスクの最適化を行うと、SSD の寿命を縮めるおそれがあります。SSD をお使いの場合は、デフラグツールを実行しないでください。
- RAID 管理ツールに Hitachi RAID Navigator を使用している場合は予備領域の残容量を認識できます。
想定を超える書換回数により、予備領域の残容量が少なくなり、最大書換容量制限に近づいた SSD は Hitachi RAID Navigator からアラートを通知します。アラートが通知された場合は、有償交換 *1 となりますので、お買い求め先または保守会社にご連絡ください。

*1: 内蔵 SSD / 内蔵 PCIe SSD の形式の違いにより、有償 / 無償の扱いは異なります。
→ 「3.6.1 有寿命部品」 P.74

(2) 内蔵 PCIe SSD の搭載位置と RAID 機能

内蔵 PCIe SSD の搭載位置と RAID 機能は、従来の内蔵ハードディスク / 内蔵 SSD とは異なるため、次のことに注意してください。

また、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』もあわせてご参照ください。内蔵 PCIe SSD 用ユーティリティのインストール、追加設定、注意事項なども記載されています。

- 2.5 型 PCIe SSD キット (ES7565EX) により増設した拡張スロットベイ 9、10、11、12 は内蔵 PCIe SSD 専用のため、内蔵ハードディスク / 内蔵 SSD の搭載はサポートしていません。
また、拡張スロットベイ 1、2、3、4、5、6、7、8 は内蔵ハードディスク / 内蔵 SSD 専用のため、内蔵 PCIe SSD の搭載はサポートしていません。
- 内蔵 PCIe SSD は OS ブート領域としての使用をサポートしていません。データ領域専用としてお使いください。
- 内蔵 PCIe SSD は OS のソフト RAID 機能である RAID0 (ストライピング) と RAID1 (ミラー) をサポートしています。
なお、RAID5 はサポートしていません。
- 内蔵 PCIe SSD はホットプラグをサポートしていません。障害の発生した内蔵 PCIe SSD を交換する場合は、システム装置の電源を切り、電源コードをすべて抜いた状態で交換する必要があります。

- 内蔵 PCIe SSD のデータリビルドは自動で行われません。詳細は、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』をご参照ください。

(3) 内蔵 DVD-ROM の取り扱い

ドライブとディスクは、次のとおり取り扱ってください。

◆ドライブの取り扱い

- ディスクをドライブに装着する際に**トレイは完全に引き出した状態**で、ディスクのリング（透明な中心部分）を押してください。
ディスクの中心部を強く押すとレンズに当たりデータが正常に再生できなくなります。
- ドライブを長くお使いいただくために温度環境は 30℃以下の場所での使用をお勧めします。
- 本ドライブを使用中に強い衝撃を与えないでください。
- ディスクを入れたり取り出したりするとき以外に、ドライブのトレイを開けないでください。
- トレイを出した状態において長時間放置しないでください。ドライブ内部にほこりが入りメディアリードエラーの原因となります。
- メディアリードエラーが発生したときはクリーニングを行ってください。
→ [「3.4.5 内蔵 DVD ドライブのクリーニング」P.72](#)
- レンズに触れないでください。データが正常に再生できなくなります。
- 本ドライブは、書き込み機能を有していません。

◆ディスクの取り扱い

通知

ディスクは本書および、ご使用のディスクの取扱説明書をよくお読みのうえご使用ください。正しく取り扱わないとデータの再生が正常に行われず、データが消失したり、ドライブが破損したりするおそれがあります。

- ディスクを落としたり、重ねたり、ディスクの上に重いものを載せるなど、強い衝撃を与えないでください。
- ディスクをお手入れするときは、乾いた柔らかい布でディスクの中心から外周に向けて放射状に拭いてください。このとき、ベンジン、シンナー、水、レコードクリーナー、静電気防止剤、シリコンクロスなどで拭かないでください。
- ディスクからゴミや水分を取り除くのにドライヤーは使わないでください。
- ディスクを折ったり曲げたりしないでください。
- ディスクに字を書いたり傷を付けないでください。
- ディスクにラベルなどを貼らないでください。
- 小さなお子様がディスクを傷つけたりしないよう、手の届かないところに保管してください。
- ディスクを長時間直射日光の当たる場所や高温の場所、湿度の高い場所に放置しないでください。
ディスクが変形し、データが正常に再生できなくなります。
- ディスクの信号記録面に触れないでください。ディスクが汚れると、データが正常に再生できなくなります。
- ディスクをドライブに装着したままにすると、装置の寿命が短くなったり、データが破壊されることがあります。必要時以外はディスクを装置から取り出してください。
- ディスクは使用後、専用のケースに入れて保存してください。

- 本ドライブの使用、または故障により生じたデータの損失ならびに、その他直接／間接の損壊につきましては、弊社は一切責任を負いかねます。重要なデータに関しては、複数のディスクに退避するなど、万が一に備えて常にバックアップを行っていただくことを推奨します。

1.2.10 Hitachi Compute Systems Manager (HCSM) 使用時の注意

(1) HCSM マネージャの上限数

「HCSM」は、SMASH-CLP のサービスを使用して通信を行います。また、SMASH-CLP は、SSH の通信プロトコルを使用します。

SMASH-CLP については、『ユーザズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

HA8000 に接続している SSH のセッション数が上限数に達し、処理を継続できなかった場合に、「HCSM」の画面に次のメッセージが表示されます。

KASV31803-E

処理を続行できません。

HA8000 の {*} へ接続しているソフトウェアの数が上限数に達しているため、処理が続行できません。

HA8000 の {*} へ接続している不要なソフトウェアを切断してから、再実行してください。

("*" は、"BMC" または "LOM" が表示されます。)

また、すでに HCSM マネージャへ接続する数と SMASH-CLP の使用数の合計が、上限数に達しているため、アラート送信先の登録が拒否された場合は、「HCSM」の画面に次のメッセージが表示されます。

KASV31800-E

指定した管理対象にログインできません。

HA8000 に、ほかの Compute Systems Manager の設定が上限数まで登録されているため、

アラート送信先の登録が拒否されました。

ほかの Compute Systems Manager の登録で不要なものを削除してから、再実行してください。

アラート送信先の登録を削除する方法は、該当する機種の手冊を確認してください。

これらのメッセージが表示された場合は、使用しない HCSM マネージャの登録を削除してください。また、HCSM のサービスが起動した状態で、SMASH-CLP のコマンドを使用しないでください。

なお、HCSM マネージャの登録を削除する前に、マネージャ側の IP アドレスを変更すると、削除ができません。BMC への HCSM マネージャの登録は、マネージャの IP アドレス設定後に管理されており、ログイン中のマネージャからのみ削除が可能です。この場合は、『Hitachi Server Navigator』DVD に格納されている「BMC Alert Register」を使用し、使用しない HCSM マネージャを削除してください。

「BMC Alert Register」の詳細については、『ユーザズガイド』CD-ROM に格納されるマニュアルをご参照ください。

…
補足

HCSM マネージャの上限数に達しないようにするには、次のとおり運用してください。

- 本システム装置を複数の HCSM で同時に管理しないでください（本システム装置に対して複数の HCSM から同時に、サーバ情報の更新やリソースの探索、または、電源操作を実行しないでください）。
- 本システム装置を管理している HCSM のサービスが起動した状態で、「BMC Alert Register」を使用しないでください。「BMC Alert Register」は、システム装置を HCSM の管理対象に追加する前か、HCSM のサービスを停止した状態で実行してください。
- 本システム装置を管理している HCSM のサービスが起動した状態で、SMACH-CLP のコマンドを使用しないでください。
- 本システム装置に対して、同時に複数の端末から SMASH-CLP のコマンドを使用しないでください。

(2) 必要なソフトウェアと HCSM の設定

本システム装置が Windows 環境または Linux 環境の場合は、漏れなく Hitachi Server Navigator - Log Monitor Logger（以下、Logger）をインストールしてください。また、VMware 環境の場合は、Hitachi Server Navigator - Log Monitor（以下、Log Monitor）の vMA 版または Linux ゲスト OS 版をインストールしてください。

Logger は、『Hitachi Server Navigator』DVD-ROM に格納されています。本システム装置では、Logger は Windows 用と Linux 用を提供しています。Log Monitor vMA 版または Linux ゲスト OS 版のインストールは、「HA8000 ホームページ」の「ドライバ・ユーティリティ ダウンロード検索」からダウンロードしてください。→「[1.1.6 ドライバ・ユーティリティ・ファームウェアのアップデート](#)」P.5

また、本システム装置で HCSM から次の操作を行う場合は、HCSM において電源管理のタイムアウト時間の設定をデフォルト設定値から変更してください。

- OS 起動
最大待ち時間 2100 秒（デフォルト設定値：1800 秒）
- OS シャットダウン
最大待ち時間 660 秒（デフォルト設定値：300 秒）
- 強制電源 OFF
最大待ち時間 660 秒（デフォルト設定値：180 秒）
- サーバ起動
最大待ち時間 780 秒（デフォルト設定値：480 秒）
- サーバ電源リセット
最大待ち時間 660 秒（デフォルト設定値：360 秒）

HCSM からのタイムアウト時間の設定方法は、次のとおりです。

- 1 [管理] タブから [システム設定] を選択します。
- 2 [タイムアウト] をクリックします。
- 3 [タイムアウト設定編集] をクリックします。
- 4 上記の最大待ち時間の値を秒単位で指定し、[OK] をクリックします。

新しい設定を確認するには、[管理] タブを選択し、[システム設定] - [タイムアウト] の順にクリックします。

Logger あるいは Log Monitor vMA 版をインストールしておらず、さらに HCSM の電源管理のタイムアウト時間を変更していない場合、システム装置に対する HCSM の処理（電源制御、リソースの探索、情報のリフレッシュなど）が失敗することがあります。

また、電源制御の成功、失敗にかかわらず、タスクの状態が [失敗] になることがあります。

(3) SMASH-CLP コマンドおよび HCSM タスク実行時の制限

本システム装置に対し SMASH-CLP のコマンドを実行した場合、「Discovery in progress. Please wait....」が表示されたままでコマンドが実行されない場合があります。この場合には、5 分以上待ったあと再度実行してください。

SMASH-CLP については、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

また、HCSM 上で本システム装置に対するタスクとして、サーバ情報の更新、リソースの探索、電源操作（電源オン／電源オフ／リセット）を要求すると、これらのタスクがまれに失敗する場合があります。

この場合、HCSM の [タスク&アラート] - [タスク] - [履歴] からタスクの詳細を確認すると、失敗したサーバのメッセージ欄に次のメッセージが表示されることがあります。

KASV30040-E

処理を続行できません。

リソースから予期しない応答がありました。

次の対処をしてください。

1. リソースが BladeSymphony または HA8000 であることを確認してください。

BladeSymphony または HA8000 でない場合は、特に対処は不要です。

2. Compute Systems Manager サーバとリソースが通信できることを確認してください。

(* メッセージの内容は、HCSM のバージョンにより異なる場合があります。)

サーバ情報の更新、リソースの探索、電源操作で失敗した場合は、5 分以上待ったあと、失敗したサーバに対して再度操作を実行してください。

また、電源操作時に上記のメッセージが表示された場合は、5 分以上待ったあと対象サーバの情報を更新し、もし電源操作ができていなかったときは、対象サーバに対して電源操作を再度実行してください。

繰り返しエラーが発生する場合には、メッセージ内容に従って対処してください。

メッセージ内容に従って対処しても繰り返しエラーが発生する場合には、BMC のリセットを実行してください。BMC のリセット方法については、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。BMC のリセットを実行してもエラー発生する場合は、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

… 補足

SMASH-CLP のコマンドや HCSM のタスクの失敗が発生しないようにするには、次のとおり運用してください。

- 本システム装置を複数の HCSM で同時に管理しないでください(本システム装置に対して複数の HCSM から同時に、サーバ情報の更新やリソースの探索、または、電源操作を実行しないでください)。
- 本システム装置を管理している HCSM のサービスが起動した状態で、「BMC AlertRegister」を使用しないでください。「BMC Alert Register」は、システム装置を HCSM の管理対象に追加する前か、HCSM のサービスを停止した状態で実行してください。
- 本システム装置を管理している HCSM のサービスが起動した状態で、SMASH-CLP のコマンドを使用しないでください。
- 本システム装置に対して、同時に複数の端末から SMASH-CLP のコマンドを使用しないでください。

(4) HCSM アラートの注意

HCSM メッセージの内容について、運用上注意が必要なアラートがあります。

- 未定義のイベントが「HCSM」へ通報された場合、次のアラートが通知されますが、対応は不要です。

アラート ID	レベル	HCSM メッセージ
0xFEAO	Information	Other のイベントが検出されました。装置の状態を確認してください。

ほかのイベントが同期して発生している場合は、その対応を行ってください。また、システム装置の STATUS ランプがエラー表示している場合は、「[4 トラブルシュート](#)」P.81 を参照し、対応してください。

(5) HCSM からの操作にかかる時間

「HCSM」からシステム装置のリソースの探索、リフレッシュ、電源オン・オフなどの操作を実施した場合、その処理時間はシステム装置やモデルの種類により異なります。

本システム装置の場合、操作にかかる時間の目安は、次のとおりです。

- ◆ リソース探索：6 分以上
- ◆ リフレッシュ、電源オン・オフ：約 3 分

1.3 運用前の設定

システム装置を運用するうえで必要となる設定について説明します。システム装置の運用前に設定してください。

1.3.1 BMC ネットワークの設定

システム装置のマネジメントインタフェースコネクタにリモート端末（管理 PC）を接続することで、Web コンソールとリモート KVM によるシステム装置のリモート管理を行うことができます

リモート端末を接続するには、BMC ネットワークの設定を行う必要があります。BMC ネットワークの設定方法や Web コンソールの使用方法是、『ユーザズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

1.3.2 TCP Checksum Offload 機能の無効設定

LAN コントローラの TCP Checksum Offload 機能をオフにする方法を説明します。

→ [「1.2.4 LAN 機能の注意」 P.13](#)、[「\(1\) TCP Checksum Offload 機能」 P.13](#)

(1) 対象 OS

TCP Checksum Offload 機能を無効にする必要がある OS は、次のとおりです。

- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012
- Windows Server 2008 R2
- RHEL7
- RHEL6

(2) TCP Checksum Offload 設定をオフにする

TCP Checksum Offload 機能をオフにする手順は、対象 OS により異なります。

◆ Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 の場合

- 1 「サーバマネージャー」の「ツール」－「コンピューターの管理」をクリックし、「システムツール」－「デバイスマネージャー」をクリックします。
- 2 「ネットワークアダプタ」の各 LAN アダプタのプロパティにて、「詳細設定」タブを開きます。
- 3 次の表に示す設定項目が表示されている場合、表に従い設定を変更します。

設定項目	設定値
TCP/UDP Checksum Offload(Ipv4)	Rx & Tx Enabled → Disable
TCP/UDP Checksum Offload(Ipv6)	Rx & Tx Enabled → Disable
Large Send Offload v2(IPv4)	Enable → Disable
Large Send Offload v2(IPv6)	Enable → Disable

- 4 すべての項目を設定したあとは [OK] ボタンをクリックし、OS を再起動してください。

◆ Windows Server 2008 R2 の場合

- 1 「コントロールパネル」の「デバイスマネージャ」をダブルクリックします。
- 2 「ネットワークアダプタ」の各ネットワークアダプタのプロパティにて、「詳細設定」タブを開きます。
- 3 次の表に示す設定項目が表示されている場合、表に従い設定を変更します。

設定項目	設定値	
	Broadcom Advanced Control Suite 4 未インストール	Broadcom Advanced Control Suite 4 インストール済
TCP/UDP Checksum Offload (Ipv4)	Rx & Tx Enabled → Disable	Rx & Tx Enabled → Disable
TCP/UDP Checksum Offload (Ipv6)	Rx & Tx Enabled → Disable	Rx & Tx Enabled → Disable
Large Send Offload v2(IPv4)	Enable → Disable	Enable → Disable
Large Send Offload v2(IPv6)	Enable → Disable	Enable → Disable

- 4 すべての項目を設定したあとは [OK] ボタンをクリックし、OS を再起動してください。

◆ RHEL7 の場合

「日立サポート 360」のソフトウェアサービス付属の OS 媒体（インストールメディア）から Linux をインストールした場合（Linux インストール作業代行サービスを含む）、ネットワークアダプタ上の LAN コントローラに対し TCP Checksum Offload 機能を無効にするために、手動での設定が必要になる場合があります。次の手順をよくお読みいただき、設定してください。

▶ [tg3 ドライバ]：システム装置の LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート）／ LAN ボード（CN7729/CN7730/CN7743/CN7744）

tg3 ドライバをご使用の場合は、OS インストール後に手動での設定が必要になります。TCP Checksum Offload の設定は、ethtool コマンドの引数に対して tx（送信時）/ rx（受信時）のパラメータを指定することで行います。tx / rx パラメータの設定手順は、次のとおりです。

- 1 次の内容でルールファイル「/etc/udev/rules.d/80-hitachi-net-dev.rules」を作成します。

```
ACTION=="add", SUBSYSTEM=="net", DRIVERS=="tg3", RUN="/usr/sbin/ethtool -K %k rx off tx off"
```

- 2 OS を再起動します。

◆ RHEL6 の場合

「日立サポート 360」のソフトウェアサービス付属の OS 媒体（インストールメディア）から Linux をインストールした場合（Linux インストール作業代行サービスを含む）、ネットワークアダプタ上の LAN コントローラに対し TCP Checksum Offload 機能を無効にするために、手動での設定が必要になる場合があります。次の手順をよくお読みいただき、設定してください。

▶ [tg3 ドライバ]：システム装置の LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート）／ LAN ボード（CN7729/CN7730/CN7743/CN7744）

tg3 ドライバをご使用の場合は、OS インストール後に手動での設定が必要になります。TCP Checksum Offload の設定は、ethtool コマンドの引数に対して tx（送信時）/ rx（受信時）のパラメータを指定することで行います。tx / rx パラメータの値および書式は、次のとおりです。

値範囲：off または on（off：無効／on：有効）

ethtool コマンドにて、送信と受信の両方で TCP Checksum Offload を無効に設定します。
LAN コントローラ個分の ethtool コマンドを /sbin/ifup-pre-local に追加したあとに OS を再起動してください。OS 起動時に自動設定されます。

（例）

LAN コントローラ 2 個を無効にする場合、/sbin/ifup-pre-local に次の行を追加します。
（Linux が eth0, eth1 というネットワークデバイスとして認識しているものとします）

```
if [ "${1}" == "ifcfg-eth0" ]; then
/sbin/ethtool -K eth0 rx off
/sbin/ethtool -K eth0 tx off
fi
if [ "${1}" == "ifcfg-eth1" ]; then
/sbin/ethtool -K eth1 rx off
/sbin/ethtool -K eth1 tx off
fi
```

/sbin/ifup-pre-local ファイルが存在しない場合、ファイル権限 755 で新しく作成し、上記設定を追加してください。

なお、TCP Checksum Offload を有効に設定する場合は、tx / rx パラメータの各値 off を on に読み替えてください。

1.3.3 Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の追加設定

Linux で 10GBASE-SR/10G SFP+ Direct Attach 接続 /10GBASE-T 仕様の LAN を使用する場合、OS インストール後に必要となる追加設定について説明します。

→ 「1.2.4 LAN 機能の注意」 P.13、 「(2) Linux 環境で 10G LAN を使用する場合の制限」 P.14



LAN ドライバは、『Hitachi Server Navigator』DVD を使用してインストールしてください。

(1) 制限事項

本 LAN ボードが搭載されたシステムで、macvtap モジュールと bnx2x モジュールがロードされている場合は、カーネルパニックが発生することがあります。

- 対象 OS
 - ◆ RHEL6.7、RHEL6.8、RHEL6.9、RHEL7.2、RHEL7.3
- 対象 LAN デバイス
 - ◆ LAN 拡張カード（標準：10GBASE-SR、2 ポート + 1GBASE-T、2 ポート）
 - ◆ LAN ボード（10GBASE-SR、2 ポート）：CN7845/CN7846
 - ◆ LAN ボード（10G SFP+ Direct Attach 接続、2 ポート）：CN7847/CN7848
 - ◆ LAN ボード（10GBASE-T、2 ポート）：CN7825 /CN7826

◆ Large Receive Offload の無効化方法

macvtap モジュールと bnx2x モジュールがロードされていることを確認します。

- 1 出力結果として次に示した確認項目にすべて該当するか確認してください。
該当する場合は、手順 2 に進みます。

```
# lsmod | grep -E "bnx2x | macvtap"
macvtap XXXXX X vhost_net
bnx2x XXXXX X
```

- 2 /etc/modprobe.d/dist.conf に次の設定を追記します。
options bnx2x disable_tpa=1

- 3 OS を再起動します。

1.3.4 Virtual Machine Queues の無効化

Hyper-V の仮想ネットワークに、"Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #x" の物理ネットワークを割り当てる場合、Virtual Machine Queues を無効にします。

→ [「1.2.4 LAN 機能の注意」 P.13](#)、[「\(3\) Hyper-V 環境下の Virtual Machine Queues 設定」 P.14](#)

(1) 対象 OS

Hyper-V をサポートする次の OS が対象です。

- Windows Server 2016
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2012

(2) Virtual Machine Queues を無効にする

- 1 デバイスマネージャー上で、仮想ネットワークに割り当てた "Broadcom NetXtreme Gigabit Ethernet #x" を右クリックし、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。
プロパティ画面が表示されます。
- 2 「詳細設定」タブを選択し、「Virtual Machine Queues」を「Disable」に変更します。

1.3.5 UTC 設定の解除

Linux 使用時に、UTC を使用しない設定にする方法を説明します。

→ [「1.2.5 UTC 設定の注意」 P.15](#)

(1) 対象 OS

UTC 設定を解除する必要がある OS は、次のとおりです。

- RHEL6

(2) UTC 設定を解除する

1 次のコマンドを実行します。

システムクロックで UTC を使用しない設定になっていることを確認します。

```
# cat /etc/adjtime
```

◆ 表示例

```
14.952276 1293524288 0.000000
1293524288
LOCAL
```

LOCAL と表示されていれば、システムクロックで UTC を使用しない設定になっています。
UTC と表示されている場合は、次の設定方法を参照して UTC の設定を解除してください。

2 次のコマンドを実行します。

システムクロックをハードウェアクロックのローカルタイムに設定します。

```
# /sbin/hwclock -s --localtime
```

3 date コマンドを実行し、OS の表示時刻と同期しているか確認します。

1.3.6 メモリダンプの採取設定

無応答障害発生時の調査のため、システムの運用前にメモリダンプを採取するよう設定します。

→ 「1.2.1 一般的な注意」 P.6、 「(7) メモリダンプ」 P.8

(1) 対象 OS

- Windows Server 2008 R2
- RHEL7
- RHEL6
- VMware vSphere ESXi 6.5
- VMware vSphere ESXi 6.0
- VMware vSphere ESXi 5.5



Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 の場合、設定の必要はありません。

(2) Windows Server 2008 R2 環境のメモリダンプ採取を設定する

Windows Server 2008 R2 の場合、次のとおり設定および確認をします。なお、Windows Server 2008 R2 ブレインストールセットの場合や、システム装置添付の『Hitachi Server Navigator』の OS セットアップ機能 (Installation Assistant) を使用して OS インストールを行った場合は、メモリダンプ採取を自動的に設定します。この場合設定の必要はありません。

▶ NMI ダンプのレジストリを設定する

レジストリエディタから、次のとおりレジストリキーを設定します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Control¥CrashControl
名前 : NMICrashDump
種類 : REG_DWORD
値 : 1

▶ 仮想メモリー (pagefile.sys) を設定する

仮想メモリーを次のとおり設定します。

なお、ここで説明する設定は例であり、採取できない環境も存在します。このため、次の技術資料も参照し設定してください。

<http://support.microsoft.com/kb/969028/ja>

- 1 スタートからコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックします。
- 2 [システムの詳細設定] をクリックします。
- 3 [システムのプロパティ] 画面で [詳細設定] タブをクリックします。
- 4 [パフォーマンス] 欄の [設定] ボタンをクリックします。
- 5 [詳細設定] タブをクリックします。

- 6 [仮想メモリ] 欄の [変更] ボタンをクリックします。
- 7 pagefile.sys を設定するドライブを選択し、[初期サイズ] と [最大サイズ] の値が物理メモリー +400 MB 以上に設定されていることを確認します。
- 8 [OK] ボタンをクリックしてシステムのプロパティ画面を閉じ、Windows を再起動します。

▶ メモリダンプ出力先の空き容量の確認

MEMORY.DMP 出力先の空き容量が物理メモリー +400 MB 以上空いていることを確認します。

◆ 完全メモリダンプについて

完全メモリダンプは、ユーザーモードの情報を含んでメモリダンプを採取します。このため、その他のメモリダンプ設定と比較して、障害解析の際に原因究明できる可能性が増えます。

ただし完全メモリダンプの場合、メモリダンプファイルの出力先の空き容量が、搭載物理メモリーに応じてより多く必要となります。このメモリダンプファイルの出力先の容量が十分確保できる場合、完全メモリダンプの採取をお勧めします。

完全メモリダンプの採取には、前記設定に加えて次の設定が必要です。

▶ 完全メモリダンプのレジストリを設定する

レジストリエディタから、次のとおりレジストリキーを設定します。

HKEY_LOCAL_MACHINE¥System¥CurrentControlSet¥Control¥CrashControl

名前 : CrashDumpEnabled

種類 : REG_DWORD

値 : 1

▶ 完全メモリダンプの採取を設定する

採取するメモリダンプの種類を次のとおり「完全メモリダンプ」に設定します。

- 1 スタートからコンピュータを右クリックし、プロパティをクリックします。
- 2 [システムの詳細設定] をクリックします。
- 3 [システムのプロパティ] 画面で [詳細設定] タブをクリックします。
- 4 [起動と回復] 欄の [設定] ボタンをクリックします。
- 5 [デバッグ情報の書き込み] のプルダウンメニューを [完全メモリダンプ] に変更します。
- 6 [OK] ボタンをクリックして起動と回復のプロパティ画面を閉じます。
- 7 [OK] ボタンをクリックしてシステムのプロパティ画面を閉じ、Windows を再起動します。

(3) Linux 環境のメモリダンプ採取設定

「日立サポート 360」のソフトウェアサービス付属の OS メディア（インストールメディア）から Linux をインストールした場合（Linux インストール作業代行サービスを含む）、メモリダンプ機能 kdump によるメモリダンプ採取を自動的に設定します。設定の必要はありません。

それ以外の場合、契約しているサポートサービス窓口までお問い合わせください。



- メモリダンプ機能である kdump を LAN 拡張カード（標準: 10G 2 ポート + 1G 2 ポート）のネットワークインタフェース経由で採取する場合、10G ポートのみ動作します。1G ポートは動作しません。
- PCIe SSD に kdump によるメモリダンプは出力できません。



kdump が対応していない構成や自動設定が不可能な構成の場合、「日立サポート 360」のソフトウェアサービス付属の OS メディア（インストールメディア）から Linux をインストールしても、kdump は自動設定されません。
このため、OS インストール後にメモリダンプ採取を行い、採取が成功するか確認してください。メモリダンプの採取方法は、[「4.6 メモリダンプの採取」P.107](#) をご参照ください。

(4) VMware 環境のメモリダンプ採取を設定する

VMware の場合、デフォルト設定のままでメモリダンプを採取できます。

設定を確認するには、次の手順を実施します。

- 1 vSphere クライアントで ESXi にログインします。
- 2 ホストの [構成] タブから [ソフトウェア] 欄の [詳細設定] をクリックします。
- 3 [VMkernel] 欄を選択し、[VMkernel.Boot.nmiAction] の値が 0 または 2 であることを確認します。

デフォルト設定から変更している場合、次の手順でデフォルト設定に戻します。

- 1 vSphere クライアントで ESXi にログインします。
- 2 ホストの [構成] タブから [ソフトウェア] 欄の [詳細設定] をクリックします。
- 3 [VMkernel] 欄を選択し、[VMkernel.Boot.nmiAction] の値を 2 に変更します。
- 4 [OK] をクリックして vSphere クライアントの画面を閉じます。
- 5 ESXi を再起動します。

1.3.7 使用する OS に合わせたシステム BIOS の設定

OS のインストールおよびブートを行う場合、OS の種類によりシステム BIOS の設定値が決められています。OS によっては工場出荷時の設定値から変更する必要があります。

システム BIOS の設定の詳細は、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

1.4 運用に必要なソフトウェア

システム装置に付属しているソフトウェアを説明します。これらのソフトウェアはインストールしてお使いください。

各ソフトウェアのサポート OS については、それぞれのマニュアルをご参照ください。



システム装置は、使用中にエラーが発生してもブザーを鳴らす機能を持ちません。ハードウェアエラー発生時は、システム装置前面の STATUS ランプによりエラーを通知しますが、システム装置の近くにオペレーターが居ない運用形態においては、通知を見過ごすおそれがあります。

このため「Hitachi Compute Systems Manager」と「Hitachi RAID Navigator」を漏れなくインストールしてください。

なお、RS220 BN2 モデルは内蔵 PCIe SSD を搭載している場合のみ「Hitachi RAID Navigator」をインストールしてください。

また、「Log Monitor」、「Log Monitor Logger」および「IT Report Utility」も、障害発生時の復旧時間短縮のために漏れなくインストールしてください。

1.4.1 Hitachi Server Navigator

「Hitachi Server Navigator」は、OS のインストールから状態監視など、サーバの導入、運用、メンテナンスをトータルにサポートする統合管理ツールです。主な機能は、次のとおりです。

- Windows および Linux OS のインストールを行う「Installation Assistant」をサポートしています。
- 容易にディスクアレイを構築できる RAID 管理ツール「Hitachi RAID Navigator」をサポートしています。
- システム装置に障害が発生した場合に自動解析を行う「Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)」をサポートしています。
- システム装置に障害が発生した場合に OS のイベントログへ出力を行う「Log Monitor Logger」をサポートしています。
- BMC とのキープアライブによる OS ハングアップと BMC の異常検出を行う「Alive Monitor」をサポートしています。
- ファームウェア、ドライバ、ユーティリティのダウンロードとアップデートを簡単に行う「Update Manager」をサポートしています。

上記の機能を使用する場合は、「Hitachi Server Navigator」をインストールする必要があります。

使い方の詳細は、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される「Hitachi Server Navigator」のマニュアルをご参照ください。

1.4.2 Hitachi Compute Systems Manager

「Hitachi Compute Systems Manager」(以下 HCSM) は、障害や性能・消費電力の監視、システムディスクのバックアップ・リストアなど、システム管理者の負担を軽減し、システム装置の安定運用を支援します。「HCSM」はエージェントレス管理、仮想化管理、サーバの性能監視などの特長を備えています。

使い方の詳細は、『HCSM』DVD-ROM に格納される『Hitachi Command Suite Compute Systems Manager Software ユーザーズガイド』および『Hitachi Command Suite Compute Systems Manager Software 導入・設定ガイド』をご参照ください。

1.4.3 Hitachi RAID Navigator

RAID 管理ツール「Hitachi RAID Navigator」はディスクアレイを監視するツールです。

RAID 管理ツールはインストールを行わないとハードディスク障害を検知できず 2 重障害を引き起こしたり、障害発生時の解析に支障をきたします。

使い方の詳細は、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』をご参照ください。

…
補足

- VMware を使用する場合、RAID 管理ユーティリティ「RAID Utility (StorCLI) for VMware」をインストールしてください。
詳細については、「(3) RAID 管理ユーティリティ「RAID Utility (StorCLI) for VMware」インストールのお願い」P.12 をご参照ください。
- 内蔵 SSD や内蔵 PCIe SSD を搭載している場合、書換容量制限を監視するために「Hitachi RAID Navigator」をインストールしてください。

1.4.4 Log Monitor (ハードウェア保守エージェント)

システム装置の保守に必要なツールです。システム装置に障害が発生した場合、障害内容の自動解析を行います。これにより、障害内容の特定が容易となり、システム復旧時間の短縮に役立ちます。

使い方の詳細は、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor 機能』をご参照ください。

…
補足

「ハードウェア保守エージェント」は「Log Monitor」に改称しました。

1.4.5 Log Monitor Logger

システム装置で発生した障害を検出した場合やハードウェア資源の使用率がしきい値を超過した場合に OS のイベントログに出力する機能を持つソフトウェアです。

使い方の詳細は、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor Logger 機能』をご参照ください。

1.4.6 IT Report Utility

システムの構成確認に必要な情報、および障害の一次切り分けや調査／解析に必要な情報を、効率的に採取するためのツールです。

使い方の詳細は、『ユーザースガイド』CD-ROM に格納される取扱説明書をご参照ください。



「システム情報採取ツール」は、バージョン 02-00 より「IT Report Utility」に改称しました。
バージョン 02-00 よりも前のものは「システム情報採取ツール」の名称のままです。

2

運用に役立つ機能

この章では、運用時に役立つシステム装置の機能について説明します。

2.1 ディスクアレイ	42
2.2 冗長化できるユニット	44
2.3 省電力機能	46
2.4 Wake On LAN 機能.....	48
2.5 PXE ブート機能.....	50
2.6 メモリー RAS 機能	52
2.7 LAN 拡張機能	60
2.8 リモートマネジメント機能	62

2.1 ディスクアレイ

データを格納するハードディスクや SSD の性能や信頼性を高めるため、システム装置はディスクアレイをサポートしています。

なお、PCIe SSD は、OS のソフト RAID 機能を使ったディスクアレイをサポートしています。ソフト RAID 機能については、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』、OS のヘルプ、OS サポートサービスの Web サイトをご参照ください。

2.1.1 ディスクアレイとは

ディスクアレイとは、2 台以上の物理ドライブを連結し、1 台もしくは複数台の論理ドライブ（LU:Logical Unit）として使う方法で、RAID（Redundant Arrays of Inexpensive Disks）とも呼ばれます。

ディスクアレイの利点は主に 2 つあります。1 つは、データのある単位に分割し、ディスクアレイ内の物理ドライブにデータを分散させることで（データストライピングと呼びます）、ディスクアレイとして見た場合に単体の物理ドライブよりも I/O 性能が向上することです。もう 1 つは、アレイパリティを作成することによって、万ーディスクアレイ内の物理ドライブのうち 1 台が故障した場合でもデータの復旧が行えますので、データの消失を防ぐことができることです。

ディスクアレイの機能については、「[A.2 ディスクアレイの機能](#)」P.138 をご参照ください。

通知

ディスクアレイであっても、物理ドライブ以外の故障やソフトウェアの暴走、操作ミスによるデータの消失は防ぐことはできません。万ーに備え、システムのデータのバックアップをお取りください。

… 補足

- ディスクアレイ：
複数の物理ドライブから構成される仮想ドライブです。そのままでは OS から認識できません。
- 論理ドライブ：
ディスクアレイ上に設定する論理的なドライブです。OS から物理ドライブと同じように認識されます。

ディスクアレイシステムを構築するときは、次の点について注意してください。

- 各 RAID レベルで必要となる物理ドライブの台数が異なります。
RAID レベルと必要な物理ドライブの台数については、「[A.1 ディスクアレイの分類](#)」P.132 をご参照ください。
- 1 つのディスクアレイに使用するハードディスクおよび SSD は、すべて同じ容量、同じ回転数のものを使用してください。
- RAID レベルを変更するとき、ディスクアレイを初期化します。ディスクアレイに大切なデータがあるときは、バックアップを行ってから RAID レベルを変更してください。
- その他の注意は、「[1.2.6 ディスクアレイの注意](#)」P.17 をご参照ください。

2.1.2 ディスクアレイの構築

ディスクアレイを構築する前に、使用するディスクアレイの数と RAID レベルを決定し、使用する物理ドライブの台数とリザーブディスクの有無を決定します。

必要に応じて物理ドライブをシステム装置に増設します。

物理ドライブの増設については、『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』をご参照ください。

物理ドライブの搭載台数を確認したあと、RAID BIOS によって、ディスクアレイの設定を行います。設定については、『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。



RAID BIOS は、次の 2 種類があります。システム BIOS のブートモードで使用する RAID BIOS が異なります。

- LSI MegaRAID Configuration Utility
システム BIOS のブートモードが「UEFI」の場合に、ディスクアレイコントローラボードの設定を行います。
- MegaRAID BIOS Configuration Utility
システム BIOS のブートモードが「Legacy」の場合に、ディスクアレイコントローラボードの設定を行います。

2.2 冗長化できるユニット

システム装置は、障害発生時でも稼働を続けられるよう、冗長化できるユニットがあります。冗長化できるユニットは、次のとおりです。

- ハードディスク／SSD（ディスクアレイ）
- PCIe SSD（OS のソフト RAID 構成）
- 電源ユニット
- システムファン

ディスクアレイについては、「[2.1 ディスクアレイ](#)」P.42 をご参照ください。

PCIe SSD については、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』、OS のヘルプ、OS サポートサービスの Web サイトをご参照ください。

2.2.1 電源ユニット

システム装置に電源ユニットを 2 台搭載することにより、電源を 2 重化（冗長化）することができます。

これにより、どちらか一方の電源ユニットに障害が発生した場合でも、システム装置を停止することなく運用できます。また、電源ユニットはホットプラグをサポートしているため、システム装置を動作させたまま障害となった電源ユニットを交換できます。

システム装置は電源容量や電圧の異なる 3 種類の電源ユニットをサポートしています。電源ユニットは、プロセッサの種類や搭載数に合わせて電源容量を選択する必要があります。

電源ユニットの種類や搭載ルールについては、『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』をご参照ください。

なお、電源ユニットを 2 台搭載している場合、それぞれ別の電源系統へ接続することをお勧めします。電源系統そのものに障害が発生した場合、一方の電源系統からの供給が止まらなければシステム装置も停止することなく動作します。

…
補足

次のモデルは、冗長化のためすべての電源スロットに電源ユニットが標準で取り付けられます。

- ロングライフサポートモデル
- ロングライフモデルⅡ
- おまかせ安心ロングライフモデル
- 長期保守対応モデル
- おまかせ安心長期保守モデル

その他に、電源ユニットの冗長機能としてコールドリダンダンシーモードがあります。

コールドリダンダンシーモードとは、システム装置の消費電力の状況に応じて搭載されている電源ユニットを自動で稼働・停止させ、電源ユニットに搭載されている冷却ファンの停止により消費電力を削減する機能です。稼働している電源ユニットに障害が発生した場合は、待機している電源ユニットが瞬時に稼働するため、そのまま運用を続けることができます。

コールドリダンダンシーモードはデフォルトで無効になっています。有効にするには、システム BIOS の設定を変更する必要があります。詳細は、『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。
なお、稼働・停止する電源ユニットを選択することはできません。

2.2.2 システムファン

システム装置には、内部を冷却するためにシステムファンが搭載されています。オプションのシステムファン（SBF7102/BF7102）を増設することで冗長化されます。

→『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』「6 システムファンを取り付ける」

増設するシステムファンは、プロセッサの搭載数により異なります。
必要なシステムファンとプロセッサ 数は、次のとおりです。

- プロセッサ 1 個搭載時：システムファン（SBF7102：4 個セット）
- プロセッサ 2 個搭載時：システムファン（SBF7102：4 個セット）＋システムファン（BF7102：1 個）

システムファンを冗長化すると、搭載数は 8 個（プロセッサ 1 個搭載時）または 10 個（プロセッサ 2 個搭載時）となります。このうち 1 個に障害が発生した場合でもシステム装置を停止することなく運用できます。

… 補足

- システムファンに障害が発生した場合、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。システムファンは速やかに交換してください。
- システムファンに障害が発生した場合、システムファンを交換する必要があります。
システムファンはホットスワップ機能に対応しており、システム装置の電源が入っている状態でも交換が可能です。このとき、作業エリアとして、システム装置本体の上に 4U 以上の空きスペースが必要です。
なお、システムファンの交換は保守員が行います。
- システム装置内に内蔵 LTO を搭載している場合、システムファンキット（SBF7102/BF7102）は搭載できません。

2.3 省電力機能

システム装置は、消費電力を低減することを目的に、消費電力の制御や監視を行う機能を備えています。

2.3.1 パワーキャッピング機能

パワーキャッピング機能を使用することにより、システム装置の消費電力を低減することができます。あらかじめシステム装置の消費電力上限値を設定しておき、実際の消費電力が上限値を超えた場合に CPU の ACPI プロセッサパフォーマンスステート（P-State）を変更してパフォーマンスを低下させることにより、システム装置の平均消費電力を上限値付近以下になるよう制御します。

パワーキャッピングの設定は、システム装置のマネジメントインタフェースに接続したリモート端末から、Web コンソールを使って行います。詳細は、『ユーザーズガイド～リモートマネジメント編』をご参照ください。

(1) 使用上の注意事項

- パワーキャッピング機能を使用することにより、プロセッサの性能は使用しない場合と比較し劣化することがあります。
- パワーキャッピング機能は、OS 起動後に有効になります。
- パワーキャッピング機能の動作は、システム装置前面のパワーキャッピングランプで確認することができます。
詳細は、『ユーザーズガイド ～導入編～』をご参照ください。
- 消費電力上限値を低い値に設定しすぎると、CPU のパフォーマンスは常に低い状態になります。この状態では、実際の消費電力を、上限値付近以下になるように制御することはできません。
また、消費電力上限値をシステム装置の最大消費電力以上の値に設定した場合、パワーキャッピングは機能しません。
- パワーキャッピング機能の設定情報は、システム装置から電源コードを抜いても保持されます。
- Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 / Windows Server 2008 R2 で電力制御機能を利用すると、イベントビューアーに次のようなイベントログが登録されます。

イベント ID	: 7 または 37
イベントソース	: Kernel-Processor-Power
イベントレベル	: 警告
説明	: プロセッサ 0 のスピードはシステムファームウェアによって制限されます。 プロセッサは、最後のレポート後 ** 秒間このパフォーマンスが制限された状態にあります。

このイベントは、本装置で電力制御しているために登録されるイベントログであり、正常な動作です。

2.3.2 電力監視機能

サーバ管理者がシステムの消費電力と入気温度を確認できるようにするため、これらのセンサー情報を取得するためのインタフェースを提供しています。

システム装置のマネジメントインタフェースに接続したリモート端末から、Web コンソールを使って詳細な消費電力値を知ることができます。

Web コンソールの詳細については、『ユーザズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

2.4 Wake On LAN 機能

システム装置はリモートパワーオン機能として、Wake On LAN 機能をサポートしています。

2.4.1 リモートパワーオン機能の概要

Wake On LAN 機能とは、ネットワークを介してシステム装置の電源を入れる（パワーオンする）機能です。システム装置の電源が切れていても（パワーオフ）、管理者用のシステム装置やクライアントなどから特殊なパケットを送信することにより、遠隔（リモート）操作でパワーオンすることができます。

このほかに BMC のリモートマネジメント機能を使用して、Web コンソールからリモートパワーオンを行うことができます。

Wake On LAN 機能を利用したリモートパワーオン機能を使用する際の管理コンソールには、「Hitachi Compute Systems Manager」(以下 HCSM) を使用します。

2.4.2 Wake On LAN 機能のサポート条件

次の条件において Wake On LAN 機能をサポートしています。

(1) サポート OS

「HCSM」のサポート OS に従います。

(2) サポート LAN デバイス

次の LAN デバイスで Wake On LAN 機能をサポートしています。

- LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート）のネットワークインタフェースコネクタ 1
- LAN 拡張カード（標準：10G 2 ポート + 1G 2 ポート）のネットワークインタフェースコネクタ 3（1G ポート）

LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート）のネットワークインタフェースコネクタ 2、3、4、LAN 拡張カード（標準：10G 2 ポート + 1G 2 ポート）のネットワークインタフェースコネクタ 1、2、4、その他オプションの LAN ボードはサポート対象外です。

LAN 拡張カードはシステム装置の拡張スロット（LAN 拡張カード専用スロット）に取り付けられています。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』

2.4.3 Wake On LAN 機能使用の前提条件

Wake On LAN 機能を使用する場合、システム BIOS の「Advanced」－「Advanced Chipset Configuration」－「Wake On LAN/PME」を「Enabled」に設定する必要があります。工場出荷時の状態で WakeOn LAN 機能を使用することができます。

2.4.4 Wake On LAN 機能使用上の注意

Wake On LAN 機能を使用するうえで、次の事項に注意してください。

- 次の場合は Wake On LAN 機能が動作しません。この場合、一度システム装置の POWER ランプスイッチを押して OS を起動させたあと、正常な方法で電源を切ってください。
 - ◆ 電源コードを接続したあとの最初のシステム起動時
 - ◆ 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合
 - ◆ OS 起動前（BIOS POST 中）に、POWER ランプスイッチを押して電源を切った場合
 - ◆ APC 製 PowerChute などの UPS 管理ソフトウェアを使用して、スケジューリングなどにより電源を切った場合
 - ◆ システム装置への電源の供給がなくなった場合（電源コードを引き抜いたり、ブレーカを落としたりした場合や、停電時など）
- Wake On LAN を設定した LAN 拡張カードのポートは、LAN ケーブルをリンクパートナーに接続し、システム装置がシャットダウンしている場合、自動的にリンク速度がダウンすることがあります。OS 起動後にリンク速度は元に戻ります。
- 本システム装置は、Windows のスリープ、ハイブリッドスリープ、休止状態をサポートしていません。これらの状態からの Wake On LAN もサポートしていません。

2.5 PXE ブート機能

システム装置はリモートパワーオン機能として、PXE (Preboot eXecution Environment) ブート機能をサポートしています。

2.5.1 PXE ブート機能の概要

PXE ブート機能とは、ネットワーク経由でシステム装置を起動する機能です。Wake On LAN 機能と異なり、システム装置の電源を入れるだけではなく、ネットワークで接続されたシステム装置やクライアントから対象となるシステム装置を起動します。

なお、PXE ブートは「Hitachi Compute Systems Manager」(以下 HCSM) または「JP1/ServerConductor/DeploymentManager」を使用する場合のみサポートします。

2.5.2 PXE ブート機能のサポート条件

次の条件において PXE ブート機能をサポートしています。

(1) サポート OS

「HCSM」または「JP1/ServerConductor/DeploymentManager」のサポート OS に従います。
「JP1/ServerConductor/Deployment Manager」のサポートについては、お問い合わせ先にお問い合わせください。

(2) サポート LAN デバイス

次の LAN デバイスで PXE ブート機能をサポートしています。

- LAN 拡張カード (標準: 1G 4 ポート) のネットワークインタフェースコネクタ 1
- LAN 拡張カード (標準: 10G 2 ポート + 1G 2 ポート) のネットワークインタフェースコネクタ 3 (1G ポート)

LAN 拡張カード (標準: 1G 4 ポート) のネットワークインタフェースコネクタ 2、3、4、LAN 拡張カード (標準: 10G 2 ポート + 1G 2 ポート) のネットワークインタフェースコネクタ 1、2、4、その他オプションの LAN ボードはサポート対象外です。

LAN 拡張カードはシステム装置の拡張スロット (LAN 拡張カード専用スロット) に取り付けられています。
→ 『ユーザズガイド ～導入編～』

2.5.3 PXE ブート機能使用の前提条件

PXE ブート機能を使用する場合、ブートデバイスに LAN 拡張カードのポートを設定する必要があります。ブートデバイスの設定は、システム BIOS のセットアップメニューから行います。

設定の詳細は、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。

…
補足

システム装置の起動中に、ファンクションキー [F12] キーを押すと、システム BIOS のセットアップメニュー設定に関わらず、PXE ブートを行うことができます。
→ 『ユーザズガイド ～導入編～』

2.5.4 PXE ブート機能使用上の注意

PXE ブート機能を使用するうえで、次の事項に注意してください。

- LAN 拡張カードの複数のポートを PXE ブートに使用しないでください。
PXE ブートに使用できるポートは、LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート）のネットワークインタフェースコネクタ 1、または LAN 拡張カード（標準：10G 2 ポート + 1G 2 ポート）のネットワークインタフェースコネクタ 3 の 1 ポートのみです。
- 本システム装置は Windows のスリープ、ハイブリッドスリープ、休止状態をサポートしていません。
これらの状態からの PXE ブートもサポートしていません。

2.6 メモリー RAS 機能

本システム装置は、メモリー RAS モードとして「Independent」機能、「Mirroring」機能、「Sparing」機能、「Lock Step」機能をサポートしています。また、その他の RAS 機能として SDDC（Single Device Data Correction）およびメモリースクラビング機能をサポートしています。

メモリーコントローラとメモリーボード（DIMM）を搭載するメモリースロットは、「メモリーチャンネル」が 4 系統に分かれています。

このシステムの構成をもとに、各メモリー RAS 機能について説明します。

メモリーボードの取り付けについては、『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』をご参照ください。

メモリー RAS 機能の設定方法については、『ユーザーズガイド ～BIOS 編～』をご参照ください。

2.6.1 Independent 機能

Independent 機能は、4 つのメモリーチャンネルが独立して動作する機能です。ECC 訂正（64bit Data+8bit ECC）や、1 個の DRAM 故障に対してエラー訂正を行う x4 SDDC をサポートしています。

[「2.6.4 Lock Step 機能」 P.57](#) と比べ、メモリー性能は優れていますが、RAS 機能においては劣ります。

この機能固有の制約は特にありません。

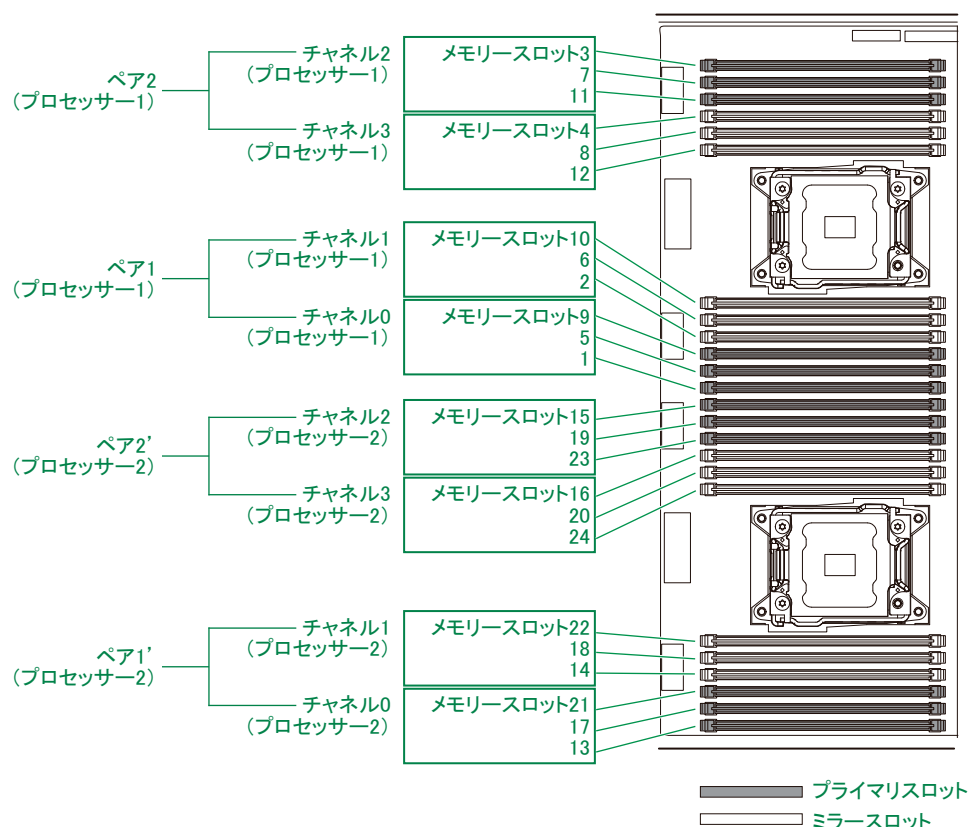
2.6.2 Mirroring 機能

Mirroring 機能（メモリーミラーリング）は、修復不可能なメモリー障害（Uncorrectable Error：2 ビットエラーなど）が発生したときにもシステムダウンせず運用を続けるよう、メモリーを 2 重化する機能です。

Mirroring 機能を使用するには次に示す条件があります。

- メモリーボードはプロセッサのチャンネル 0 と 1、およびチャンネル 2 と 3 の構成を同じにすること
- すべての同容量・同一形名のメモリーボードを搭載すること
ただし、メモリー容量 32GB の RDIMM(MJ7064R2)/メモリー容量 64GB の LRDIMM(MJ7128N0)
/メモリー容量 64GB の TSVDIMM (MJ7128R2) は使用不可
- プロセッサを 2 個搭載する場合は、プロセッサ 1 およびプロセッサ 2 におけるメモリー構成を同じにすること

メモリーをミラーリングする場合、メモリーボードは搭載するチャンネルによりプライマリー・ミラーに区分され、2 チャンネルずつがペアとして構成されます。メモリースロットとチャンネル、およびチャンネル間のペアの関係は、次のとおりです。



ミラーリング時のメモリーへのリード／ライトは、次のように行われます。

- リードはプライマリーもしくはミラーのどちらか一方から行う。
- ライトはプライマリー、ミラーの順で2回行う。

プライマリースロットのメモリーボードの1つに修復不可能なメモリー障害 (Uncorrectable Error) が発生した場合、リード／ライト処理はすべてミラースロットのメモリーボードのみに移行します。ミラースロットのメモリーボードで障害が発生した場合は、逆にプライマリースロットのメモリーボードのみに処理が移行します。

Mirroring 機能を使用するうえでの注意事項は、次のとおりです。

- Mirroring 機能を有効にするためには、セットアップメニューの「Advanced」－「Memory Configuration」－「Memory RAS Mode」を「Mirroring」に設定する必要があります。
- Mirroring 機能が有効に設定された場合、搭載されたメモリーボードの半分がミラーとなるため、メモリー容量は実際に搭載している容量の半分になります。
セットアップメニューの「Advanced」－「Memory Configuration」－「Memory Information」－「Total Memory」で確認してください。
- メモリー縮退が発生した場合、Mirroring 機能は無効になります。
ミラースロットに切り替わると、「HCSM」にてアラートとして通報されます。
- メモリーのミラーリングが機能していることを確認するには「HCSM」が必要です。インストールしてご使用ください。
- Mirroring 機能を使用するためのメモリーボード構成の詳細は、『ユーザズガイド ～オプションデバイス編～』をご参照ください。
- Sparring 機能、Lock Step 機能と同時に使用することはできません。

2.6.3 Sparing 機能

Sparing 機能（オンラインスペアメモリー）は、修復可能なメモリー障害（Correctable Error：1 ビットエラー）が多発したときに予備のメモリーにオンラインで切り替えが可能な機能です。これにより、修復不可能なメモリー障害（Uncorrectable Error：2 ビットエラー）が発生する前にメモリーを切り替える予防保守を行うことができます。

Sparing 機能を使用するには次に示す条件があります。

- メモリーボードは 1 プロセッサにつき 1 チャンネル以上、また 1 チャンネルにつき 3 枚搭載すること
- すべて同容量・同一形名のメモリーボードを搭載すること
ただし、メモリー容量 32GB の RDIMM(MJ7064R2)/メモリー容量 64GB の LRDIMM(MJ7128N0)
/メモリー容量 64GB の TSVDIMM (MJ7128R2) は使用不可
- プロセッサを 2 個搭載する場合は、プロセッサ 1 およびプロセッサ 2 におけるメモリー構成を同じにすること

スペアメモリーはチャンネルごとに設定されます。各チャンネルに搭載されるメモリーボードの 1 ランクまたは 2 ランクが予備のスペアメモリーとなり、ほかのメモリーボードのランクがシステムメモリーとなります。「ランク」とはメモリーボードの構成を表すものです。メモリーボードにはボード上のランク数が 1 つの「シングルランク」と、2 つの「デュアルランク」があります。

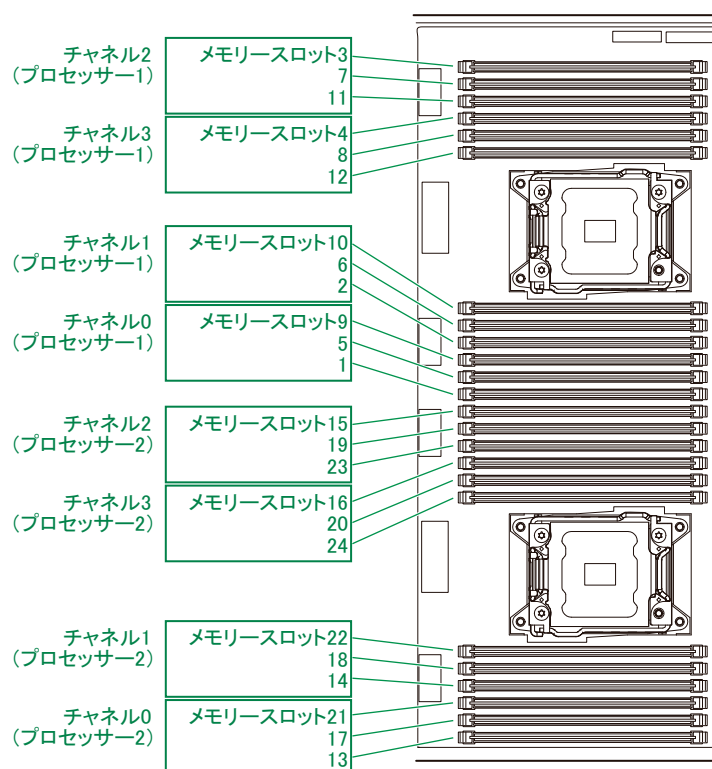
メモリーボードは「ランク」が動作単位となります。このため、「デュアルランク」の場合、物理的には 1 つのボードですが、論理的には 2 つのメモリーボードとして動作します。

Sparing 機能をサポートしているメモリーボードのランク数は、次のとおりです。

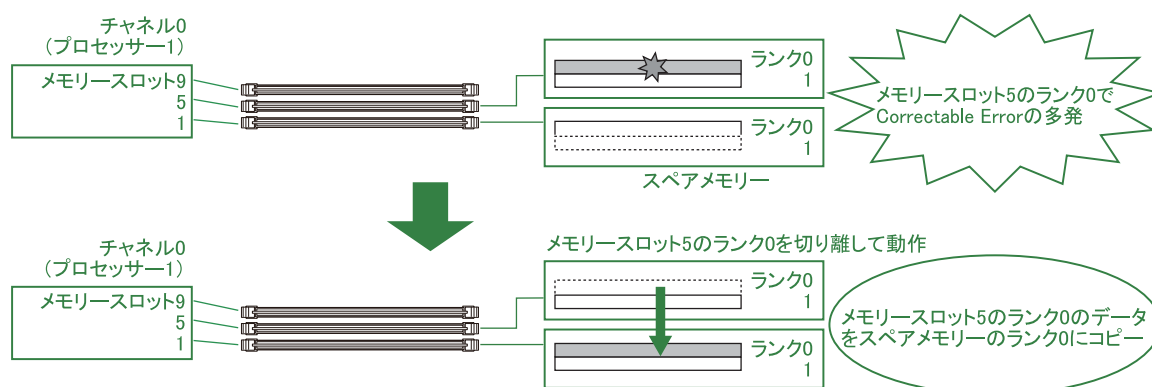
形名	メモリー容量	メモリー種類	ランク数
MJ7016R2	16384MB (8192MB x2)	RDIMM	1
MJ7032R2	32768MB (16384MB x 2)	RDIMM	1
MJ7024R2SEX	24576MB (8192MB x3)	RDIMM	1
MJ7048R2SEX	49152MB (16384MB x 3)	RDIMM	1

…
補足

2 ランクのメモリーボードは、2017 年 1 月現在サポートしていません。



メモリー障害時、メモリーの切り替えはランク単位で行われます。
 たとえば、プロセッサ 1 のメモリスロット 1、5（チャンネル 0）に 2 ランクのメモリーボードを搭載しており、メモリスロット 1 のメモリーボードのランク 0 がスペアメモリーに設定されているとします。
 メモリスロット 5 のメモリーボードのランク 0 に障害（Correctable Error）が多発した場合、そのメモリーデータはそのまますべてスペアメモリーであるメモリスロット 1 のボードのランク 0 へオンラインでコピーされます。コピー完了後システムはメモリスロット 5 のメモリーボードのランク 0 を除いたメモリーで動作を開始します。



なお、1 ランクのメモリーボードの場合、メモリーボード 1 枚がスペアメモリーとなります。

Sparing 機能は、システム装置を再起動したときに再び有効になります。再起動時にスペアメモリーはスペアメモリーバンクに再設定されますので、障害が発生したメモリーボードは再起動する前に交換してください。

Sparing 機能を使用するうえでの注意事項は、次のとおりです。

- スペアメモリーは各プロセッサのチャンネルごとに設定されます。
 - Sparing 機能を有効にするためには、セットアップメニューの「Advanced」－「Memory Configuration」－「Memory RAS Mode」を「Sparing」に設定する必要があります。
 - メモリー障害発生時、スペアメモリーへの切り替えはプロセッサごとに 1 回しか実行されません。
 - Sparing 機能が有効に設定された場合、各チャンネルに搭載されるメモリーボードの 1 ランクがスペアメモリーとなるため、メモリー容量は実際に搭載している容量よりその分少なく表示されます。セットアップメニューの「Advanced」－「Memory Configuration」－「Memory Information」－「Total Memory」で確認してください。
- なお、搭載されるメモリーボードにより、1 チャンネルあたりのスペアメモリー容量は、次のとおりとなります。

搭載メモリーボード	1 チャンネルあたりのスペアメモリー容量
MJ7016R2 : 16384MB (8192MB x2)	8192 MB
MJ7032R2 : 32768MB (16384MB x 2)	16384MB
MJ7024R2SEX : 24576MB (8192MB x3)	8192 MB
MJ7048R2SEX : 49152MB (16384MB x 3)	16384MB

- メモリー縮退が発生した場合、Sparing 機能は無効になります。
- Sparing 機能を使用するためには、同容量のメモリーボードを 1 チャンネルにつき 3 枚搭載する必要があります。詳細は、『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』をご参照ください。
- Sparing 機能が作動してスペアメモリーへの切り替えを行っている間、数秒～10分ほど OS の動作が遅くなることがあります。
- 修復不可能なメモリー障害 (Memory Uncorrectable Error : 2bit エラーなど) の場合、オンラインスペアメモリーは機能しません。
- Sparing 機能が作動してスペアメモリーに切り替わると、「HCSM」にてアラートとして通報されます。
- オンラインスペアメモリーが機能していることを確認するには「HCSM」が必要です。インストールしてご使用ください。
- Mirroring 機能、Lock Step 機能と同時に使用することはできません。

2.6.4 Lock Step 機能

メモリーのロックステップ（Lock Step）とは、2つのチャネルを同調し、メモリーボード2枚を論理的に1枚として扱う機能です。通常データ 64 ビット／ECC8 ビットのアクセスを、データ 128 ビット／ECC16 ビットに拡張して動作します。これにより、SDDC による複数ビットエラーの検出および訂正機能を強化できます。

通常、メモリーコントローラは x4 SDDC（1 箇所の 4 ビット DRAM Device Failure を訂正可能）をサポートしていますが、Lock Step 機能を使うことで x8 SDDC（1 箇所の 8 ビット DRAM Device Failure を訂正可能）もサポートします。また、2 箇所の 4 ビット DRAM Device Failure も検出できます。

Lock Step 機能を使用するには次に示す条件があります。

- メモリーボードはプロセッサのチャネル 0 と 1、およびチャネル 2 と 3 の構成を同じにすること
- すべての同容量・同一形名のメモリーボードを搭載すること
ただし、メモリー容量 32GB の RDIMM(MJ7064R2)/メモリー容量 64GB の LRDIMM(MJ7128N0)
/メモリー容量 64GB の TSVDIMM (MJ7128R2) は使用不可
- プロセッサを 2 個搭載する場合は、プロセッサ 1 およびプロセッサ 2 におけるメモリー構成を同じにすること

Lock Step 機能を使用するうえでの注意事項は、次のとおりです。

- Lock Step 機能を有効にするためには、セットアップメニューの「Advanced」－「Memory Configuration」－「Memory RAS Mode」を「Lock Step」に設定する必要があります。
- チャネル間インターリーブは行われないため、「Independent」モードよりメモリーアクセス性能は低下します。
- 1 ビットエラーや 1 つの DRAM チップのみの故障など、修復可能なメモリー障害(Correctable Error)の場合は、自動訂正し稼働を続けます。
Correctable Errorを確認するには「HCSM」が必要です。インストールしてお使いください。
- Lock Step 機能を使用するためのメモリーボード構成の詳細は、『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』をご参照ください。
- 修復不可能なメモリー障害（Uncorrectable Error）が発生した場合、ECC によるエラー訂正ができないため、システム停止します。

Sparing 機能、Mirroring 機能と同時に使用することはできません。

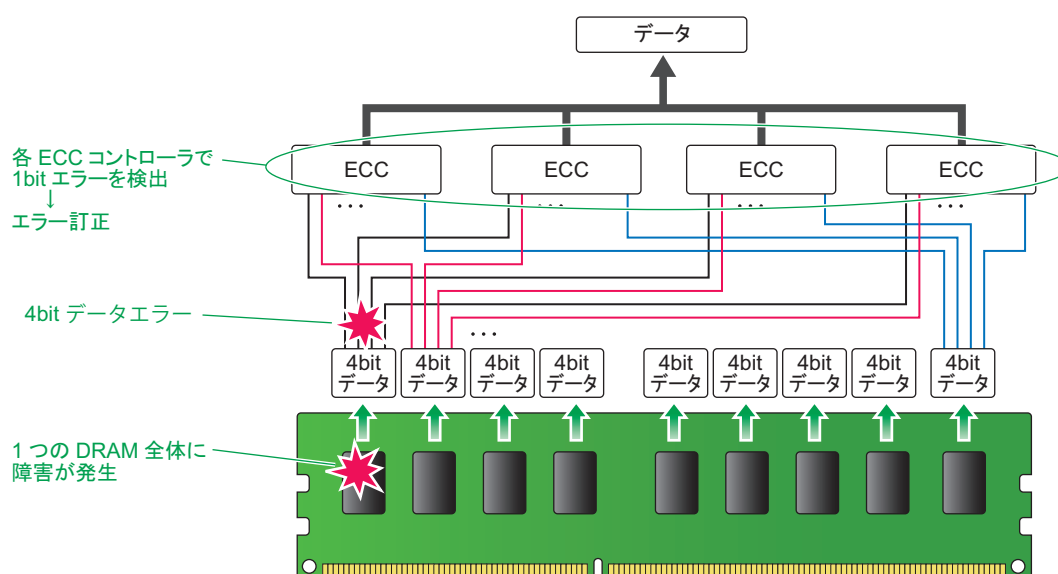
2.6.5 SDDC

SDDC (Single Device Data Correction) はアドバンスド ECC と呼ばれ、1 つの DRAM チップが ECC 処理単位データの 1 ビット以上に影響を与えないよう、各 DRAM チップのデータをそれぞれ別の ECC コントローラに分割して割り当てます。

1 つの DRAM チップ全体が故障した場合、複数のビットにエラー *1 が発生しますが、各 ECC コントローラでは 1 ビットエラーとして処理できるため、システムダウンすることなくエラーを訂正することができます。

*1: データの連続的な誤りで、一般的にバースト誤りと呼びます。これに対し、非連続的な誤りをランダム誤りと呼びます。

x4 SDDC のイメージは、次のとおりです。



2.6.6 メモリースクラビング機能

本システム装置は、メモリーの訂正可能なエラーを自動的に修復するパトロールスクラビング機能とデマンドスクラビング機能をサポートしています。

あらかじめエラーを訂正することで、訂正不可能な障害が発生する可能性を低減することができます。

メモリースクラビング機能は、工場出荷時の状態で有効になっています。



メモリーの RAS モードが「Sparing」に設定されている場合、パトロールスクラビング機能は、本機能の設定が有効／無効に関わらず、無効になります。

■ パトロールスクラビング機能

システムメモリー内を定期的にアクセスし、シングルビットエラーなどの訂正可能障害を検出した際に、訂正後のデータをメモリーに書き戻し、メモリーをエラーのない状態に復旧します。

■ デマンドスクラビング機能

運用中の処理におけるメモリーアクセスで、シングルビットエラーなどの訂正可能障害を検出した際に、訂正後のデータをメモリーに書き戻し、メモリーをエラーのない状態に復旧します。

2.7 LAN 拡張機能

システム装置の LAN 拡張カードおよびオプション LAN ボード（以下 ネットワークアダプタ）は、ネットワークの冗長化や負荷分散、機密性の確保といった拡張機能を使用することができます。

拡張機能には、次の種類があります。

- LAN デバイス冗長化機能

2 個のネットワークアダプタを組み合わせ、ネットワーク接続に障害が生じた場合、自動的にバックアップアダプタに切り替えて処理を移行することで、ネットワークの冗長、耐障害を実現します。

- LAN デバイス負荷分散機能

複数（最大 2 個）のネットワークアダプタを組み合わせ、送信データのトラフィック負荷を各アダプタに分散することで、ネットワークの帯域幅の拡張を実現します。

- スイッチ冗長化機能

2 個のネットワークアダプタと STP（IEEE802.1d）をサポートするスイッチング HUB 2 台（現用、待機）とを組み合わせ、ネットワークアダプタとスイッチング HUB の冗長化を行い、ネットワークの高信頼性を実現します。

- リンクアグリゲーション機能

複数のネットワークアダプタを使用して 1 つのチームを構成し、リンクアグリゲーション対応スイッチング HUB と協調動作させ、ネットワークデータの送受信帯域幅確保を実現します。また、ネットワークの冗長、耐障害を実現します。

- タグ VLAN（IEEE802.1q VLAN）

パケット内のタグに指定された ID により、VLAN グループを識別することで論理的なセグメント分割を実現します。

これらの拡張機能は、Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 の場合 OS 標準機能の「NIC チーミング」から、Windows Server 2008 R2 の場合 LAN ユーティリティから設定します。

LAN ユーティリティは、LAN コントローラのベンダーにより 2 種類あります。

- Broadcom Advanced Control Suite 4（BACS4）

Broadcom 社製コントローラが搭載されている次のネットワークアダプタが対象です。

- ◆ LAN 拡張カード（標準：1G 4 ポート、標準：10G 2 ポート + 1G 2 ポート）
- ◆ LAN ボード（CN7845/CN7846、CN7847/CN7848、CN7825/CN7826、CN7743/CN7744、CN7729/CN7730）

- Intel PROSet

インテル社製コントローラが搭載されている次のネットワークアダプタが対象です。

- ◆ LAN ボード（CN7652/CN7653）

LAN ユーティリティの使い方の詳細は、『ユーザズガイド』CD-ROM に格納されるそれぞれの『LAN 拡張機能設定手順書』をご参照ください。



LAN 拡張機能は、LAN コントローラのベンダーが異なるネットワークアダプタを組み合わせることはできません。

2.8 リモートマネジメント機能

リモートマネジメント機能とは、システム装置に接続したリモート端末（管理 PC）からシステム装置をリモート管理する機能です。

システム装置に搭載される BMC（ベースボードマネジメントコントローラ）により、システム装置の稼働状況監視や電源制御を行うことができます。リモートマネジメント機能は、リモートでこの BMC にアクセスすることで実現されます。

本マニュアルにおいてリモートマネジメント機能は、次の 2 つを意味します。

■ Web コンソール

システム装置の BMC に標準で備わる機能です。リモート端末の Web ブラウザから BMC の設定を行うことができ、またシステム装置の稼働状況を監視したり電源制御を行ったりすることができます。また、リモート KVM 機能によりリモートでシステム装置のコンソール操作ができます。

主な管理機能は、次のとおりです。

- ◆ 電源ユニットの監視
- ◆ 温度／電圧／冷却ファン／電力の監視
- ◆ ハードウェア障害の SEL（システムイベントログ）生成機能
- ◆ ウォッチドッグタイマーによる OS ストール監視
- ◆ OS ストップエラー発生後の通報処理
- ◆ Web ブラウザを使用したリモート制御（本体装置のリセット、電源オン / オフ、SEL の確認など）
- ◆ リモート KVM 機能 *
- ◆ リモート CD/DVD / フロッピーディスク / ISO イメージ / USB メモリー機能 *

* オプションのリモートコンソールオプション（VSS7BR40EX）適用時

■ 「Hitachi Compute Systems Manager（HCSM）」

複数のシステム装置を統合監視することができます。リモート端末にインストールし、システム装置の BMC と連携してシステム装置の稼働状況を監視します。

詳細については、『ユーザズガイド ～リモートマネジメント編～』および、『HCSM』DVD-ROM に格納されるマニュアルをご参照ください。

3

運用とメンテナンス

この章では、システム装置の運用とメンテナンスについて説明します。

3.1 日常のメンテナンス	64
3.2 アップデートの確認と実施	65
3.3 アラートの確認	66
3.4 クリーニング	70
3.5 バックアップ	73
3.6 有寿命部品と消耗品の交換	74
3.7 困ったときには	79

3.1 日常のメンテナンス

システム装置および内蔵デバイスは、定期的なお手入れの必要があります。次の表に従って日常の監視やお手入れを行ってください。また、監視時およびお手入れ時に異常がありましたら、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

なお、オプションデバイスについては、オプションデバイスのマニュアルをご参照ください。

…
補足

オプションデバイスのマニュアルは、電子マニュアルとして『ユーザーズガイド』CD-ROM に含まれています。
また、紙マニュアルとしてオプションデバイスに添付されるものもあります。

タスク	実施項目	実施周期
アップデートの確認と実施	「HA8000 ホームページ」でドライバ、ユーティリティ、ファームウェアのアップデート確認	1 か月
	「HA8000 ホームページ」からダウンロードしたドライバ、ユーティリティ、ファームウェアのアップデート実施	適宜
アラートの確認	システム装置や内蔵オプションの動作状況確認（ERROR ランプの点灯、FAN の異常音の有無など）	6 か月
	「Hitachi Compute Systems Manager（以下 HCSM）」によるアラート通知の有無	毎日
	OS イベントログの異常の有無	毎日
	各種ユーティリティによるエラー通知の有無	毎日
クリーニング	システム装置の通気孔のほこり除去	6 か月 *1
	マウスの清掃	1 か月から 3 か月
	キーボードの清掃	6 か月
	内蔵 DVD-ROM/ 内蔵 DVD-RAM のピックアップレンズ部清掃	メディアエラー発生時
バックアップ	システム装置のハードディスク / SSD / PCIe SSD 格納データのバックアップ	適宜
	BMC のバックアップ	BMC 設定の変更時
	システム BIOS 設定のメモ	システム BIOS 設定の変更時
有寿命部品と消耗品の交換	稼働時間から寿命に達した部品の交換	寿命到達時
	使用回数から寿命に達したメディアなど消耗品の交換	寿命到達時

*1：ほこりが多い環境で使用される場合、清掃周期を 1 か月にしてください。

3.2 アップデートの確認と実施

システム装置を安全に、安定して稼働させるためには、ドライバやユーティリティ、ファームウェアを常に最新版にしておく必要があります。

ドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアに不具合があったり機能の更新があったりした場合、アップデートプログラムを「HA8000 ホームページ」で提供します。

→ [「1.1.6 ドライバ・ユーティリティ・ファームウェアのアップデート」 P.5](#)

1 か月に 1 度、「HA8000 ホームページ」の『ドライバ・ユーティリティ ダウンロード検索』にアクセスし、最新版のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアがないか確認してください。

もし最新版のドライバやユーティリティ、BIOS、ファームウェアが掲載されていたら、そのアップデートプログラムをダウンロードし、システム装置に適用してください。

アップデート方法は、アップデートプログラムに含まれる Readme やマニュアルをご参照ください。



「Hitachi Server Navigator」の「Update Manager」を使用すると、最新版のドライバやユーティリティの有無を確認して、ダウンロードおよびアップデートを簡単に行うことができます。

→ [「1.4.1 Hitachi Server Navigator」 P.38](#)

3.3 アラートの確認

システム装置は、次の方法で障害の発生を通知します。

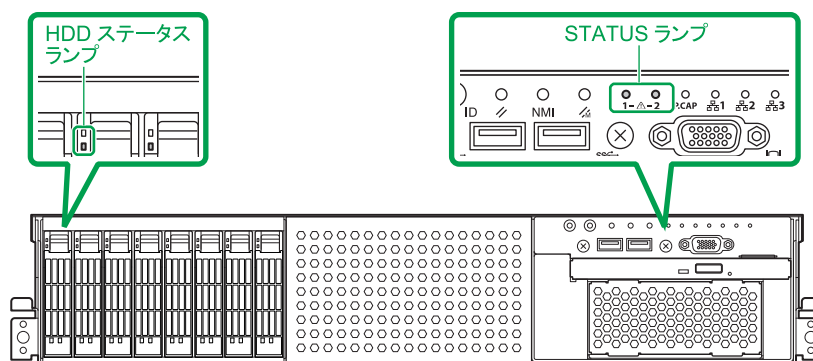
項番	通知方法	内容	備考
1	システム装置のランプ	システム装置のコンポーネントにエラーが発生したときに点灯する	エラー解除により消灯
2	通知アラート	「HCSM」が取得したシステム装置のエラー情報を表示する	—
3	SEL 情報	「Log Monitor Logger」がシステム装置からハードウェアエラー情報を取得する	—
4	RC 一覧表示	「Log Monitor」がシステム装置から取得したエラー情報を解析し、コード化して表示する	—
5	OS イベントログ	<ul style="list-style-type: none"> ■ システムログ、セキュリティログ、アプリケーションログに分類しイベントを記録する ■ エラーメッセージ以外に、システムやアプリケーションレベルで発生したイベントログを %SystemRoot%\SYSTEM32\config ディレクトリの下に格納 	イベントビューアーを使って参照可能
6	ユーティリティなどによるエラー通知	ユーティリティソフトやドライバなどが検知したエラーを、メッセージで通知する	RAID 管理ツール（Hitachi RAID Navigator）など
7	STOP メッセージ	ハードウェア構成とソフトウェア構成定義の不一致や、ハードウェアの不具合、ソフトウェア（OS およびドライバ）の不具合などにより、カーネル内でエラーが発生した場合に表示する	—

3.3.1 システム装置のランプ

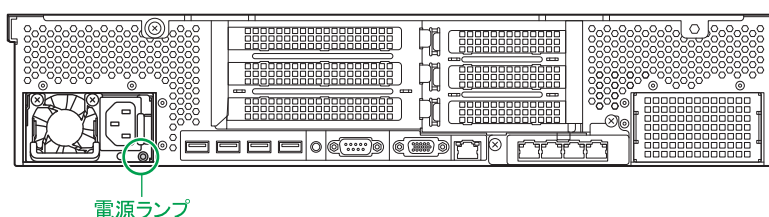
システム装置を構成するコンポーネントに障害が発生した場合、システム装置に備えられたランプにより障害を通知します。

部位	ランプ名称	ランプ状態	障害内容
ハードディスク キャニスタ	HDD ステータスランプ (エラーランプ)	アンバー点灯	ハードディスクキャニスタに搭載されたハードディスク / SSD にエラーが発生
	HDD ステータスランプ (アクセスランプ)	緑点滅 (2 秒間隔で点滅を繰り返すパターン)	ハードディスクキャニスタに搭載された PCIe SSD にエラーが発生
操作パネル	STATUS ランプ	アンバー点灯	システム装置の致命的（クリティカル）なエラーが発生
		アンバー点滅	<ul style="list-style-type: none"> ・システム装置内の温度異常が発生 ・上記以外の警告レベルのエラーが発生
		消灯	システム装置のハードウェアエラーが発生
電源ユニット	電源ランプ	アンバー点灯	電源障害、電源コード脱落などのエラーが発生
		アンバー点滅	周辺温度が高いなど警告レベルのエラーが発生

<前面>



<背面>

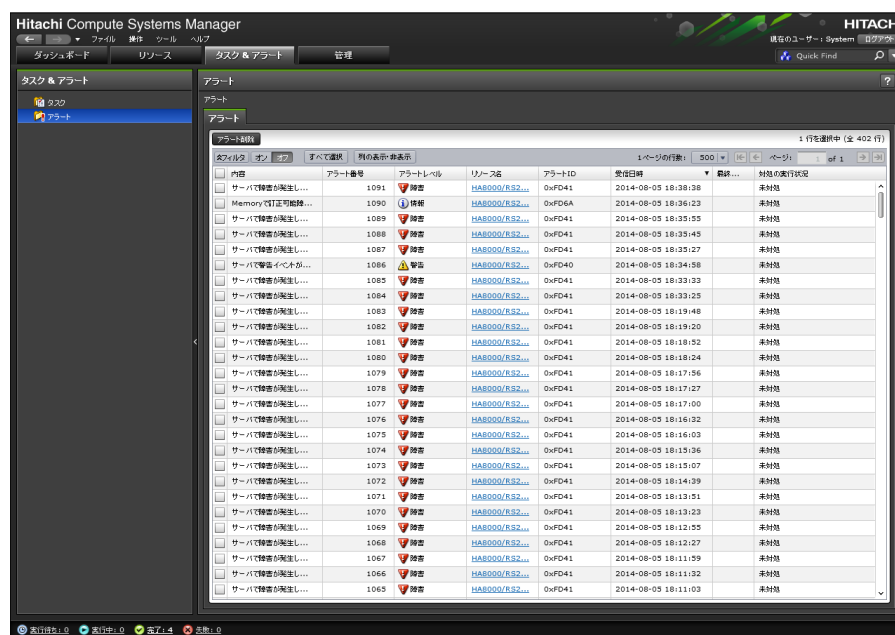


もしランプがエラー状態を示す点灯・点滅状態となった場合、「[4.5 システム装置のランプがエラー表示する場合の対処](#)」P.105 を参照し、対処してください。

ランプの点灯条件詳細については、『ユーザーズガイド ～導入編～』をご参照ください。

3.3.2 通知アラート

システム装置に障害が発生した場合、「HCSM」はその障害内容をアラートとして通知します。アラートは、「タスク&アラート」タブにある「アラート」をクリックすると確認できます。



「HCSM」のアラートと対処方法は、『ユーザーズガイド』CD-ROMに格納される『HCSM アラート一覧』をご参照ください。

3.3.3 SEL 情報

BMC が保持しているエラー情報（SEL：System Event Log）は、保守員がハードウェア障害の障害部位を特定するためにのみ使用します。通常の運用において SEL を意識する必要はありませんが、取得には保守専用のユーティリティを起動する必要があります。

このため、システム装置が縮退運転している場合や、発生した障害が間欠障害で業務を一時的に再開しているような場合でも、SEL 取得のためにいったん業務を止めなければなりません。

このとき「Log Monitor Logger」がインストールされていれば、業務を続けたまま SEL の内容が OS のイベントログに記録取得が可能となり、障害対策により業務を停止する時間を短縮することができます。

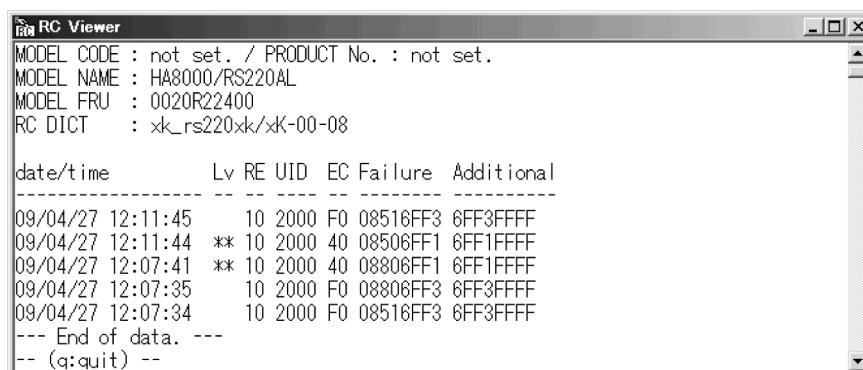
→ [「1.4.5 Log Monitor Logger」 P.39](#)

「Log Monitor Logger」の詳細は、『ユーザズガイド』CD-ROM に格納される『ユーザズガイド Log Monitor Logger 機能』をご参照ください。

3.3.4 RC 一覧表示

RC（Reference Code）一覧とは、「Log Monitor」がシステム装置で発生したハードウェア障害を検出し、障害解析したのちコード化したデータです。このデータを保守会社に連絡していただくことにより、円滑な障害対策を行うことができます。

RC 化された解析結果を表示させるには「Log Monitor」を起動し、[スタート]－[Hitachi Server Navigator]－[Log Monitor]－[RC Viewer]を選択します。



3.3.5 OS イベントログ

イベントログは、Windows での調査を行う場合に必要となるデータです。イベントログには、OS 内部で発生しているイベントが時系列で記録されます。イベントログを参照するための管理ツールとして「イベントビューアー」が用意されており、[スタート] - [管理ツール] - [イベントビューアー] で起動できます。詳細は、イベントビューアーのヘルプをご参照ください。

イベントの種別には情報、警告、エラーがあります。イベントは、エラーや警告であっても一時的であったり、既知事例で問題がないことが確認されていたりします。

エラーや警告が発生した場合、まず既知事例であるかどうかを確認するため『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』や使用しているソフトウェアのマニュアルなどをご参照ください。

また、Windows 全般の事例に関しては、Microsoft 社のサポート技術情報 (Knowledge Base) をご確認ください。

■ Microsoft サポート : <http://support.microsoft.com/>

サポート技術情報 (Knowledge Base) でイベントログに関する情報を検索する場合は、イベントログで表示される情報のうち “イベントソース” と “イベント ID” をキーとすると効率よく検索できます。

3.3.6 ユーティリティなどによるエラー通知

「Hitachi RAID Navigator」などのユーティリティは、ポップアップメッセージやユーティリティ内のイベントログ表示などで障害通知を行います。

各ユーティリティのエラー通知の詳細は、それぞれのマニュアルをご参照ください。

3.4 クリーニング

システム装置と標準搭載のデバイスは、定期的なクリーニングが必要です。

次の説明に従ってクリーニングを行ってください。

なお、その他のオプションデバイスのクリーニングについては、オプションデバイスのマニュアルをご参照ください。

3.4.1 システム装置をクリーニングする

6 か月に一度の割合で定期的にシステム装置の通気孔をクリーニングしてください。（ほこりが多い環境で 사용되는場合は月に一度の割合で行ってください。）

通知

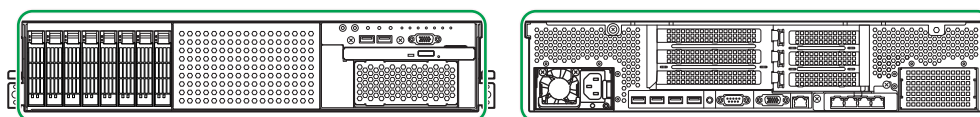
- システム装置のクリーニングは、電源を切り、電源コードを抜いた状態で行ってください。装置の故障の原因となります。
- 水などをシステム装置にかけないでください。また、水分を含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。

- 1 システム装置の電源を切ります。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』
- 2 システム装置背面に接続されているすべての電源コードを、コンセントおよびシステム装置から抜きます。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』



冗長用の電源ユニットが搭載されている場合、電源コードが2本接続されていますので、2本とも抜いてください。

- 3 システム装置に接続されているインタフェースケーブルを外します。
- 4 システム装置の次に示す箇所の通気孔のほこりを、乾いた布で拭くか掃除機で吸引します。



清掃箇所

- 5 インタフェースケーブルのコネクタおよびシステム装置のコネクタのほこりを乾いた布で取り除き、接続します。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』
- 6 電源コードの電源プラグのほこりを乾いた布で取り除き、コンセントおよびシステム装置に接続します。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』

3.4.2 キーボードをクリーニングする

6 か月に一度の割合でキーボードをクリーニングしてください。

通知

水などをキーボードやマウス、ディスプレイに直接かけないでください。また、水分を多量に含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。



かたい布やアルコール、シンナー、ベンジンなどでキーボードを拭かないでください。傷や変色の原因となります。

- 1 システム装置の電源を切ります。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』
- 2 キーボードの汚れを乾いた柔らかい布で拭き取ります。
落ちにくい汚れは中性洗剤を薄めた水を布にごく少量スプレーして拭いてください。

3.4.3 マウスをクリーニングする

1 か月から 3 か月に一度の割合でマウスをクリーニングしてください。

通知

水などをキーボードやマウス、ディスプレイに直接かけないでください。また、水分を多量に含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。



かたい布やアルコール、シンナー、ベンジンなどでマウスを拭かないでください。傷や変色の原因となります。

- 1 システム装置の電源を切ります。
→ 『ユーザーズガイド ～導入編～』
- 2 マウスの汚れを乾いた柔らかい布で拭き取ります。
落ちにくい汚れは中性洗剤を薄めた水を布にごく少量スプレーして拭いてください。
- 3 光センサー部が汚れている場合、乾いた柔らかい布で汚れを取り除きます。

3.4.4 ディスプレイをクリーニングする

6 か月に一度の割合でディスプレイをクリーニングしてください。

通知

水などをキーボードやマウス、ディスプレイに直接かけないでください。また、水分を多量に含んだ布などで拭かないでください。どちらも故障の原因となります。



ディスプレイの表面は乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。かたい布やアルコール、シンナー、ベンジンなどで拭くと傷や変色の原因となります。また、殺虫剤などをかけないようにしてください。

- 1 システム装置の電源を切ります。
→ 『ユーザズガイド ～導入編～』
- 2 ディスプレイの汚れを乾いた柔らかい布で拭き取ります。
落ちにくい汚れは中性洗剤を薄めた水を布にごく少量スプレーして拭いてください。
- 3 ほこりを掃除機や乾いた布で取り除きます。

3.4.5 内蔵 DVD ドライブのクリーニング

メディアのリードエラー発生時にピックアップレンズのクリーニングを行ってください。クリーニングキットは、CD/DVD レンズクリーナー (CD-CL (PC) / DVD-CL (S)) を使用します。ご購入は、お買い求め先にご相談ください。

クリーニングの仕方は、クリーニングキットの使用法に従ってください。



CD/DVD レンズクリーナー (CD-CL (PC) / DVD-CL (S)) を使用する場合は、Windows Media Player が必要です。(Window Server 2016 は不要)
Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 の場合は、[サーバーマネージャー] の [機能] - [機能の追加] から [ユーザーインターフェースとインフラストラクチャ] を展開し、[デスクトップエクスペリエンス] を追加インストールしてください。
Windows Server 2008 R2 の場合は、[サーバーマネージャー] の [機能] - [機能の追加] から、[デスクトップエクスペリエンス] を追加インストールしてください。

3.5 バックアップ

システム装置の故障や不正な操作によるデータの消失に備え、システム装置のハードディスク／SSD／PCIe SSD に格納されるデータや、BMC の設定をバックアップしてください。

また、システム BIOS の設定を工場出荷時設定から変更した場合、設定をメモしてください。

3.5.1 ハードディスク／SSD／PCIe SSD のバックアップ

システム装置内のハードディスク／SSD／PCIe SSD に格納されているデータは、外付けのテープデバイスなどに定期的にバックアップしてください。

→ 「(1) ハードディスク／SSD／PCIe SSD 内データのバックアップ」 P.4

バックアップの周期は、データの重要度により決定してください。

3.5.2 BMC 設定のバックアップ

BMC の設定を変更したり、ハードウェアの構成を変更したりした場合は、Web コンソールのバックアップ・リストア機能でシステム情報をバックアップしてください。故障などによりシステム情報が消えた場合には、この情報をリストアすることによって交換以前と同じ状態にすることができます。

詳細は、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

3.5.3 システム BIOS 設定のメモ

システム BIOS 設定値を工場出荷時設定から変更した場合は、変更した設定項目と設定値を漏らさずメモし、保管してください。故障などによりシステム情報が消えた場合は、再設定するために必要になります。設定値をメモして保管していない場合、設定を元に戻せません。

3.6 有寿命部品と消耗品の交換

システム装置には、稼働により劣化・消耗する有寿命部品があります。また、メディアなど使用回数により劣化・消耗する消耗品があります。

これらは、寿命に達した場合に交換する必要があります。

3.6.1 有寿命部品

本システム装置は、5年（1日24時間、1か月30日）の寿命を想定し設計しております。
システム装置の部品の中には、使用しているうちに劣化・消耗する有寿命部品が含まれています。
有寿命部品の種類と寿命は、システム装置に適用される保守サービスにより異なります。

通知

有寿命部品にはアルミ電解コンデンサを使用しているものがあります。
アルミ電解コンデンサは寿命があり、寿命を超えて使用すると電解液の漏れまたは枯渇により発煙や異臭の原因となることがあります。
これらの危険を避けるために、有寿命部品について、設計寿命を超える場合には交換してください。

なお、ハードディスク／SSD／PCIe SSDは、故障によりシステム装置の安定稼働に大きな影響を及ぼします。寿命に至る前に交換することをお勧めします。



- 内蔵SSDや内蔵PCIe SSDは、保守サービス期間の5年以内であっても、想定を上回る書き換えが頻繁に発生する使用環境下では、最大書換容量制限に至る場合があります。
最大書換容量に到達すると、SSDは書換抑止モード（Read Onlyモード）に移行します。
定期的に残りの書換容量を監視し、Read Onlyモードに移行する前に予防交換してください。
予防交換については有償*1となりますので、お問い合わせ先または保守会社にご連絡ください。
また、使用されているフラッシュメモリーは、MLC（Multiple Level Cell）タイプであるため、最大書換容量制限を超えて寿命に至った場合、電源を切って長時間放置すると記録された電荷が放電され、データが消える特性があります。
- 内蔵SSDや内蔵PCIe SSDは、RAID管理ツールにHitachi RAID Navigatorを使用している場合、予備領域の残容量を認識できます。
想定を超える書換回数により、予備領域の残容量が少なくなり、最大書換容量制限に近づいたSSDはHitachi RAID Navigatorからアラートを通知します。アラートが通知された場合は、有償交換*1となりますので、お問い合わせ先または保守会社にご連絡ください。

*1: 内蔵SSD／内蔵PCIe SSDの形式の違いにより、有償／無償の扱いは異なります。
→「標準（3年無償保証）モデル／おまかせ安心モデル」P.75から始まる表を参照してください。



- ここに記載されていないオプションデバイスについては、オプションデバイスのマニュアルをご参照ください。
- システム装置内蔵のオプションデバイスのマニュアルは、電子マニュアルとして『ユーザーズガイド』CD-ROMに含まれています。
また、紙マニュアルとしてオプションデバイスに添付されるものもあります。
- 寿命時間（目安）はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことを保証するものではありません。

▶ 標準（3年無償保証）モデル / おまかせ安心モデル

主な有寿命部品は、次のとおりです。

寿命部品の予防交換については有償となりますので、お買い求め先または保守会社にご連絡ください。

品名	適用製品形名	備考
SSD SATA 200GB	UH7200CSA1、UH7200CSA1N、UH7200CSA1W	*1 *2 *3
SSD SAS 400GB	UH7400NCN、UH7400NCNN、UH7400NCNW	*1 *2 *3
SSD SAS 800GB	UH7800BSA1、UH7800BSA1N、UH7800BSA1W	*1 *2 *3
PCIe SSD 800GB	UH7800CSB1、UH7800CP1N、UH7800CP1W	*1 *2 *3
PCIe SSD 1.6TB	UH71600CSB1、UH71600CP1N、UH71600CP1W	*1 *2 *3
PCIe SSD 3.2TB	UH73200CSB1、UH73200CP1N、UH73200CP1W	*1 *2 *3
DVD-ROM ドライブ	UV5100EX	*4
DVD-RAM ドライブ	UV7170EX	*4

*1 SSDの総書換容量とDWPDを下記に示します。

*DWPD (drive write per day) : 5年間で1日当たりSSD容量全体を書き換えることができる回数

品名	総書換容量 [PB]	DWPD
SSD SATA 200GB	3.6	10
SSD SAS 400GB	7.3	
SSD SAS 800GB	14.6	
PCIe SSD 800GB	4.3	3
PCIe SSD 1.6TB	3.7	
PCIe SSD 3.2TB	17.3	

*2 形名「UH7*****N」: “*” は任意の英数字: 寿命に至った場合、有償交換となります。

*3 形名「UH7*****W」: “*” は任意の英数字: 寿命に至った場合、無償交換となります。

*4 『ユーザーズガイド 〜導入編〜』で規定された設置環境で稼働した場合、通電による寿命時間（目安）は約13,000時間です。
1日24時間、1か月30日の通電稼働をしたとき、寿命は約1.5年となります。
上記の環境条件を超えて使用した場合、故障の原因となったり、寿命が短くなったりします。

▶ ロングライフモデルⅡ / おまかせ安心ロングライフモデル

ロングライフモデルⅡ / おまかせ安心ロングライフモデルは、設置環境の温度条件を厳しくすることで、システム装置の設計寿命である5年を超えて最長7年の保守サービス期間を提供します。このため、標準モデル / おまかせ安心モデルとは有寿命部品とその寿命時間が異なります。

ロングライフモデルⅡ / おまかせ安心ロングライフモデルにおける主な有寿命部品は、次のとおりです。

品名	適用製品形名	備考
ハードディスクドライブ	(システム装置標準)、UH7300BA1、UH7450BA1、UH7600BA1、UH7300BB1、UH7600BB1、UH71200BB1、UH71800BB1	*1
SSD SATA 200GB	UH7200CSA1、UH7200CSA1N、UH7200CSA1W	*2 *3 *4
SSD SAS 400GB	UH7400NCN、UH7400NCNN、UH7400NCNW	*2 *3 *4
SSD SAS 800GB	UH7800BSA1、UH7800BSA1N、UH7800BSA1W	*2 *3 *4
PCIe SSD 800GB	UH7800CP1N、UH7800CP1W	*2 *3 *4
PCIe SSD 1.6TB	UH71600CP1N、UH71600CP1W	*2 *3 *4
PCIe SSD 3.2TB	UH73200CP1N、UH73200CP1W	*2 *3 *4
電源ユニット	(システム装置標準)、BP2371、BP2372、BP2363	*1
DVD-ROM ドライブ	UV5100EX	*5
DVD-RAM ドライブ	UV7170EX	*5
LTO	UU781A、UU715A、UU7250、UU7600	*1
RDX	SUR5310000N	*1

*1 『ユーザーズガイド ～導入編～』「1.2 設置環境」で規定された設置環境で稼働した場合、通電による寿命時間（目安）は約43,800時間です。1日24時間、1か月30日の通電稼働をしたとき、寿命は約5年となります。

上記の環境条件を超えて使用した場合、故障の原因となったり、寿命が短くなったりします。

*2 SSDの総書換容量とDWPDを下記に示します。

*DWPD (drive write per day) : 5年間で1日当たりSSD容量全体を書き換えることができる回数

品名	総書換容量 [PB]	DWPD
SSD SATA 200GB	3.6	10
SSD SAS 400GB	7.3	
SSD SAS 800GB	14.6	
PCIe SSD 800GB	4.3	3
PCIe SSD 1.6TB	3.7	
PCIe SSD 3.2TB	17.3	

*3 形名「UH7*****N」: “*” は任意の英数字: 寿命に至った場合、有償交換となります。

*4 形名「UH7*****W」: “*” は任意の英数字: 寿命に至った場合、無償交換となります。

*5 『ユーザーズガイド ～導入編～』「1.2 設置環境」で規定された設置環境で稼働した場合、通電による寿命時間（目安）は約13,000時間です。1日24時間、1か月30日の通電稼働をしたとき、寿命は約1.5年となります。

上記の環境条件を超えて使用した場合、故障の原因となったり、寿命が短くなったりします。

▶ 長期保守対応モデル / おまかせ安心長期保守モデル

長期保守対応モデル / おまかせ安心長期保守モデルは、設置環境の温度条件を厳しくすることで、システム装置の設計寿命である5年を超えて、最長10年の保守サービス期間を提供します。このため、標準モデル / おまかせ安心モデルとは、有寿命部品とその寿命時間が異なります。

長期保守対応モデル / おまかせ安心長期保守モデルの主な有寿命部品は、次のとおりです。

品名	適用製品形名	備考
ハードディスクドライブ	GU-SUH7600BA1R、GU-SUH7600BB1R	*1
SSD SATA 200GB	UH7200CSA1N、UH7200CSA1W	*2 *3 *4
SSD SAS 400GB	UH7400NCNN、UH7400NCNW	*2 *3 *4
SSD SAS 800GB	UH7800BSA1N、UH7800BSA1W	*2 *3 *4
電源ユニット	(システム装置標準)	*1
DVD-ROM ドライブ	UV5100EX	*5
DVD-RAM ドライブ	UV7170EX	*5
マザーボード	(システム装置標準)	*6
フロントパネルボード	(システム装置標準)	*6
HDD バックプレーンボード	(システム装置標準)、GU-SES7640REX	*6
PCI ライザボード	(システム装置標準)、GU-SES7562REX	*6
ファンボード	(システム装置標準)	*6
システムファン	(システム装置標準)	*6
LAN 拡張カード	(システム装置標準：1G 4ポート)、 (システム装置標準：10G 2ポート + 1G 2ポート)	*6
エキスパンダーボード	GU-SES7640REX	*6
TPM ボード	GU-SES7563REX	*6
RDX	GU-SUR5310000R	*1

*1 『ユーザーズガイド ～導入編～』「1.2 設置環境」で規定された設置環境で稼働した場合、通電による寿命時間（目安）は約43,800時間です。1日24時間、1か月30日の通電稼働をしたとき、寿命は約5年となります。
上記の環境条件を超えて使用した場合、故障の原因となったり、寿命が短くなったりします。

*2 SSDの総書換容量とDWPDを下記に示します。

*DWPD (drive write per day)：5年間で1日当たりSSD容量全体を書き換えることができる回数

品名	総書換容量 [PB]	DWPD
SSD SATA 200GB	3.6	10
SSD SAS 400GB	7.3	
SSD SAS 800GB	14.6	

*3 形名「UH7*****N」：「*」は任意の英数字：寿命に至った場合、有償交換となります。

*4 形名「UH7*****W」：「*」は任意の英数字：寿命に至った場合、無償交換となります。

*5 『ユーザーズガイド ～導入編～』「1.2 設置環境」で規定された設置環境で稼働した場合、通電による寿命時間（目安）は約13,000時間です。1日24時間、1か月30日の通電稼働をしたとき、寿命は約1.5年となります。
上記の環境条件を超えて使用した場合、故障の原因となったり、寿命が短くなったりします。

*6 『ユーザーズガイド ～導入編～』「1.2 設置環境」で規定された設置環境で稼働した場合、通電による寿命時間（目安）は約60,480時間です。1日24時間、1か月30日の通電稼働をしたとき、寿命は約7年となります。
上記の環境条件を超えて使用した場合、故障の原因となったり、寿命が短くなったりします。

3.6.2 定期交換部品 (長期保守対応モデル / おまかせ安心長期保守モデル)

長期保守対応モデル / おまかせ安心長期保守モデルは、システム装置の安定稼働を維持するため、通電稼働が 5 年を超えた頃から 7 年になる前までに次の有寿命部品を定期交換する必要があります。

品名	適用製品形名
ハードディスクドライブ	GU-SUH7600BA1R、GU-SUH7600BB1R
電源ユニット	(システム装置標準)
マザーボード	(システム装置標準)
フロントパネルボード	(システム装置標準)
HDD バックプレーンボード	(システム装置標準)、GU-SES7640REX
PCI ライザボード	(システム装置標準)、GU-SES7562REX
ファンボード	(システム装置標準)
システムファン	(システム装置標準)
LAN 拡張カード	(システム装置標準：1G 4 ポート)、 (システム装置標準：10G 2 ポート + 1G 2 ポート)
エキスパンダーボード	GU-SES7640REX
TPM ボード	GU-SES7563REX
RDX	GU-SUR5310000R

3.6.3 消耗品

内蔵 DVD ドライブで使用するメディアとレンズクリーナーは消耗品です。
消耗品については、お買い求め先にご相談ください。

通知

データメディアやクリーニングメディアなどの消耗品は指定されたものを使用してください。指定以外のものを使用すると製品の信頼性を低下させるだけでなく、故障の原因となります。

… 補足

- ここに記載されていないオプションデバイスについては、オプションデバイスのマニュアルをご参照ください。
- オプションデバイスのマニュアルは、電子マニュアルとして『ユーザズガイド』CD-ROM に含まれています。
また、紙マニュアルとしてオプションデバイスに添付されるものもあります。

分類	適用製品の形名	消耗品名	形名
内蔵 DVD-ROM	UV5100EX	CD/DVD レンズクリーナー	CD-CL (PC) / DVD-CL (S)
内蔵 DVD-RAM	UV7170EX	CD/DVD レンズクリーナー	CD-CL (PC) / DVD-CL (S)
		DVD-RAM メディア	DRM47PWC.S1P5S A

3.7 困ったときには

ここでは、システム装置の運用時に発生した問題に対して、適切にご対処いただけるよう、さまざまなケースに応じた対処方法と関連項目の参照先を記載しています。

また、HA8000 ホームページでもよくある質問とその対処法を掲載しておりますので、そちらもご参照ください。

■ ホームページアドレス：<http://www.hitachi.co.jp/ha8000/>

No	内容	確認事項・対処方法
1	システム装置の使い方が分からない マニュアルの内容に疑問がある	<ul style="list-style-type: none"> ■ マニュアルには『ユーザーズガイド』のほか、オプションデバイスのマニュアルがあります。該当する項目をご確認ください。なお、オプションデバイスのマニュアルは、付属の『ユーザーズガイド』CD-ROM に含まれますが、オプションデバイスに紙マニュアルとして添付されるものもあります。 ■ マニュアルの内容に疑問があるときは、HCA センタにお問い合わせください。→『ユーザーズガイド ～導入編～』
2	システム装置が正常に動作しない エラーが発生した	<ul style="list-style-type: none"> ■ [4 トラブルシュート] P.81 をご参照ください。
3	ウィルスに感染した	<ul style="list-style-type: none"> ■ ネットワークケーブルを外し、お使いのウィルス対策ソフトに添付されるマニュアルに従ってください。 ■ バックアップデータの復元が必要な場合は、[3.5 バックアップ] P.73 をご参照ください。 ■ OS の再インストールが必要な場合は、『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』をご参照ください。
4	オプションデバイスを取り付けたい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 装置の取り付けについては、『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』の該当項目をご参照ください。 ■ ドライバのインストール方法は、オプションデバイスに添付されるマニュアルをご参照ください。
5	バックアップを作成・復元したい	<ul style="list-style-type: none"> ■ [3.5 バックアップ] P.73 をご参照ください。
6	ディスクアレイを変更したい ディスクアレイの運用について	<ul style="list-style-type: none"> ■ RAID BIOS から設定を行ってください。RAID BIOS の詳細は、『ユーザーズガイド ～BIOS 編～』をご参照ください。 ■ そのほか、『ユーザーズガイド』CD-ROM に入っている『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド RAID 管理機能』もご参照ください。
7	機能を拡張したい	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新たにオプションデバイスや、ソフトウェアを追加したい場合は、お買い求め先にご相談ください。
8	サービス・サポートについて お問い合わせ先について	<ul style="list-style-type: none"> ■ 『ユーザーズガイド ～導入編～』をご参照ください。
9	その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ その他の分からないことは、HA8000 ホームページをご参照いただくか、お買い求め先にお問い合わせください。

[illegible]

4

トラブルシューティング

この章では、システム装置に問題が発生した場合のトラブルシューティングについて記載します。

4.1 こんな状態のときには	82
4.2 エラーメッセージが表示される場合の対処	85
4.3 ハードディスク / SSD 起動時のエラーの対処	103
4.4 ビープ音が鳴る場合	104
4.5 システム装置のランプがエラー表示する場合の対処	105
4.6 メモリダンプの採取	107
4.7 ハードウェア障害を連絡する	114
4.8 システム装置の強制オフとリセット	115
4.9 ハードディスク / SSD / PCIe SSD に障害が発生したときの交換作業	117
4.10 電源ユニットに障害が発生したときの交換作業	119

4.1 こんな状態のときには

システム装置や周辺機器が正しく動作しない現象とその対処方法をまとめています。次の対処方法を行っても不具合が改善されない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

ご連絡いただく際は、「[4.7 ハードウェア障害を連絡する](#)」P.114 をご参照いただき、エラー情報をお書き留めのうえご連絡ください。

No	不具合現象	確認事項・対処方法
1	POWER ランプスイッチが点灯しない（電源が入らない）	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電源規格に合ったコンセントまたは無停電電源装置（UPS）に接続されていますか？ →『ユーザーズガイド ～導入編～』 ■ 添付の電源コードまたはオプションの電源コードを使用していますか？また、電源コードに破損した箇所はありませんか？ ■ 電源コードは正しく接続されていますか？ →『ユーザーズガイド ～導入編～』 ■ 無停電電源装置（UPS）に接続しているときは、UPS の電源が ON になっていること、および UPS から電力が出力されていることを確認してください。詳しくは UPS に添付の説明書を参照してください。 ■ POWER ランプスイッチは ON になっていますか？ →『ユーザーズガイド ～導入編～』
2	異常な発熱や発煙、ショートが起きた	<ul style="list-style-type: none"> ■ 直ちに電源を切り、すべての電源コードを抜いてください。お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
3	起動時にエラーメッセージが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「4.2 エラーメッセージが表示される場合の対処」 P.85 に従って対処してください。
4	ハードディスク／SSD から起動されず、メッセージが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「4.3 ハードディスク／SSD 起動時のエラーの対処」 P.103 に従って対処してください。
5	システム装置の STATUS ランプ 1 が緑消灯または緑点滅したり、STATUS ランプ 2 がアンバー点灯またはアンバー点滅したりした	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「4.5 システム装置のランプがエラー表示する場合の対処」 P.105 に従って対処してください。
6	POST（Power On Self Test）が終了しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 大容量のメモリーを搭載していますか？ 搭載メモリーの容量が大きいと、メモリーチェックに時間がかかります。チェックが終わるまでお待ちください。 ■ 起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？ 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、キーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはシステム装置を再起動してください。また、再起動直後は、BIOS の起動メッセージなどを表示するまでキーボードやマウスの操作をしないよう注意してください。 ■ WEB コンソール設定メニューの「ECO」－「Shutdown System」の設定を有効にしていますか？ リモート端末から「ECO」－「Shutdown System」の設定を確認してください。 →『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』 なお、リモート端末が用意できない場合は、システム装置に搭載されているオプションデバイスを取り外すなどして全体の消費電力を下げたあと、システム装置を起動してください。 また、関連の「Power Threshold(Pa)」の設定値が正常に起動する値に設定されているか、確認してください。 「Shutdown System」の設定を継続して使用したい場合は、十分に考慮した値を設定してください。

No	不具合現象	確認事項・対処方法
7	OS が起動しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスクアレイコントローラのBIOS設定を変更していませんか？ →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』 ■ システム BIOS 設定は、正しいですか？ 「Boot Option Priorities」で、OS がインストールされているデバイス（ブートデバイス）の優先順位が、ほかのブートデバイスより上位にあることを確認してください。あわせて「HDD Priorities」も同様に確認してください。 →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』 ■ 内蔵 RDX にカートリッジが入っていませんか？ カートリッジを抜くか、システム BIOS の「Boot Option Priorities」でブート順位を変更してください。 →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』
8	システムが応答しなくなった	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原因が特定できません。 保守員をお呼びいただくか、お買い求め先にご連絡ください。 なお、無応答障害の原因究明をサポートサービスに求める場合、メモリダンプを採取し、サポートサービス窓口へ送付してください。 →「4.6 メモリダンプの採取」P.107
9	システム装置の管理ユーティリティがアラートを通知した	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各管理ユーティリティのマニュアルを参照し、対処してください。 「Hitachi Compute Systems Manager」を使用している場合、アラートについては、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『HCSM アラート一覧』をご参照ください。
10	メモリー容量が実際に取り付いている容量より少ない	<ul style="list-style-type: none"> ■ メモリーはしっかりと正しく取り付けられていますか？ なお、使用できるメモリー容量は、メモリーホルダーの影響を受けて減少することがあります。 →『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』 ■ メモリー RAS 機能を有効に設定していませんか？この機能を使用するとメモリーの一部または半分を冗長用に使用するため容量が少なくなります。システム BIOS セットアップメニューの設定をご確認ください。 →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』
11	内蔵デバイスが動作しない (HDD、DVD-ROM、LTO など)	<ul style="list-style-type: none"> ■ 内部ケーブルは正しくしっかりと接続されていますか？ 電源ケーブルは接続されていますか？ →『ユーザーズガイド ～オプションデバイス編～』 ■ システム BIOS や RAID BIOS の設定は、正しいですか？ →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』 ■ 対応したドライバはインストールされていますか？ →『オプションデバイスマニュアル』
12	内蔵 DVD で、CD/DVD にアクセスできない、または正しく再生できない	<ul style="list-style-type: none"> ■ トレイに確実にセットしていますか？ トレイには CD/DVD を保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。 ■ 本装置で利用できる CD/DVD ですか？ CD 規格に準拠しない「コピーガード付き CD」などのディスクにつきましては、CD 再生機器における再生の保証はできません。
13	内蔵 DVD で、イジェクトボタンを押してもトレイが開かず CD/DVD が取り出せない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電源を切り、細長い棒で手動イジェクト穴を押してトレイを手で引き出してください。→『ユーザーズガイド ～導入編～』
14	POWER ランプスイッチを押しても電源が切れない	<ul style="list-style-type: none"> ■ システム BIOS の「Power Switch Inhibit」を有効にしていますか？ この設定が有効のときは、POWER ランプスイッチで電源を切ることができない状態になります。 「Power Switch Inhibit」の設定を確認してください。 →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』
15	キーボードがきかない、または入らないキーがある マウスが正常に動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ キーボードケーブルは装置に正しく接続されていますか？ マウスケーブルは装置に正しく接続されていますか？ →『ユーザーズガイド ～導入編～』
16	シリアルポートが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ セットアップメニューの設定は、正しいですか？ →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』
17	プリンタが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ プリンタの電源は入っていますか？ ケーブルは正しく接続されていますか？ 対応したドライバはインストールされていますか？ →『プリンタ添付マニュアル』

No	不具合現象	確認事項・対処方法
18	ディスプレイに何も表示されない、画面にゴミが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ■ ディスプレイの電源スイッチが入っていますか？ ディスプレイのコントラスト調節ボリューム、輝度調節ボリュームが暗くなりすぎていませんか？ 電源コードが、ディスプレイとコンセントの両方に正しく接続されていますか？ →『ディスプレイ添付マニュアル』 ■ ディスプレイケーブルが、ディスプレイとシステム装置の両方に正しく接続されていますか？ →『ユーザーズガイド ～導入編～』
19	表示される画像が乱れる	<ul style="list-style-type: none"> ■ システム装置の周囲に、電源の入っている精密機器を置いていませんか？ ■ システム装置の使用中に、システム装置やディスプレイの位置を変えていませんか？ディスプレイに地磁気の影響や色ムラが発生することがあります。一度電源を切り、30分以上時間をおいてから再びお使いください。 ■ システム装置とディスプレイを近接して置いていませんか？システム装置とディスプレイを離すか、リフレッシュレートの設定値を上げてください。
20	マウスカーソルだけが表示される	<ul style="list-style-type: none"> ■ 原因が特定できません。 保守員をお呼びいただくか、お買い求め先にご連絡ください。
21	ディスプレイの表示が読めない、または歪んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ■ リフレッシュレートの設定がディスプレイの仕様を超えていませんか？→『ディスプレイ添付マニュアル』
22	ネットワーク上で認識されない	<ul style="list-style-type: none"> ■ LAN ケーブルを接続していますか？ LAN ケーブルが、システム装置とスイッチング HUB の両方に正しく接続されていますか？ また、使用する LAN ケーブルが規格に準拠したものであるか確認してください。 →『ユーザーズガイド ～導入編～』 ■ システム BIOS の LAN 拡張カード設定を無効にしていますか？ 「Advanced」－「PCI Configuration」－「PCI Device Controller and Option ROM Settings」－「PCIxx Slot Option ROM」－「LAN Controller」、 「LANx Option ROM Scan」の設定を確認してください。 →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』 ■ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？ LAN 拡張カードのドライバをインストールしてください。 →『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』 また、TCP/IP などのプロトコルや各種サービスが設定されているか確認してください。 ■ 転送速度の設定を間違えていませんか？ 転送速度やデュプレックスモードが、接続しているスイッチング HUB と同じであるか確認してください。
23	システム BIOS セットアップメニューの設定を変更したら正しく動作しなくなった	<ul style="list-style-type: none"> ■ システム BIOS セットアップメニューの設定値を出荷時の状態に戻します。 →『ユーザーズガイド ～ BIOS 編～』
24	他社流通製品を使用したら正しく動作しなくなった	<ul style="list-style-type: none"> ■ 流通製品に原因があると考えられます。 流通製品メーカーにお問い合わせください。

4.2 エラーメッセージが表示される場合の対処

エラーメッセージが表示された場合、次のとおり対処してください。

4.2.1 システム BIOS エラーメッセージ

POST（Power On Self Test）時に異常が検出されると、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。次の表の「対処方法」の内容に従って処置してください。

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
8000	System variable is corrupted.	システム BIOS セットアップ情報が不正です。	セットアップメニューを起動して、「Load Setup Defaults」の実行、および必要な設定をしてください。再設定しても同じエラーメッセージが続けて検出される場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
8001	Real time clock error	リアルタイムクロックのエラーです。	セットアップメニューを起動して、時刻や日付を設定し直してください。再設定しても同じエラーメッセージが続けて検出される場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
8002	Check date and time settings	リアルタイムクロックの設定時刻が不正です。	
8003	System battery is dead - Replace and run SETUP	MB のバッテリーが消耗しています。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
8005	Previous boot incomplete - Default configuration used	前回の起動時、POST が完了しませんでした。	セットアップメニューを起動して、「Load Setup Defaults」の実行、および必要な設定をしてください。再設定しても同じエラーメッセージが続けて検出される場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
8006	System configuration data cleared by Jumper.	ジャンパーによってセットアップメニューの設定がクリアされました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
8007	SETUP Menu Password cleared by Jumper.	ジャンパーによってセットアップメニューのパスワードがクリアされました。	
8020	BIOS update error.	システム BIOS の更新に失敗しました。	システム BIOS の更新を再度実行してください。再実行しても同じエラーメッセージが続けて検出される場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
8021	Recovery jumper is set, but recovery images is not found.	リカバリージャンパーがセットされていますが、リカバリー用のデータがありません。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
8800	DXE_NB_ERROR	チップセットの初期化でエラーが起きました。	
8801	DXE_NO_CON_IN	コンソールの初期化でエラーが起きました。	
8802	DXE_NO_CON_OUT		
8803	PEI_DXE_CORE_NOT_FOUND	システム用フラッシュメモリーが故障しました。	
8804	PEI_DXEIPL_NOT_FOUND		
8805	DXE_ARCH_PROTOCOL_NOT_AVAILABLE		
8806	PEI_RESET_NOT_AVAILABLE	正しくリセットできませんでした。	
8807	DXE_RESET_NOT_AVAILABLE		
8808	DXE_FLASH_UPDATE_FAILED	システム用フラッシュメモリーへ正しく書き込めませんでした。	
8830	PEI_RECOVERY_NO_CAPSULE	システム用フラッシュメモリーが修復できませんでした。	
8831	PEI_RECOVERY_PPI_NOT_FOUND		
8832	PEI_RECOVERY_FAILED		
9000	Unsupported CPU detected	未サポートの CPU を検出しました。	
9001	Unsupported CPU detected on CPU #1		
9002	Unsupported CPU detected on CPU #2		
9021	Unsupported CPU Speed detected on CPU #1	未サポートのクロック周波数の CPU を検出しました。	
9022	Unsupported CPU Speed detected on CPU #2		
9040	PEI_CPU_SELF_TEST_FAILED	CPU の初期化でエラーが起きました。	
9041	Detected CPU Error on CPU #1	CPU#1 でエラーが起きました。	
9042	Detected CPU Error on CPU #2	CPU#2 でエラーが起きました。	
9060	PEI_CPU_MISMATCH	CPU#1 と #2 で異なった CPU が搭載されています。	
9080	Link in Slow Speed Mode between CPU1 and CPU2.	CPU1 と CPU2 間のバスが低速モードになっていることを検出しました。	
9081	Link Failure between CPU1 and CPU2.	CPU1 と CPU2 間のバスの接続エラーが起きました。	
9082	Link width Error between CPU1 and CPU2.	CPU1 と CPU2 間のバス幅の低下を検出しました。	
9E80	Forced to use CPU with error.	CPU のエラーが起きましたが、強制的に有効にしました。	
A001	Memory Error detected in CPU1_DIMM1	CPU1_DIMM1 でエラーが起きました。	
A002	Memory Error detected in CPU1_DIMM2	CPU1_DIMM2 でエラーが起きました。	
A003	Memory Error detected in CPU1_DIMM3	CPU1_DIMM3 でエラーが起きました。	
A004	Memory Error detected in CPU1_DIMM4	CPU1_DIMM4 でエラーが起きました。	

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
A005	Memory Error detected in CPU1_DIMM5	CPU1_DIMM5 でエラーが起きました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
A006	Memory Error detected in CPU1_DIMM6	CPU1_DIMM6 でエラーが起きました。	
A007	Memory Error detected in CPU1_DIMM7	CPU1_DIMM7 でエラーが起きました。	
A008	Memory Error detected in CPU1_DIMM8	CPU1_DIMM8 でエラーが起きました。	
A009	Memory Error detected in CPU1_DIMM9	CPU1_DIMM9 でエラーが起きました。	
A00A	Memory Error detected in CPU1_DIMM10	CPU1_DIMM10 でエラーが起きました。	
A00B	Memory Error detected in CPU1_DIMM11	CPU1_DIMM11 でエラーが起きました。	
A00C	Memory Error detected in CPU1_DIMM12	CPU1_DIMM12 でエラーが起きました。	
A00D	Memory Error detected in CPU2_DIMM1	CPU2_DIMM1 でエラーが起きました。	
A00E	Memory Error detected in CPU2_DIMM2	CPU2_DIMM2 でエラーが起きました。	
A00F	Memory Error detected in CPU2_DIMM3	CPU2_DIMM3 でエラーが起きました。	
A010	Memory Error detected in CPU2_DIMM4	CPU2_DIMM4 でエラーが起きました。	
A011	Memory Error detected in CPU2_DIMM5	CPU2_DIMM5 でエラーが起きました。	
A012	Memory Error detected in CPU2_DIMM6	CPU2_DIMM6 でエラーが起きました。	
A013	Memory Error detected in CPU2_DIMM7	CPU2_DIMM7 でエラーが起きました。	
A014	Memory Error detected in CPU2_DIMM8	CPU2_DIMM8 でエラーが起きました。	
A015	Memory Error detected in CPU2_DIMM9	CPU2_DIMM9 でエラーが起きました。	
A016	Memory Error detected in CPU2_DIMM10	CPU2_DIMM10 でエラーが起きました。	
A017	Memory Error detected in CPU2_DIMM11	CPU2_DIMM11 でエラーが起きました。	
A018	Memory Error detected in CPU2_DIMM12	CPU2_DIMM12 でエラーが起きました。	
A420	Online Spare Memory was not ready.	現在のメモリー構成では、Sparing 機能を有効にできません。	セットアップメニューを起動し、「Memory RAS Mode」の設定を確認してください。Sparing 機能、Mirroring 機能や Lockstep 機能を有効にしている場合、メモリーが縮退しているときも、このエラーになります。セットアップメニューを起動し、「Memory Retest」の設定を「Yes」に変更し、「Save Changes and Exit」を実行してください。問題が解決しないときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
A421	Mirroring Memory was not ready.	現在のメモリー構成では、Mirroring 機能を有効にできません。	
A423	Lockstep was not ready.	現在のメモリー構成では、Lockstep 機能を有効にできません。	

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
A428	Cluster On Die was not ready.	現在のハードウェア構成では、Cluster On Die 機能を有効にできません。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
A429	DIMM population is insufficient for Cluster On Die.	現在のメモリー構成では、Cluster On Die 機能を有効にできません。	
A800	Memory not detected	有効なメモリーが実装されていません。	メモリーが正しく実装されているか確認してください。同じメッセージが続けて表示されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
A801	PEI_MEMORY_NONE_USEFUL	利用可能なメモリーが実装されていません。	メモリー構成が正しいか確認してください。同じメッセージが続けて表示されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
A804	Latest memory module is corrupted.	システム用フラッシュメモリーが故障しました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
AE01	CPU1_DIMM1 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM1 が縮退しています。	
AE02	CPU1_DIMM2 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM2 が縮退しています。	
AE03	CPU1_DIMM3 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM3 が縮退しています。	
AE04	CPU1_DIMM4 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM4 が縮退しています。	
AE05	CPU1_DIMM5 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM5 が縮退しています。	
AE06	CPU1_DIMM6 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM6 が縮退しています。	
AE07	CPU1_DIMM7 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM7 が縮退しています。	
AE08	CPU1_DIMM8 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM8 が縮退しています。	
AE09	CPU1_DIMM9 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM9 が縮退しています。	
AE0A	CPU1_DIMM10 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM10 が縮退しています。	
AE0B	CPU1_DIMM11 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM11 が縮退しています。	
AE0C	CPU1_DIMM12 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU1_DIMM12 が縮退しています。	
AE0D	CPU2_DIMM1 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU2_DIMM1 が縮退しています。	
AE0E	CPU2_DIMM2 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU2_DIMM2 が縮退しています。	
AE0F	CPU2_DIMM3 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU2_DIMM3 が縮退しています。	
AE10	CPU2_DIMM4 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU2_DIMM4 が縮退しています。	
AE11	CPU2_DIMM5 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU2_DIMM5 が縮退しています。	
AE12	CPU2_DIMM6 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。CPU2_DIMM6 が縮退しています。	

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
AE13	CPU2_DIMM7 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。 CPU2_DIMM7 が縮退しています。	お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
AE14	CPU2_DIMM8 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。 CPU2_DIMM8 が縮退しています。	
AE15	CPU2_DIMM9 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。 CPU2_DIMM9 が縮退しています。	
AE16	CPU2_DIMM10 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。 CPU2_DIMM10 が縮退しています。	
AE17	CPU2_DIMM11 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。 CPU2_DIMM11 が縮退しています。	
AE18	CPU2_DIMM12 has been disabled.	メモリーエラーが起きました。 CPU2_DIMM12 が縮退しています。	
AE81	CPU1_DIMM1 with error is enabled.	CPU1_DIMM1 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE82	CPU1_DIMM2 with error is enabled.	CPU1_DIMM2 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE83	CPU1_DIMM3 with error is enabled.	CPU1_DIMM3 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE84	CPU1_DIMM4 with error is enabled.	CPU1_DIMM4 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE85	CPU1_DIMM5 with error is enabled.	CPU1_DIMM5 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE86	CPU1_DIMM6 with error is enabled.	CPU1_DIMM6 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE87	CPU1_DIMM7 with error is enabled.	CPU1_DIMM7 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE88	CPU1_DIMM8 with error is enabled.	CPU1_DIMM8 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE89	CPU1_DIMM9 with error is enabled.	CPU1_DIMM9 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE8A	CPU1_DIMM10 with error is enabled.	CPU1_DIMM10 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE8B	CPU1_DIMM11 with error is enabled.	CPU1_DIMM11 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE8C	CPU1_DIMM12 with error is enabled.	CPU1_DIMM12 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE8D	CPU2_DIMM1 with error is enabled.	CPU2_DIMM1 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE8E	CPU2_DIMM2 with error is enabled.	CPU2_DIMM2 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
AE8F	CPU2_DIMM3 with error is enabled.	CPU2_DIMM3 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
AE90	CPU2_DIMM4 with error is enabled.	CPU2_DIMM4 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE91	CPU2_DIMM5 with error is enabled.	CPU2_DIMM5 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE92	CPU2_DIMM6 with error is enabled.	CPU2_DIMM6 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE93	CPU2_DIMM7 with error is enabled.	CPU2_DIMM7 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE94	CPU2_DIMM8 with error is enabled.	CPU2_DIMM8 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE95	CPU2_DIMM9 with error is enabled.	CPU2_DIMM9 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE96	CPU2_DIMM10 with error is enabled.	CPU2_DIMM10 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE97	CPU2_DIMM11 with error is enabled.	CPU2_DIMM11 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
AE98	CPU2_DIMM12 with error is enabled.	CPU2_DIMM12 でエラーが起きましたが、すべてのメモリーが縮退中のため強制的に有効にしました。	
B000	Expansion ROM not initialized	オプション ROM が展開できませんでした。	OS 起動させないオプションボードのとき、オプション ROM 展開を無効にしてください。 セットアップメニューを起動して、Advanced メニューの「PCI Configuration」- 「PCI Device Controller and Option ROM Settings」- 「PCIxx Slot Option ROM」を「Disabled（無効）」に設定してください。（xx：PCI スロット番号）
B001	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 1B	PCI スロット 1B のオプション ROM が展開できませんでした。	
B004	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 1C	PCI スロット 1C のオプション ROM が展開できませんでした。	
B005	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 2C	PCI スロット 2C のオプション ROM が展開できませんでした。	
B006	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 3C	PCI スロット 3C のオプション ROM が展開できませんでした。	
B007	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 2D	PCI スロット 2D のオプション ROM が展開できませんでした。	
B008	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 3D	PCI スロット 3D のオプション ROM が展開できませんでした。	
B01A	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 1A	PCI スロット 1A のオプション ROM が展開できませんでした。	
B01D	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 1D	PCI スロット 1D のオプション ROM が展開できませんでした。	
B022	Serial Port Configuration Overlapped.	シリアルポート設定値が重複しています。	セットアップメニューを起動して、Advanced メニューの「Serial Port Configuration」を選択し、「Serial Port A」と「Serial Port B」の Base I/O、または Interrupt の設定が同じ値にならないように設定してください。

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
B030	PCI System Error on Bus/Device/Function	PCI SERR が起きました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
B040	PCI Parity Error on Bus/Device/Function	PCI PERR が起きました。	
B211	PCI Slot 1A - PCIe Link Failure	PCI スロット 1A にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B212	PCI Slot 1B - PCIe Link Failure	PCI スロット 1B にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B215	PCI Slot 1C - PCIe Link Failure	PCI スロット 1C にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B216	PCI Slot 2C - PCIe Link Failure	PCI スロット 2C にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B217	PCI Slot 3C - PCIe Link Failure	PCI スロット 3C にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B218	PCI Slot 1D - PCIe Link Failure	PCI スロット 1D にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B219	PCI Slot 2D - PCIe Link Failure	PCI スロット 2D にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B21A	PCI Slot 3D - PCIe Link Failure	PCI スロット 3D にて PCIe バスの接続エラーが起きました。	
B231	PCI Slot 1A - PCIe Link Width Error	PCI スロット 1A の Link Width エラーが起きました。	
B232	PCI Slot 1B - PCIe Link Width Error	PCI スロット 1B の Link Width エラーが起きました。	
B235	PCI Slot 1C - PCIe Link Width Error	PCI スロット 1C の Link Width エラーが起きました。	
B236	PCI Slot 2C - PCIe Link Width Error	PCI スロット 2C の Link Width エラーが起きました。	
B237	PCI Slot 3C - PCIe Link Width Error	PCI スロット 3C の Link Width エラーが起きました。	
B238	PCI Slot 1D - PCIe Link Width Error	PCI スロット 1D の Link Width エラーが起きました。	
B239	PCI Slot 2D - PCIe Link Width Error	PCI スロット 2D の Link Width エラーが起きました。	
B23A	PCI Slot 3D - PCIe Link Width Error	PCI スロット 3D の Link Width エラーが起きました。	
B271	PCI Slot 1A - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 1A の Link Speed エラーが起きました。	
B272	PCI Slot 1B - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 1B の Link Speed エラーが起きました。	
B273	PCI Slot 2B - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 2B の Link Speed エラーが起きました。	
B275	PCI Slot 1C - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 1C の Link Speed エラーが起きました。	
B276	PCI Slot 2C - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 2C の Link Speed エラーが起きました。	
B277	PCI Slot 3C - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 3C の Link Speed エラーが起きました。	
B278	PCI Slot 1D - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 1D の Link Speed エラーが起きました。	
B279	PCI Slot 2D - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 2D の Link Speed エラーが起きました。	

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
B27A	PCI Slot 3D - PCIe Link Speed Error	PCI スロット 3D の Link Speed エラーが起きました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
B800	DXE_PCI_BUS_OUT_OF_RESOURCES	PCI 拡張カードに割り当てるリソース不足が起きました。	
B801	DXE_IDE_DEVICE_FAILURE	SATA コントローラの初期化に失敗しました。	
C000	The error occurred during fan sensor reading.	ファンセンサーのリードエラーが起きました。	
C010	The error occurred during temperature sensor reading	温度センサーのリードエラーが起きました。	
C011	System Temperature out of the range.	温度異常が起きました。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C020	The error occurred during voltage sensor reading.	電圧センサーのリードエラーが起きました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C021	System Voltage out of the range.	電圧の異常が起きました。	
C040	SROM data read error	FRU のデータリードエラーが起きました。	
C061	1st SMBus device Error detected.	1st SM Bus でエラーが起きました。	
C062	2nd SMBus device Error detected.	2nd SM Bus でエラーが起きました。	
C063	3rd SMBus device Error detected.	3rd SM Bus でエラーが起きました。	
C064	4th SMBus device Error detected.	4th SM Bus でエラーが起きました。	
C065	5th SMBus device Error detected.	5th SM Bus でエラーが起きました。	
C066	6th SMBus device Error detected.	6th SM Bus でエラーが起きました。	
C067	7th SMBus device Error detected.	7th SM Bus でエラーが起きました。	
C068	8th SMBus device Error detected.	8th SM Bus でエラーが起きました。	
C101	BMC Memory Test Failed.	BMC のエラーが起きました。	電源コードを抜いて、30 秒待ってから再起動してください。同じエラーが続いて検出されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C102	BMC Firmware Code Area CRC check Failed.	BMC のエラーが起きました。	
C103	BMC core hardware failure.	BMC のエラーが起きました。	
C104	BMC IBF or OBF check failed.	BMC へのアクセス異常が起きました。	
C105	BMC SEL area full.	システムイベントログの保存エリアの空き容量が不足しています。	Web コンソールから、SEL（システムイベントログ）の記録方式が「古い SEL を上書き」に設定されているか確認してください。 SEL の記録方式を変更する場合、変更する前に SEL を保存してください。詳細は、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
C10B	BMC operational code corrupted.	BMC 用フラッシュメモリが故障しています。	電源コードを抜いて、30 秒待ってから再起動してください。同じエラーが続いて検出されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C10C	BMC update firmware corrupted.	BMC ファームウェアの更新で不正が起きました。	
C10D	Internal Use Area of BMC FRU corrupted.	装置情報を格納した FRU に不正が起きました。	
C10E	BMC SDR Repository empty.	BMC の SDR にエラーが起きました。	
C10F	IPMB signal lines do not respond.	Sattelite Management Controller が故障しました。	
C110	BMC FRU device failure.	装置情報を格納した FRU にエラーが起きました。	
C111	BMC SDR Repository failure.	SDR を格納した SROM が故障しました。	
C112	BMC SEL device failure.	BMC SEL デバイスが故障しました。	
C113	BMC RAM test error.	BMC RAM のエラーが起きました。	
C114	BMC Fatal hardware error.	ハードウェアに起因する BMC のエラーが起きました。	BMC のファームウェアを更新してください。同じエラーが続いて検出される場合は保守サービス会社に連絡してください。
C115	Management controller not responding	マネジメントコントローラからの応答がありません。	
C116	Private I2C bus not responding.	プライベート I2C バスからの応答がありません。	
C117	BMC internal exception	BMC 内部の異常を検出しました。	
C118	BMC A/D timeout error.	BMC の A/D タイムアウトエラーが起きました。	
C119	SDR repository corrupt.	BMC のエラーまたは SDR データの異常が起きました。	
C11A	SEL corrupt.	BMC のエラーまたはシステムイベントログのデータ異常が起きました。	
C11B	BMC Mezzanine card is not found.	SPI メザニンカードが搭載されていません。	
C11C	BMC Mezzanine partition is invalid.	SPI メザニンカードのフォーマット異常が起きました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C11D	BMC is in Forced Boot Mode.	BMC が Foced Boot Mode になっています。	
C11E	Communication with BMC was failed in previous boot	前回起動時に BMC との通信に失敗しました。	
C11F	Backup Data of BMC Mezzanine card has corrupted.	SPI メザニンカードの相違が起きました。	電源コードを抜いて、30 秒待ってから再起動してください。同じエラーが続いて検出されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C120	BMC Runtime FW corrupted.	BMC ファームウェアの起動に失敗しました。	
C121	BMC Force Update FW corrupted.	BMC ファームウェアの起動に失敗しました。	
C122	BMC Configuration area corrupted.	BMC コンフィギュレーションエリアの異常が起きました。	
C123	BMC eMMC inaccessible.	BMC 内部フラッシュメモリへのアクセス異常により初期化に失敗しました。	
C125	BMC emmC mode error.	BMC 内部フラッシュメモリの動作モードのエラーが起きました。	

エラーコード	エラーメッセージ	内容	対処方法
C126	BMC eMMC partition corrupted.	BMC 内部フラッシュメモリーのパーティション異常を検出しました。	電源コードを抜いて、30 秒待ってから再起動してください。同じエラーが続けて検出されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C127	BMC eMMC format corrupted.	BMC 内部フラッシュメモリーのフォーマット異常を検出しました。	
C128	BMC is in Update Mode.	BMC がファームウェアアップデートモードになっています。	
C300	Out - of - band setup configuration failure	SPI メザニンカードへのアクセスに異常が起きました。	
C301	SDR mismatch error.	SDR のハードウェア情報の不一致が起きました。	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C302	Hardware configuration error.	本機のハードウェア構成が不正です。	
C303	FAN Structure ID command error.	RAID コントローラ搭載時の FAN 制御が不正です。	
C304	Necessary to update SDR Version for new RAID Card.	RAID コントローラに対応する SDR が適用されいません。	
C310	Hardware configuration of cooling is insufficient.	冷却不足となる構成です。	
C320	Unmatched PSUs.	不適切な電源ユニットが搭載されています。	
C321	System power consumption is out-of-range in PSUs.	システム電力容量の容量オーバーです。	
C322	No information for system power consumption check.	システム電力容量チェックの情報取得に失敗しました。	
C323	Internal Use Area of BMC FRU is incompatible.	装置情報を格納した FRU が適合しませんでした。	電源コードを抜いて、30 秒待ってから再起動してください。同じエラーが続けて検出されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C501	ME is in Recovery Mode.	Intel(R) Node Manager が Recovery Mode になっています。	
C600	Internal Flash is not valid.	ワンタイム Boot デバイスで内蔵フラッシュメモリを指定したが、有効にできませんでした。	
C624	Invalid internal BIOS Configuration Data.	BIOS Configuration Data の内部エラーを検出しました。	
C625	BIOS Configuration Data Send Error.	BIOS Configuration Data の送信エラーです。	
C626	BIOS Configuration Data Read Error.	BIOS Configuration Data の読み込みエラーです。	セットアップメニューを起動して必要な設定をしてください。同じエラーが続けて検出されるときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
C627	BIOS Configuration Data Write Error.	BIOS Configuration Data の書き込みエラーです。	
C628	System configuration data cleared by System Boot Options command.	IPMI に準拠した「Set System Boot Options」の標準コマンドによって SETUP の設定がクリアされました。	

4.2.2 RAID BIOS メッセージ

起動時に RAID BIOS [LSI MegaRAID Configuration Utility]、[MegaRAID BIOS Configuration Utility] のメッセージが表示される場合があります。

次の表の「対処方法」の内容に従って処置してください。

なお、表示されるメッセージのすべてがエラーを表すものではありません。

エラーメッセージ	内容	対処方法
Cache data was lost because of an unexpected power-off or reboot during a write operation, but the adapter has recovered. This could be because of memory problems, bad battery, or you may not have a battery installed. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	ライト処理中に不正な電源断またはリブートを行っていないにもかかわらず、本メッセージが表示された場合は、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。	*1
The memory/battery problems were detected. The adapter was recovered, but cached data was lost. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.		
Cache data was lost, but the controller has recovered. This could be due to the fact that your controller had protected cache after an unexpected power loss and your system was without power longer than the battery backup time. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.		
The cache contains dirty data, but some VD's are missing. The cached data cannot be written to the disk. If this is an unexpected error, then power off your system and check your cables to ensure all disks are present. If you continue, the data in the cache will be permanently discarded. Press X to acknowledge and permanently destroy the cached data.		
Foreign configurations found on adapter. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	ディスクアレイコントローラ内ディスクアレイ構成情報と一致しないハードディスクが見つかりました。	*2
The battery hardware is missing or malfunctioning, the battery is unplugged, or the battery could be fully discharged. If you continue to boot the system, the battery-backed cache will not function. If the battery is connected and has been allowed to charge for 30 minutes and if this message continues to appear, contact technical support for assistance. Press D to disable this warning (if your controller does not have a battery).	キャッシュバックアップモジュール情報が正しく設定されていません。 本メッセージが表示されている間に [D] キーを押してください。	*3
The battery hardware is missing or malfunctioning, the battery is unplugged, or the battery could be fully discharged. If you continue to boot the system, the battery-backed cache will not function. If the battery is connected and has been allowed to charge for 30 minutes and if this message continues to appear, contact technical support for assistance.		

エラーメッセージ	内容	対処方法
Some configured disks have been removed from your system, or are no longer accessible. Check your cables and also ensure all disks are present. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	いくつかのディスクアレイ構成情報を持ったハードディスクが取り除かれています。	*4
The following VD's have missing disks: <ul style="list-style-type: none"> If you proceed (or load the configuration utility), these VD's will be marked OFFLINE and will be inaccessible. Check your cables and ensure all disks are present. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	いくつかのハードディスクが取り除かれているため、ディスクアレイは OFFLINE に設定されます。	*4
A discovery error has occurred. Power-cycle the system and all the enclosures attached to this system.	ディスクアレイコントローラもしくはハードディスクが正しく認識されませんでした。	*1
The following VD's are missing: If you proceed(or load the configuration utility), these VD's will be removed from your configuration. If you wish to use them at a later time, they will have to be imported. If you decide these VD's should be present, power off your system and check your cables to ensure all disks are present. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	取り除かれたディスクアレイ構成があります。	*4
The following VD's are missing complete spans. If you proceed(or load the configuration utility), these VD's will be removed from your configuration and the remaining drives marked as foreign. If you wish to use them at a later time, restore the missing spans and use foreign import to recover the VD's. If you believe these VD's should be present, please power off your system and check your cables to ensure all disks are present. Press any key to continue, or 'C' to load the configuration utility.		
All of the disks from your previous configuration are gone. If this is an unexpected message, then power off your system and check your cables to ensure all disks are present. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	ディスクアレイ構成情報を持ったすべてのハードディスクが取り除かれています。	*4
Your battery is either charging, bad, or missing, and you have VD's configured for write-back mode. Because the battery is not currently usable, these VD's will actually run in the write-through mode until the battery is fully charged or replaced if it is bad or missing. Press any key to continue.	キャッシュバックアップモジュール情報が不正です。	*1

エラーメッセージ	内容	対処方法
<p>Multibit ECC errors were detected on the RAID controller. The DIMM on the controller needs replacement. Contact technical support to resolve this issue. If you continue, data corruption can occur. Press X to continue or else power off the system and replace the DIMM module and reboot. If you have replaced the DIMM press X to continue.</p>	ディスクアレイコントローラのキャッシュメモリでエラーが発生しました。	*1
<p>Single-bit ECC errors were detected during the previous boot of the RAID controller. The DIMM on the controller needs replacement. Contact technical support to resolve this issue. Press X to continue or else power off the system and replace the DIMM module and reboot. If you have replaced the DIMM press X to continue.</p>		
<p>Single-bit overflow ECC errors were detected during the previous boot of the RAID controller. The DIMM on the controller needs replacement. Contact technical support to resolve this issue. If you continue, data corruption can occur. Press X to continue or else power off the system and replace the DIMM module and reboot. If you have replaced the DIMM press X to continue.</p>		
<p>Single-bit overflow ECC errors were detected during the previous boot of the controller. The DIMM on the controller needs replacement. If you continue, data corruption can occur. Press X to continue or else power off the system and replace the DIMM module and reboot. If you have replaced the DIMM press X to continue.</p>		
<p>Multibit ECC errors were detected on the RAID controller. If you continue, data corruption can occur. Contact technical support to resolve this issue. Press X to continue or else power off the system, replace the controller and reboot.</p>		
<p>Multiple Single-bit ECC errors were detected during the previous boot of the controller. The DIMM on the controller needs replacement. If you continue, data corruption can occur. Press X to continue or else power off the system, replace the DIMM module, and reboot. If you have replaced the DIMM, press X to continue.</p>		
<p>Single-bit overflow ECC errors were detected on the RAID controller. If you continue, data corruption can occur. Contact technical support to resolve this issue. Press X to continue or else power off the system, replace the controller and reboot.</p>		
<p>Memory Error. Please check the SDRAM connection. If problems persist contact Tech Support.</p>	ディスクアレイコントローラ上のメモリでエラーが発生しました。	*1
<p>Memory Error. Detected Unsupported RAID Controller Memory. Contact Tech support.</p>		
<p>Unrecoverable Error. Please check the SDRAM connection. If problems persist contact Tech Support.</p>		

エラーメッセージ	内容	対処方法
This is a TEST message. Press any key to ignore it, or wait 5 seconds. No further action is required. Press any key to continue, or C to load the configuration utility.	テストメッセージです。	*1
This firmware is an ALPHA version. It has not completed all validation.	ファームウェアがアルファバージョンです。	*1
This firmware is a BETA version. It has not completed all validation.	ファームウェアがベータバージョンです。	*1
This firmware is a TEST version. It has not completed any validation.	ファームウェアがテストバージョンです。	*1
The firmware version inconsistency was detected. The adapter was recovered, but cached data was lost. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	ファームウェアバージョンに矛盾が検出されました。	*1
Firmware Failed Validation. Adapter needs to be reflashed.		
The most recent configuration command could not be committed and must be retried. Press any key to continue, or press C to load the configuration utility.	ディスクアレイ構成情報がクリアされたか見つかりません。	*1
Previous configuration cleared or missing. Importing configuration created on X/Y X:Y Press any key to continue or press C to load the configuration utility.		
An enclosure was found that contains both SAS and SATA drives, but this controller does not allow mixed drive types in a single enclosure. Correct the problem and restart your system. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.	ディスクアレイコントローラが不正なパラメータで動作しています。	*1
SAS drives were detected, but this controller does not support SAS drives. Remove the SAS drives and restart your system. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.		
SATA drives were detected, but this controller does not support SATA drives. Remove the SATA drives, and restart your system. Press any key to continue or press C to load the configuration utility.		
Raid Key Missing. Please check the Raid Key connection. If problems persist contact Tech Support.		
Raid Key Authentication Error. Please check the RAID Key installed for this solution. If problems persist contact Tech Support.		
Raid Key OEM Authentication Error. Install the correct RAID key for this System. If problems persist contact Tech Support.		
There are more enclosures connected to the port than what is allowed for a single SAS port. Remove the extra enclosures, and then restart your system.	不正なエンクロージャが検出されました。	*1

エラーメッセージ	内容	対処方法
Invalid SAS topology detected. Check your cable configurations, repair the problem, and restart your system.	無効な SAS トポロジーを検出しました。	*1
Invalid SAS Address present in SBR. Contact your system support. Press any key to continue with the default SAS address.	無効な SAS アドレスが存在します。	*1
Invalid SAS Address present in MFC data. Program the valid SAS Address, and restart your system.		
Invalid memory configuration detected. Contact your system support. System has halted.	無効なメモリ構成情報が検出されました。	*1
Entering the configuration utility in this state result in drive configuration changes. Press Y to continue loading the configuration utility or power off your system and check your cables to ensure that all the disks are present, and then restart.	ハードディスクの構成情報が変更されました。	*1
External Enclosure does not support in controller's Direct mapping mode. Contact your system support. System has halted due to unsupported configuration.	エンクロージャから不正な情報を検出しました。	*1
Expander Detected in controller with Direct mapping mode. Reconfiguring automatically to persistent mapping mode. Automatic reboot would happen in 10 seconds.	サポートしていないデバイス（エキスパンダ）が検出されました。	*1
The controller's I/O processor has a fault that can potentially cause data corruption. Your controller needs replacement. Contact your system support. Press Y to acknowledge.	ディスクアレイコントローラのプロセッサが不正です。	*1
Number of disks exceeded the maximum supported count of X disks. Remove the extra drives and reboot the system to avoid losing data. Press Y to continue with extra drives.	不正なハードディスクが検出されました。	*1
Number of devices exceeded the maximum limit of devices per quad. Remove the extra drives and reboot the system to avoid losing data. System has halted due to unsupported configuration.		

エラーメッセージ	内容	対処方法
Drive security is enabled on this controller and a pass phrase is required. Please enter the pass phrase.	ハードディスクのセキュリティ機能はサポートしていません。	*1
Invalid pass phrase. Please enter the pass phrase.		
There was a drive security key error. All secure drives will be marked as foreign. Press any key to continue, or C to load the configuration utility.		
Invalid pass phrase. If you continue, there will be a drive security key error and all secure configurations will be marked as foreign. Reboot the machine to retry the pass phrase or press any key to continue.		
Unable to communicate to EKMS. If you continue, there will be a drive security key error and all secure configurations will be marked as foreign. Please check connection with the EKMS, reboot the machine to retry the EKMS or press any key to continue.		
Unable to change security to EKMS as not able to communicate to EKMS. If you continue, the drive security will remain to existing security mode. Please check connection with the EKMS, reboot the machine to retry the EKMS or press any key to continue.		
DKM existing key request failed; existing secure configurations will be labeled foreign and will not be accessible. Reboot server to retry.		
DKM new key request failed; controller security mode transition was not successful. Reboot server to retry request, or press any key to continue.		
The native configuration is no longer supported by the current controller settings. Please ensure that correct controller, iButton or key vault is being used. If you continue, the configuration will be marked foreign and part of it may be imported if possible. Press any key to continue.	元の構成情報は、本ディスクアレイコントローラ設定ではサポートしていません。	*1
The battery is currently discharged or disconnected. Verify the connection and allow 30 minutes for charging. If the battery is properly connected and it has not returned to operational state after 30 minutes of charging, contact technical support for additional assistance. Press D to disable this warning (if your controller does not have a battery).	キャッシュバックアップモジュール情報が不正です。	*1
The battery is currently discharged or disconnected. VDs configured in write-back mode will run in write-through mode to protect your data, and will return to write-back policy when the battery is operational. If VDs have not returned to write-back mode after 30 minutes of charging then contact technical support for additional assistance. The following VD is affected: X. Press any key to continue.		

エラーメッセージ	内容	対処方法
Two BBUs are connected to the adapter. This is not a supported configuration. Battery and caching operations are disabled. Remove one BBU and reboot to restore battery and caching operations. If dirty cache is lost in this boot, that could have been because of dual battery presence.	キャッシュバックアップモジュール情報が不正です。	*1
Firmware did not find valid NVDATA image. Program valid NVDATA image and restart your system. Press any key to continue.	ファームウェアの有効な設定ファイルが見つかりません。	*1
IR to MR Migration failed. Press any key to continue with MR defined NVDATA values.	マイグレーションはサポートしていません。	*1
There are offline or missing virtual drives with preserved cache. Check the cables and ensure that all drives are present. Press any key to enter the configuration utility.	論理ドライブが見つかりません。	*1
There are offline or missing virtual drives with preserved cache. Check the cables and ensure that all drives are present.		
Incompatible secondary iButton present! Please insert the correct iButton and restart the system. Press any key to continue but OEM-specific features will not be upgraded.	iButton が不正です。	*1
Upgrade Key Missing! An upgrade key was present on a previous power cycle, but it is not connected. This can result in inaccessible data unless it is addressed. Reattach the upgrade key and reboot.	アップグレードキーはサポートしていません。	*1
A snapshot rollback is in progress on VD's X, controller cannot boot until the rollback operation completes. Press any key to enter the configuration utility.	ロールバック中です。	*5
The VD's: X have Rollback active and corresponding Repository missing. If you continue to boot the system or enter the configuration utility, these VD's will become unusable. Press any key to continue.	ロールバック中に Snapshot Repository VD が取り外されました。	*5
Snapshot Repository VD's X have been removed from your system, or are no longer accessible. Please check your cables and ensure all disks are present. If you continue to boot the system, the snapshot-related data will be lost. Press any key to continue, or press C to load the configuration utility.	Snapshot Repository VD が取り外されました。	*5
Serial Boot ROM(SBR) device is corrupt or bad. Please contact Tech Support.	Serial Boot ROM (SBR) デバイスの不良です。	*1
USB cache device is not responding. Please power down system for 2 minutes to attempt recovery and avoid cache data loss, and then power-on.	キャッシュバックアップモジュールが正しく認識されませんでした。 システム装置の電源を切り、2分以上たってから電源を入れてください。	*3
Consecutive power loss detected during IOs on non-optimal write-back volumes. This may have resulted in data integrity issues. Press 'X' to proceed.	ライト処理中に不正な電源断またはリブートを行っていないにもかかわらず、本メッセージが表示された場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。	*1

エラーメッセージ	内容	対処方法
The firmware could not sync up config/prop changes for some of the VD's/PD. Press any key to continue, or press C to load the configuration utility.	ファームウェアが同期できませんでした。 RAID BIOS ツールを起動し、構成およびパラメータを確認してください。	*3
Foreign configuration import did not import any drives. Press any key to continue.	構成情報のインポートに失敗しました。	*1
The native configuration is no longer supported by the current controller and firmware. Please ensure that correct controller firmware is being used. Press any key to continue, the configuration is marked foreign and part of it may be imported if possible.	ファームウェアでサポートされていない構成情報が読み込まれました。	*1
On-board expander firmware or mfg image is corrupted. Flash expander firmware and mfg image using recovery tools.	ディスクアレイコントローラが不正なパラメータで動作しています。	*1

*1 お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

*2 RAID BIOS から設定を行ってください。→『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』

*3 現象が回復しない場合は、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

*4 デバイスが正しく搭載されていて本メッセージが表示されたときは、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

*5 詳細は、『ユーザズガイド』CD-ROM に含まれる『Hitachi Server Navigator ユーザズガイド RAID 管理機能』を参照し、対処してください。

4.3 ハードディスク／SSD 起動時のエラーの対処

システム装置起動時、POST (Power On Self Test) 後に OS ブートが正常に行えず次のようなメッセージが表示されることがあります。

- UEFI ブート
 - ◆ Bootable media is not found. Press <F2> to enter SETUP
 - ◆ Missing operating system
 - ◆ Operating system not found
- レガシーブート
 - ◆ Reboot and Select proper Boot Device or Insert Boot Media in Selected Boot device and press key
 - ◆ Missing operating system
 - ◆ Operating system not found

このようなメッセージが表示された場合は、システム BIOS や RAID BIOS の設定を確認してください。

→ 『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』

それでも修復しないときはハードディスク／SSDのブート情報格納領域が破壊されている可能性があります。OSの再インストールを実施してください。

→ 『Hitachi Server Navigator OS セットアップガイド』

再インストールをしてもブートできない場合は、ハードディスク／SSD を交換してください。この場合、お問い合わせ先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

4.4 ビーブ音が鳴る場合

ディスプレイが初期化される前にエラーが発生する場合は、メッセージを表示できない代わりにビーブ音を鳴らします。

次の表では、ビーブ音を「1-1-1…」のように表記します。これはビーブ音が間隔をおいて 1 回ずつ継続して鳴ることを意味します。

ビーブ音 (継続して鳴動)	エラー内容	対処方法
1-3-3-1...	メモリーが搭載されていません。 または、メモリーを認識できません。	お買い求め先にご連絡いただくか、 保守員をお呼びください。
1-5-2-1...	プロセッサが搭載されていません。 または、プロセッサを認識できません。	
1-5-4-4...	電源オンが抑止されました。	
1	POST でエラーが起きました。	
4	システム BIOS の初期化ができません。	
5	グラフィックスコントローラを認識できません。	
7	システムがリセットできません。	
8	PCI のリソース設定で異常が起きました。	

4.5 システム装置のランプがエラー表示する場合の対処

システム装置を構成するコンポーネントに障害が発生した場合、エラーを通知するランプが点灯・点滅します。次の表に従って対処してください。ランプの位置については、「[3.3.1 システム装置のランプ](#)」P.66 をご参照ください。

部位	ランプ名称	ランプ状態		障害内容	対処方法
ハードディスク キャニスタ	HDD ステータス ランプ (エラーランプ)	アンバー点灯		ハードディスクキャニスタに搭載されたハードディスク/SSD にエラーが発生 [RS220 AN2 モデルのみ]	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
	HDD ステータス ランプ (アクセス ランプ)	緑点滅 (2 秒間隔で点滅を繰り返すパターン)		ハードディスクキャニスタに搭載された PCIe SSD にエラーが発生	
操作パネル	STATUS ランプ	STATUS ランプ 1 (緑)	STATUS ランプ 2 (アンバー)	—	—
		消灯	消灯	PCI システムエラー発生	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
				PCI パリティエラー発生	
				バスエラー発生	
		点滅	消灯	メモリーが縮退した場合	
				Sparing 機能でメモリー修復可能エラーが多発	
				Mirroring 機能でメモリー修復可能エラーが多発	
				冗長電源構成で片側の電源に電力が供給されていない状態	
		消灯	点灯	温度異常を検出	通気が妨げられてシステム装置内の温度が上昇していることがあります。システム装置前面および背面の通気孔のほこりを取り除いてください。通気孔のほこりを取り除いて、緑点灯に変われば問題ありません。アンバー点灯のままの場合、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
				CPU でエラー発生	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
				CPU 温度の異常を検出	
				チップセット温度異常を検出	
				CPU 未搭載検出	
				DIMM エラー検出 (メモリー修復不能エラー)	
				電圧異常検出	
				I2C バス (デバイス) 故障を検出	
				ME でエラー発生	
				SMI タイムアウト検出	

部位	ランプ名称	ランプ状態		障害内容	対処方法	
操作パネル	STATUS ランプ	STATUS ランプ 1 (緑)	STATUS ランプ 2 (アンバー)	—	—	
		消灯	点滅	電源ユニット故障 (冗長時)	お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。	
				ファンエラー検出		
				温度警告を検出	通気が妨げられてシステム装置内の温度が上昇していることがあります。システム装置前面および背面の通気孔のほこりを取り除いてください。通気孔のほこりを取り除いて、緑点灯に変われば問題ありません。アンバー点滅のままの場合、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。	
				電圧警告を検出		お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。
				いずれかの内蔵ハードディスク／内蔵 SSD が故障 (RAID0 構成時を除く) [RS220 AN2 モデルのみ]		
				電源制御失敗		
				メモリー修復可能エラーが多発		
				電源ユニット	電源ランプ	アンバー点滅
アンバー点灯	エラー発生 (障害、複数電源ユニットの電源コードの一部が脱落など)					

…
補足

内蔵 PCIe SSD にエラーが発生しても、STATUS ランプ 1 (緑) と STATUS ランプ 2 (アンバー) は点灯しません。

4.6 メモリダンプの採取

システムが無応答になり業務が停止した場合、原因究明のためにメモリダンプが必要となります。無応答障害の原因究明をサポートサービスに求める場合は、メモリダンプを採取し、サポートサービス窓口まで送付してください。

なお、メモリダンプを採取するには、システムの運用前に採取するように設定しておく必要があります。メモリダンプ採取の設定については、「[1.3.6 メモリダンプの採取設定](#)」P.35 をご参照ください。



正常に動作しているときに操作すると、システムの運用に支障をきたすおそれがあります。

4.6.1 Windows 環境でメモリダンプを採取する

Windows の機能によるメモリダンプ採取手順は、次のとおりです。

◆メモリダンプ採取契機

1 システムハングアップ時、NMI を発行します。

システムハングアップの場合は、NMI を発行することでメモリダンプが採取されます。NMI は NMI スイッチを押すか、Web コンソールの「リモートアクセス」タブ「システム操作」画面の「DUMP (NMI) スイッチ」ボタンをクリックすることで発行されます。詳細は、『ユーザーズガイド ～導入編～』または、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

ブルースクリーンになった（STOP した）場合は、自動的にメモリダンプが採取されます。NMI を発行する必要はありません。

◆メモリダンプ採取中

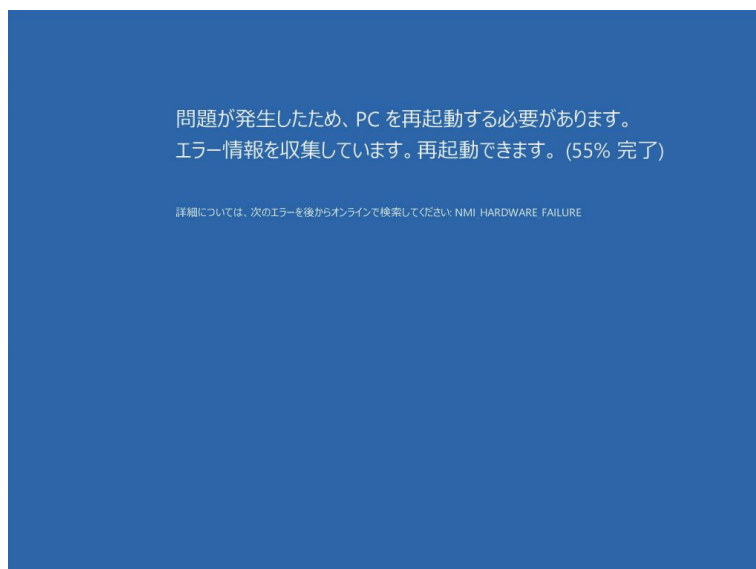
2 メモリダンプの採取状況を確認します。

メモリダンプの採取は、Windows Server 2016 / Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 では画面右上の % 表示が「100% 完了」になったとき、Windows Server 2008 R2 では画面下の数字が「100」になったとき完了します。

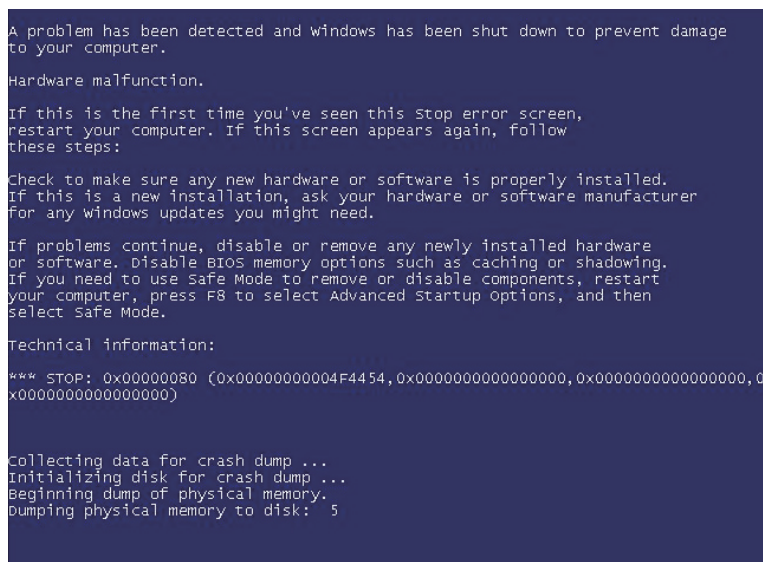
■ Windows Server 2016 のメモリダンプ採取画面



■ Windows Server 2012 R2 / Windows Server 2012 のメモリダンプ採取画面



■ Windows Server 2008 R2 のメモリダンプ採取画面



メモリダンプ採取の完了後、システムが再起動されます。



100% になる前に NMI を再度発行しないでください。システムが応答を停止する場合があります。



- 100% になったあとシステムが自動的に再起動しない場合は、手動で再起動してください。
- メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

◆メモリダンプ採取後

3 出力されたメモリダンプファイルを確認します。

システム再起動後、採取されたメモリダンプが所定の出力先にコピーされます。デフォルトのメモリダンプ出力先は "%SystemRoot%\MEMORY.DMP" です。

メモリダンプファイルのコピーが終了すると、システムイベントログに次のイベントが出力されます。

イベント ID : 1001
ソース : Save Dump

エクスプローラでメモリダンプファイル確認する場合、数秒ごとに最新の情報に更新してファイルサイズが増加するときはファイル出力中です。この場合、システムイベントログに上記イベントが出力されるまでお待ちください。



メモリダンプ採取後、デフォルトの出力先にメモリダンプファイルが存在しない場合、出力先がデフォルトから変更されている可能性があります。レジストリで出力先を確認してください。

キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\System\CurrentControlSet\Control\CrashControl
名前 : DumpFile

4.6.2 Linux 環境でメモリダンプを採取する

Linux のメモリダンプ機能 kdump によるメモリダンプ採取手順を次に示します。

なお、高信頼メモリダンプ機能 Linux Tough Dump を使用する場合、手順が異なる箇所がありますので、Linux Tough Dump のマニュアルをご参照ください。



- メモリダンプ機能である kdump を LAN 拡張カード(標準:10G 2ポート+1G 2ポート)のネットワークインタフェース経由で採取する場合、10G ポートのみ動作します。1G ポートは動作しません。
- PCIe SSD に kdump によるメモリダンプは出力できません。



- Linux Tough Dump は、日立サポート 360 ダンプ取得機能強化オプション、ダンプ取得機能強化オプション Enterprise Edition、および高信頼化基本セットのいずれかで提供されるメモリダンプ採取用のソフトウェアです。
- kdump が対応していない構成や自動設定が不可能な構成の場合、「日立サポート 360」のソフトウェアサービス付属の OS メディア (インストールメディア) から Linux をインストールしても、kdump は自動設定されません。このため、OS インストール後にメモリダンプ採取を行い、採取が成功するか確認してください。

◆メモリダンプ採取契機

1 システムハングアップ時、NMI を発行します。

システムハングアップの場合は、NMI を発行することでメモリダンプが採取されます。NMI は NMI スイッチを押すか、Web コンソールの「リモートアクセス」タブ「システム操作」画面の「DUMP (NMI) スイッチ」ボタンをクリックすることで発行されます。詳細は、『ユーザーズガイド ～導入編～』または、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

カーネルパニックなど OS 障害の場合は、自動的にメモリダンプが採取されます。NMI を発行する必要はありません。

◆メモリダンプ採取中

2 メモリダンプの採取状況を確認します。

メモリダンプの採取は、画面下の % 表示が「100%」になったとき完了します。

```
Built 1 zonelists in Zone order, mobility grouping on. Total pages: 32447
Kernel command line: cgroup_disable=memory console=ttyS1,115200 mce=0 nmi_watchdog=0 no_timer_
check nr_cpus=1 pcie_aspm=off reset_devices
. . . .
Creating Block Devices
kjournald starting. Commit interval 5 seconds
EXT3-fs (sdb2): using internal journal
EXT3-fs (sdb2): mounted filesystem with ordered data mode
Checking for memory holes          :
[ 0 %]
```

メモリダンプ採取の完了後、システムが再起動されます。

…
補足

- 100% になったあとシステムが自動的に再起動しない場合は、手動で再起動してください。
- メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

◆ メモリダンプ採取後

3 出力されたメモリダンプファイルを確認します。

システム再起動後、メモリダンプが採取されていることを確認します。デフォルトのメモリダンプ出力先は `/var/crash/ 日付 - 時刻 /` です。日付 - 時刻は、メモリダンプを採取した日時になります。

…
補足

メモリダンプ採取後、デフォルトの出力先にメモリダンプファイルが存在しない場合、出力先がデフォルトから変更されている可能性があります。設定ファイルより出力先を確認してください。

設定ファイル名：`/etc/kdump.conf`

4.6.3 VMware 環境でメモリダンプを採取する

VMware の機能によるメモリダンプ採取手順は、次のとおりです。

◆ メモリダンプ採取契機

システムハングアップの場合は、NMI を発行することでメモリダンプが採取されます。NMI の発行は、次の手順で行ってください。

ローカルコンソールがパープルスクリーンになった場合は、自動的にメモリダンプが採取されます。次の手順 1 ～ 3 を行う必要はありません。

1 メモリダンプが採取できない場合に備え、コンソール画面の表示内容を記録します。

2 別のマシンからネットワーク経由で仮想マシンが動作しているか確認します。

仮想マシンが動作していた場合はシャットダウンしてください。

3 NMI を発行します。

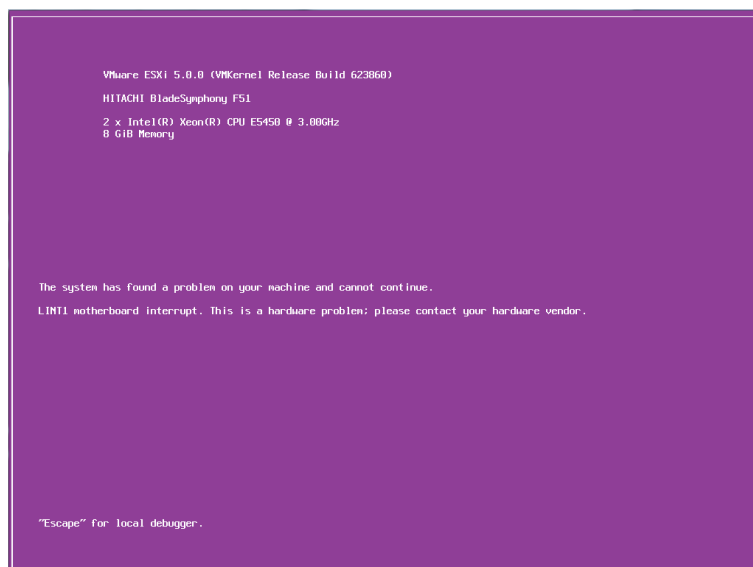
NMI は NMI スイッチを押すか、Web コンソールの「リモートアクセス」タブの「システム操作」画面の [DUMP (NMI) スイッチ] ボタンをクリックすることで発行されます。詳細は、『ユーザーズガイド ～導入編～』または、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

◆メモリダンプ採取中

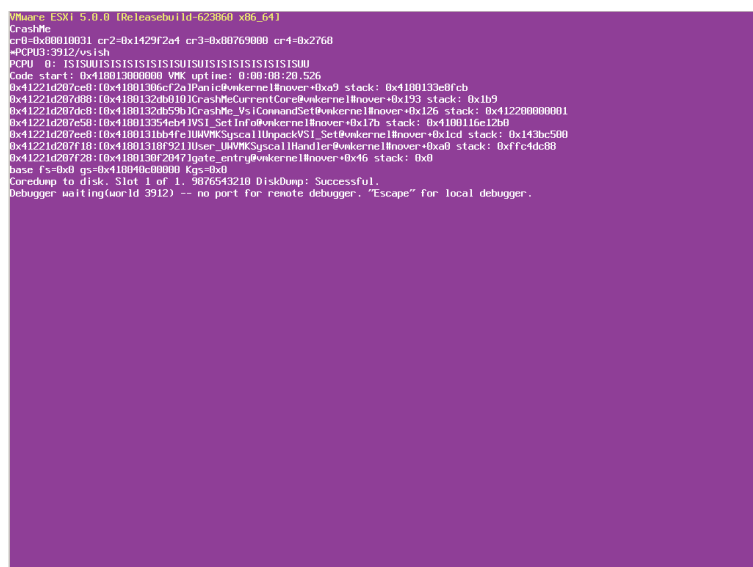
4 メモリダンプの採取状況を確認します。

メモリダンプの採取は、画面下部に「"Escape" for local debugger」と表示されたとき完了します。メモリダンプ採取時の画面表示例は、次のとおりです。

■ メモリダンプ採取画面表示例 1



■ メモリダンプ採取画面表示例 2



◆メモリダンプ採取後

- 5 パープルスクリーンで [Esc] キーを押したあと、vmkernel debugger で「reboot」と入力し、[Enter] キーを押します。

システムが再起動されます。

…
補足

メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがあります。この場合、そのまま起動してください。
リセットや再起動すると、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

- 6 出力されたメモリダンプファイルを確認します。

システム再起動後、メモリダンプが採取されていることを確認します。デフォルトのメモリダンプ出力先は "/var/core/vmkernel-zdump.X" です。X には数字が入ります。

…
補足

vmkernel-zdump.X ファイルは複数存在することがありますが、ls コマンドでファイルの日付を確認し、システム再起動時の時刻になっているファイルが今回出力されたダンプファイルです。

システム起動後に仮想マシンを起動する場合は、通常運用どおりシステムを起動してください。
仮想マシンを起動しない場合は、メンテナンスモードにしてください。

4.7 ハードウェア障害を連絡する

お客様で対処しきれないハードウェアエラーの場合、お買い求め先や保守会社、または日立コールセンタにご連絡ください。

→『ユーザーズガイド ～導入編～』

▶ ご連絡いただく内容

ご連絡いただく前に、製品に添付されている保証書をご用意ください。

続いて『ユーザーズガイド』CD-ROM の次のファイル「障害状況連絡シート」をプリントアウトし、障害の状況を書き留めてください。d: は CD/DVD ドライブ名です。

[d:¥Failure_Sheet¥RS220xN2_renraku.pdf](#)

「障害状況連絡シート」に書き留めていただいた内容をご連絡いただくことによって、より円滑にエラー箇所や交換する部品の特定を行うことができ、システム装置復旧時間短縮に役立ちます。

「障害状況連絡シート」により、ご連絡前にご確認いただく事項は、次のとおりです。

- 装置情報（システム装置の形名と製造番号）
- 障害の発生状況
- Log Monitor の RC 一覧の確認
- 操作パネルのランプ
- HDD ステータスランプ
- 装置背面のランプ



- システム装置前面の STATUS ランプの点灯状態は忘れずに書き留めてください。
- 「Log Monitor」や RC コードについては、『ユーザーズガイド』CD-ROM に格納される『Hitachi Server Navigator ユーザーズガイド Log Monitor 機能』をご参照ください。

▶ お願い

障害対策時、障害原因の判断や部品修理のための情報として、ハードウェアのログを保守員がお客様にお断りして持ち出すことがあります。

4.8 システム装置の強制オフとリセット

システム装置が正常に動作していない場合、強制的に電源を切ったりリセットしたりすることで正常に戻る場合があります。

Web コンソールを使用した操作方法については、『ユーザズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。



システム装置の電源を強制的に切ったり、システム装置をリセットしたりするとシステム装置内のデータが消失するおそれがあります。

4.8.1 強制的に電源を切る

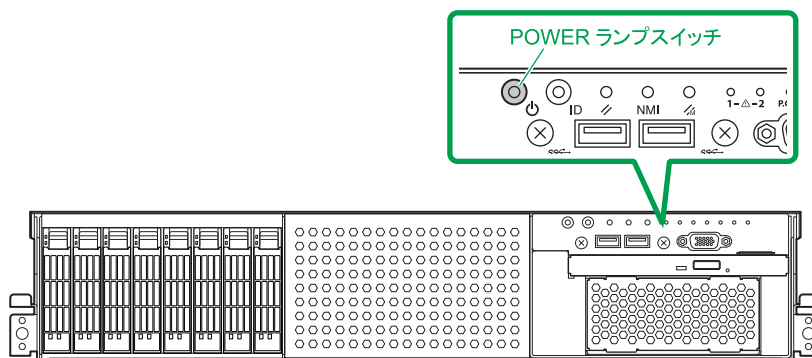
OS が正常に作動しなくなったときなど、POWER ランプスイッチを押しても電源が切れないことがあります。この場合、POWER ランプスイッチを 4 秒以上押し続けると電源を切ることができます。

なお、通常の方法で電源が切れない場合以外は行わないでください。

強制的に電源を切ったあと、OS やアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS やアプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。



- 電源を再度入れるときは、電源を切ってから 30 秒以上待って電源を入れてください。
- Wake On LAN や PXE ブートなど、リモートパワーオン機能を使っている場合、強制電源 OFF したときは、その後一度 OS を起動させ、OS からシャットダウンして電源を切ってください。



4.8.2 BMC リセット

BMC RESET スイッチは、BMC に問題が起きている場合のみ使用してください。
通常の運用では、本スイッチは使用しないでください。

使用する際は BMC RESET スイッチを 5 秒以上押し続けてください。

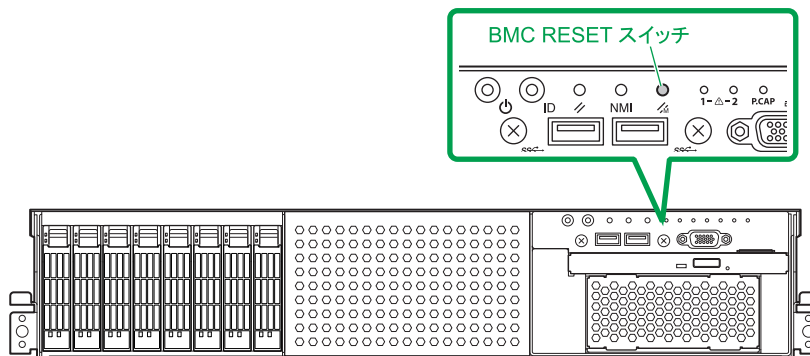


BMC をリセットしてから約 3 分間は、リモートマネジメント機能が使用できません。なお、この約 3 分間にシステム装置のシャットダウンやリブート、また各種スイッチ操作は行わないでください。



BMC RESET スイッチは、BMC のみをリセットします。システム装置そのものはリセット（再起動）しません。

「(14) BMC リセット時の注意」P.10 もあわせてご参照ください。



4.8.3 アプリケーションの終了とリセット

アプリケーションの処理中にシステム装置が動かなくなった場合は、OS のアプリケーションを強制終了させたり、OS を強制的に再起動（リセット）すると、正常に動作する場合があります。OS に添付されるマニュアルをご参照ください。

なお、アプリケーションの強制終了やリセットを行ったあと、OS やアプリケーションが正常に動作しなくなったり、保存データの安全性に問題が生じたりすることがあります。このような場合、OS やアプリケーションの再セットアップや、バックアップデータからの復旧を行ってください。

4.9 ハードディスク／SSD／PCIe SSD に障害が発生したときの交換作業

RS220 AN2 モデルにおいて、ディスクアレイを構成しているハードディスク／SSD に障害が発生した場合は、操作パネルの STATUS ランプがアンバー点滅し、ハードディスク／SSD の HDD ステータスランプ（エラーランプ）がアンバー点灯します。

→ 「3.3.1 システム装置のランプ」 P.66

ディスクアレイはホットプラグ（活線挿抜）機能に対応しています。冗長性のあるディスクアレイ（RAID1、5、6、10）において障害ディスクを交換するときはシステム装置の電源を切らずにホットプラグで交換してください。ホットプラグで交換しない場合、すべてのデータを消失するおそれがあります。

また、PCIe SSD において、OS のソフト RAID 機能を使ってディスクアレイを構成している PCIe SSD に障害が発生した場合、HDD ステータスランプ（アクセスランプ）が 2 秒間隔で緑点滅を繰り返します（通常のアクセスのような不規則な点滅ではありません）。

→ 「3.3.1 システム装置のランプ」 P.66

障害ディスクの交換は保守員が行います。エラーが発生しましたら、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

注意

内蔵オプションの増設・交換はすべて保守員が行います。システム装置のカバーの取り外しや内蔵オプションの取り付け・取り外しは行わないでください。不慣れな作業を行うことにより、けがをしたり装置の故障の原因となります。

通知

- 障害ディスクの交換では、操作手順の誤りや交換ディスクの故障などにより、データが破壊されるおそれがあります。交換の前にデータのバックアップを取ってください。
- 障害が発生していないハードディスク／SSD／PCIe SSD を交換するとデータが破壊されます。障害が発生したハードディスク／SSD／PCIe SSD 以外は抜き差ししないでください。
- 冗長性のあるディスクアレイにおいて、障害ディスクの交換はシステム装置の電源が入った状態で行ってください（ホットプラグ）。システム装置の電源を切った状態で障害ディスクを交換すると、ディスクアレイ情報が破壊され、すべてのデータを消失するおそれがあります。
- PCIe SSD は、OS のソフト RAID 機能を使った冗長性のあるディスクアレイ（RAID1）において、障害 PCIe SSD を交換する場合でもホットプラグはサポートしていません。システム動作中に PCIe SSD を引き抜かないでください。引き抜いた場合、データを消失します。

…
補足

- 冗長性のないディスクアレイ（RAID0、JBOD）において障害ディスクを交換する場合は、ホットプラグに対応していません。システム装置の電源を切り、電源コードをすべて抜いた状態で交換する必要があります。
障害ディスクの交換後は「LSI MegaRAID Configuration Utility」、
「MegaRAID BIOS Configuration Utility」よりディスクアレイの再設定を行ってください。
- PCIe SSD はホットプラグをサポートしていません。障害の発生した PCIe SSD を交換する場合は、システム装置の電源を切り、電源コードをすべて抜いた状態で交換する必要があります。
障害 PCIe SSD の交換後は『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』を参照してソフト RAID の再設定を行ってください。
- 内蔵 PCIe SSD のデータリビルドは自動で行われません。詳細は、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』をご参照ください。

4.10 電源ユニットに障害が発生したときの交換作業

冗長化用の電源ユニットを増設している場合、電源ユニットの1つに障害が発生しても、そのまま運用を続けることができます。

電源ユニットに障害が発生したとき、STATUS ランプがアンバー点滅し、該当する電源ユニットの電源ランプがアンバー点灯または点滅します。障害が発生した電源ユニットは速やかに交換してください。電源ユニットの交換は、システム装置の電源が入っている状態でも行えます（活線挿抜）。

システム装置は電源容量や電圧の異なる3種類の電源ユニットをサポートしています。電源ユニットは800Wタイプ、800Wタイプ200V専用、および1000Wタイプがあります。交換する電源ユニットは、障害が発生した電源ユニットと同じ容量、電圧のものを使用します。

電源ユニットの交換は保守員が行います。エラーが発生しましたら、お買い求め先にご連絡いただくか、保守員をお呼びください。

注意

内蔵オプションの増設・交換はすべて保守員が行います。システム装置のカバーの取り外しや内蔵オプションの取り付け・取り外しは行わないでください。不慣れな作業を行うことにより、けがをしたり装置の故障の原因となります。

通知

障害が発生した電源ユニット以外の電源コードを抜くとシステム装置の電源が切れてしまい、データを消失するおそれがあります。障害が発生した電源ユニット以外の電源コードを抜かないでください。



電源容量や電圧の異なる電源ユニットの混在搭載はサポートしていません。

— MEMO —

[illegible]

5

保守作業後の設定

この章では、システム装置の障害により保守作業を行ったあとに必要な設定や作業について説明します。

…
補足

システム装置の障害などによる保守作業において部品交換が発生した場合、交換した部品や BIOS、ファームウェアは基本的に最新のバージョンが適用されます。また、必要に応じて交換していない部品の BIOS、ファームウェアも最新のバージョンに更新することがあります。保守作業前と異なる場合があることをあらかじめご了承ください。

5.1 ネットワークアダプタの MAC アドレス変更.....	122
5.2 BMC 設定のリストア	123
5.3 BIOS の再設定.....	124
5.4 パワーキャッピングの再設定.....	125
5.5 Windows BitLocker の解除と再設定.....	126
5.6 TPM 使用時の Administrator パスワードの再設定	127
5.7 Windows ライセンスの再認証.....	128
5.8 UUID の再設定.....	129
5.9 HCSM の管理対象からの除外、追加	130

5.1 ネットワークアダプタの MAC アドレス変更

システム装置の LAN 拡張カードを交換した場合、ネットワークアダプタが個別に持っている MAC アドレスの値が変わります。

次の場合は、新しい MAC アドレスを認識させる作業が必要です。

▶ 接続先の周辺機器が MAC アドレスを固定的に管理している場合

スイッチング HUB など一部周辺機器には、MAC アドレスを固定的に保持する仕様の装置があります。

周辺機器の MAC アドレスのデータを更新するため、LAN 拡張カードを交換してシステム装置を立ち上げたあと、周辺機器の電源をいったん切ってから再度入れ、再起動してください。

▶ ユーザープログラムやアプリケーションプログラムが MAC アドレスを管理している場合

ユーザープログラムやアプリケーションプログラムで、MAC アドレスの値を管理する仕様となっている場合、LAN 拡張カードを交換したあとで新しい MAC アドレスにデータを更新してください。

▶ LAN 拡張機能を構築している場合

LAN 拡張機能では、機能上 1 つの MAC アドレスをプライマリーボードとセカンダリボードの 2 つのネットワークアダプタで共有します。

LAN 拡張カードを交換する場合、交換前に設定されている LAN 拡張機能をいったん削除し、交換後に再設定する必要があります。

LAN 拡張機能については、[「2.7 LAN 拡張機能」 P.60](#) をご参照ください。

5.2 BMC 設定のリストア

システム装置のマザーボードを交換した場合、Web コンソールやリモートコンソールの管理情報であるサーバ管理設定が失われてしまうことがあります。このため、Web コンソールやリモートコンソールによりシステム装置の管理を行っている場合、Web コンソールからサーバ管理設定をリストアする操作が必要になることがあります。

なお、サーバ管理設定は、障害に備えてあらかじめバックアップし、紛失しないよう大切に保管しておく必要があります。

サーバ管理設定のバックアップおよびリストアについては、『ユーザーズガイド ～リモートマネジメント編～』をご参照ください。

…
補足

障害の状況により、マネジメントネットワークインタフェースのネットワーク設定が工場出荷時の値に戻る場合があります。この場合は、BMC ネットワークの再設定を行ってください。

5.3 BIOS の再設定

システム装置のマザーボードやディスクアレイコントローラボードなどを交換したときは、システム BIOS や RAID BIOS の設定値が工場出荷時の値に戻る場合があります。

この場合、システム BIOS や RAID BIOS の再設定を行う必要があります。

BIOS 設定値を工場出荷時設定から変更する場合は、障害に備えて変更した設定項目と設定値を漏らさずメモして保管してください。

システム BIOS および RAID BIOS の設定については、『ユーザズガイド ～ BIOS 編～』をご参照ください。
オプションの拡張ボードの BIOS 設定については、各拡張ボードのマニュアルをご参照ください。

5.4 パワーキャッピングの再設定

システム装置の省電力機能であるパワーキャッピング機能を使用している場合、システム装置のマザーボードを交換したときは、パワーキャッピング設定が失われてしまうことがあります。このためパワーキャッピングの再設定が必要になることがあります。

パワーキャッピング機能については、「[2.3.1 パワーキャッピング機能](#)」P.46をご参照ください。

5.5 Windows BitLocker の解除と再設定

Windows BitLocker 機能を使用している場合、マザーボードやディスクアレイコントローラボードを交換するときは、事前に BitLocker ドライブ暗号化機能によるドライブの暗号化を解除する必要があります。保守作業後、再度暗号化の設定を行ってください。

なお、OS が起動できない障害の場合は BitLocker の暗号化を解除できません。この場合はマザーボードやディスクアレイコントローラボードを交換したあと、「回復パスワード」を入力して復旧する必要があります。



「回復パスワード」は厳重に管理してください。「回復パスワード」を紛失された場合、OS が起動できなくなったり、データにアクセスできなくなったりします。

5.6 TPM 使用時の Administrator パスワードの再設定

Windows BitLocker を使用するため、TPM (Trusted Platform Module) による暗号化機能を適用している場合は、保守作業時にシステム BIOS の Administrator パスワードを解除する必要があります。保守作業後、再度 Administrator パスワードを設定してください。

また、システム装置が起動しない障害などでマザーボードを交換した場合、Administrator パスワードがクリアされる場合があります。この場合、Administrator パスワードを設定してください。

5.7 Windows ライセンスの再認証

Windows を使用している場合、保守作業でハードウェアを交換したことにより、保守作業後の初回起動時に Windows ライセンス認証の再実行を要求されることがあります。

ライセンス認証画面が表示された場合は、画面に従いライセンス認証を行ってください。

なお、再度ライセンス認証を行うよう求められた場合、ライセンス認証が行われていなくても、サービスは引き続き実行されます。

また、Windows Server OS プレイインストールセットの場合または Windows Server OS バンドルセットの場合は、ライセンス認証を再要求されることはありません。

5.8 UUID の再設定

マザーボードの交換により仮想マシンを管理している UUID (Universally Unique Identifier) が新たに作成されます。

仮想マシンでは以前のベースモジュールの情報を元に作成された UUID を保持しているため、UUID の不一致が生じ、変更前／変更後のどちらの UUID を使用するか確認メッセージが表示される場合があります。

仮想マシンを起動時、VI クライアントにダイアログが表示された場合「常に保持」または「Always Keep」または「I moved it」を選択し [OK] ボタンをクリックしてください。

5.9 HCSM の管理対象からの除外、追加

システム装置のマザーボードを交換した場合は、BMC に設定された HCSM の通知先 IP アドレスの情報が失われます。このため、HCSM での操作により BMC に通知先 HCSM の IP アドレスを設定する必要があります。次のいずれかの方法を行ってください。

▶ 方法 1

- 1 該当の HA8000 を管理対象から除外します (管理対象から除外)。
- 2 HA8000 を管理対象に追加します (管理対象に追加)。
この際、HCSM から BMC に対して通知先 HCSM の IP アドレスが再設定されます。
- 3 1 によって、該当の HA8000 に関連するスクリプトコマンドが削除されるので、再設定します。
- 4 1 によって、該当の HA8000 に関連する電力監視の設定が削除されるので、再設定します。



- ホスト (OS) 側の作業は不要です。
- 電力情報は、4 の作業を行うことで、再度グラフ表示することができます。

▶ 方法 2

- 1 HCSM をいったん停止します。
- 2 HCSM を起動します。HCSM から管理対象の HA8000 上にある BMC に対して、通知先 HCSM の IP アドレスが再設定されます。

A

付録 A ディスクアレイの分類と機能

A.1 ディスクアレイの分類.....	132
A.2 ディスクアレイの機能.....	138

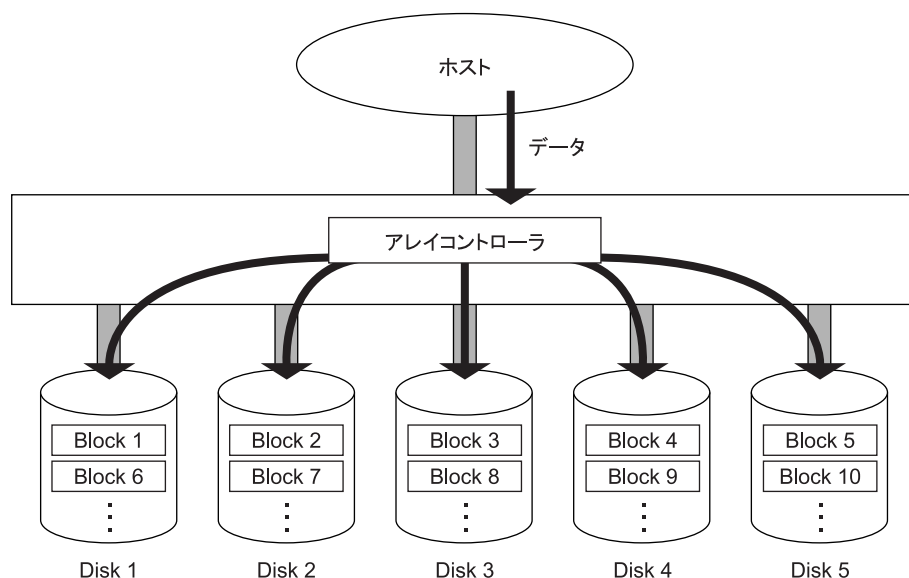
A.1 ディスクアレイの分類

ディスクアレイは一般的に RAID レベルによって 0 ～ 5 の 6 つに分類されます。RS220 AN2 モデルは、このうち RAID0、1、5 をサポートしています。また、アレイコントローラ独自の RAID6、RAID10、JBOD もサポートしています。ここでは各 RAID レベルの方式と特徴について説明します。

なお、PCIe SSD は、OS のソフト RAID 機能を使ったディスクアレイをサポートしています。ソフト RAID 機能については、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』、OS のヘルプ、OS サポートサービスの Web サイトをご参照ください。

A.1.1 RAID0

データは、複数の物理ドライブにまたがってストライピングされます。



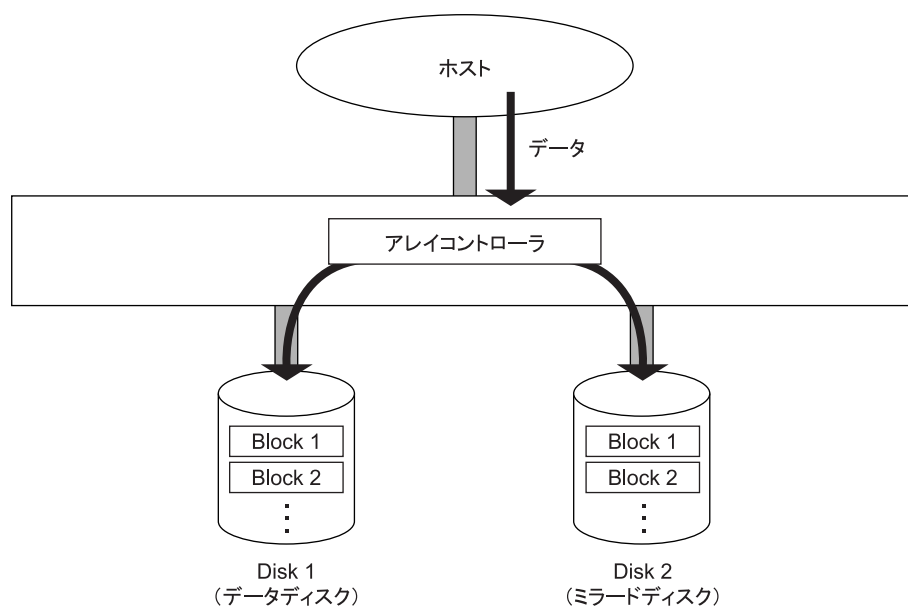
長所：特に大量のファイルに対し、スループットが向上します。

短所：アレイパリティを生成しないため、ディスクアレイ内の物理ドライブのうち 1 台でも故障すると全データを失います。

必要な物理ドライブ台数： 最低 2、最大 16

A.1.2 RAID1

データは、1 台の物理ドライブ（データディスク）と、もう 1 台の物理ドライブ（ミラーディスク）に同じように格納されます。



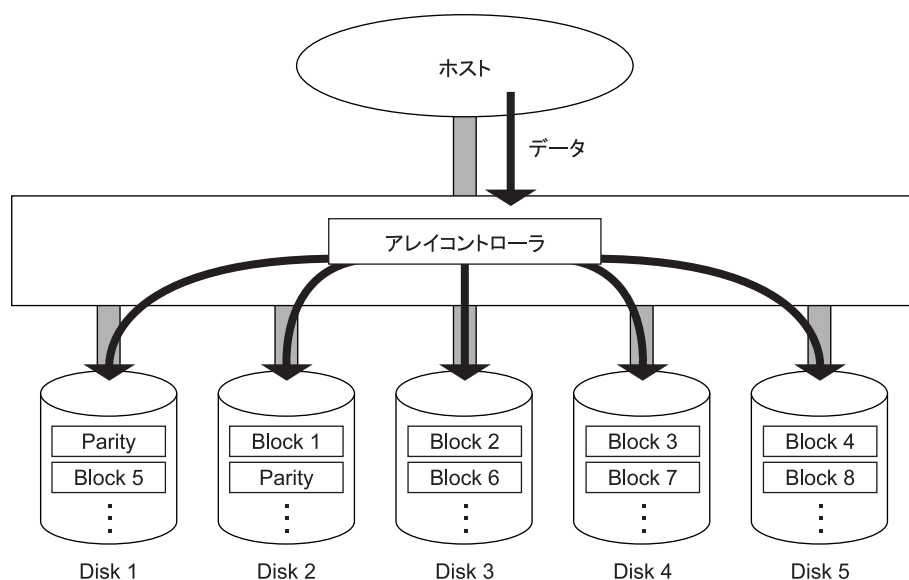
長所：100% データ・リダンダンシーを行います。したがって、1 台の物理ドライブが故障してももう一方の物理ドライブに簡単に切り替えてリード・ライト処理を続けることができます。また、物理ドライブを入れ替えると業務を停止することなくデータの再構築を行うことができます。

短所：■ 同容量のミラーディスクが必要となるため、物理ドライブ容量が 2 倍必要となります。
■ データリビルド中にデータのリード・ライトを行うと、処理パフォーマンスが低下します。

必要な物理ドライブ台数：2

A.1.3 RAID5

データは、アレイパリティとともにすべての物理ドライブにまたがって、ブロック単位でストライピングされます。



長所： ■ RAID1 と比較して、容量コストパフォーマンスが向上します。

- データを各物理ドライブに分散させることによって、データ・リダンダンシーを行います。したがって、それぞれの物理ドライブが独立してリード・ライトを行えます。また、ブロック単位でストライピングしますので、トランザクション処理に向きます。
- ディスクアレイ内の物理ドライブの 1 台が故障しても、アレイパリティにより失われたデータを計算しながらリード・ライト処理を続けることができます。また、物理ドライブを入れ替えると、業務を停止することなくデータの再構築を行うことができます。
- アレイパリティが各物理ドライブに分散するので、データライト時にも物理ドライブの独立アクセスによる並列処理のメリットを受けることができます。

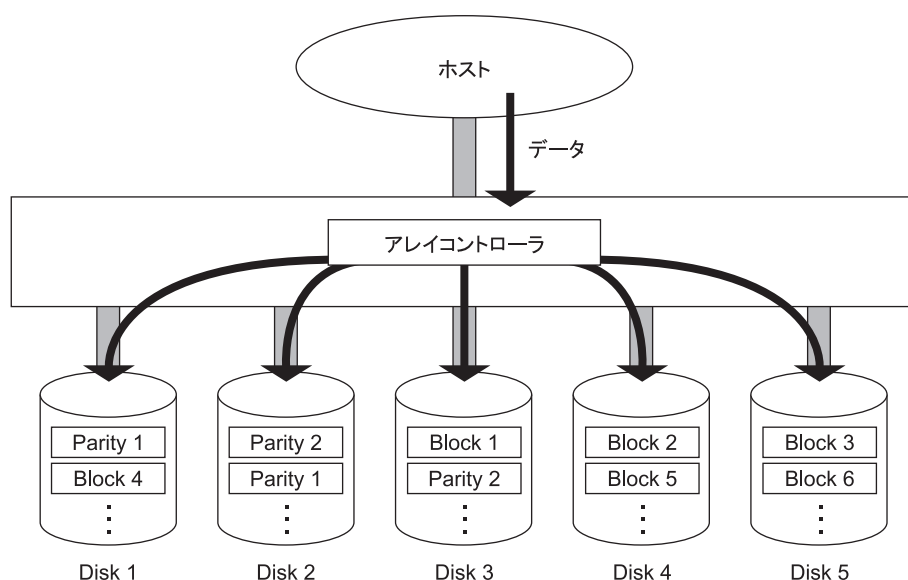
短所： ■ ライト処理のときにアレイパリティを生成するため、ライトパフォーマンスではRAID0に劣ります。

- データリビルド中にデータのリード・ライトを行うと、処理パフォーマンスが低下します。

必要な物理ドライブ台数： 最低 3、最大 16

A.1.4 RAID6

データは、アレイパリティとともにすべてのハードディスクにまたがって、ブロック単位でストライピングされます。



長所： ■ RAID5 と比較して、2 種類のパリティ生成により冗長性が向上します。

- データを各物理ドライブに分散させることによって、データ・リダンダンシーを行います。したがって、それぞれの物理ドライブが独立してリード・ライトを行えます。また、ブロック単位でストライピングしますので、トランザクション処理に向きます。
- ディスクアレイ内の物理ドライブが 2 台まで故障しても、アレイパリティにより失われたデータを計算しながらリード・ライト処理を続けることができます。また、物理ドライブを入れ替えると、業務を停止することなくデータの再構築を行うことができます。
- アレイパリティが各物理ドライブに分散するので、データライト時にも物理ドライブの独立アクセスによる並列処理のメリットを受けることができます。

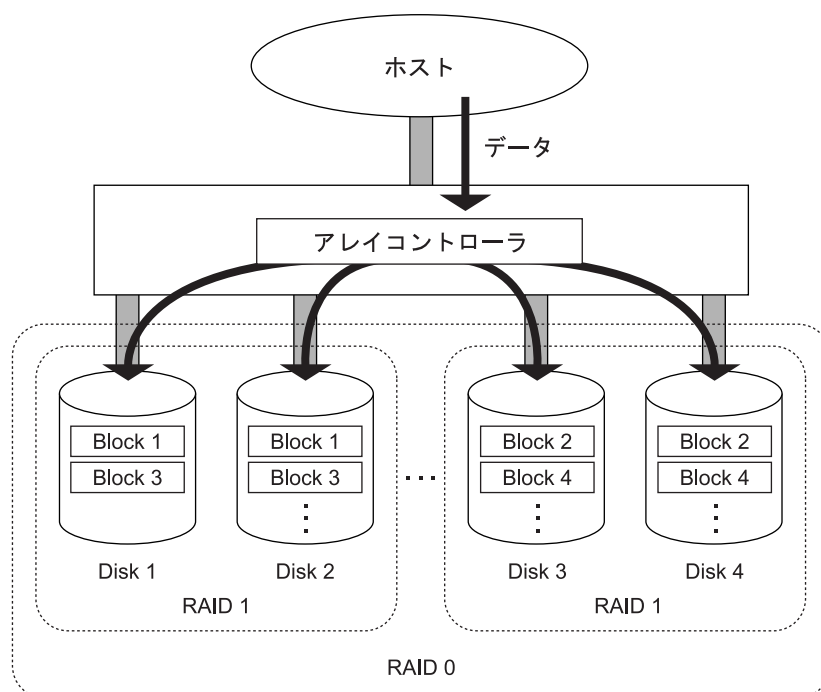
短所： ■ ライト処理のときにアレイパリティを 2 種類生成するため、ライトパフォーマンスでは RAID5 に劣ります。

- データリビルド中にデータのリード・ライトを行うと、処理パフォーマンスが低下します。

必要な物理ドライブ台数： 最低 4、最大 16

A.1.5 RAID10

データは、複数の物理ドライブにまたがってストライピングされるとともに 2 重化されます。RAID0 と 1 の特長を合わせ持ちます。



長所： ■ 100% データ・リダンダンシーを行います。したがって、1 台の物理ドライブが故障してもほかの物理ドライブにデータがあるため、リード・ライト処理を続けることができます。また、物理ドライブを入れ替えると、業務を停止することなくデータの再構築を行うことができます。

- 特に大量のファイルに対し、スループットが向上がします。
- アレイパリティを生成しないため、一般的にライトパフォーマンスが RAID5 よりも優れます。

短所： ■ データの 2 重化を行うため、物理ドライブ容量が 2 倍必要となります。

- データリビルド中にデータのリード・ライトを行うと、処理パフォーマンスが低下します。

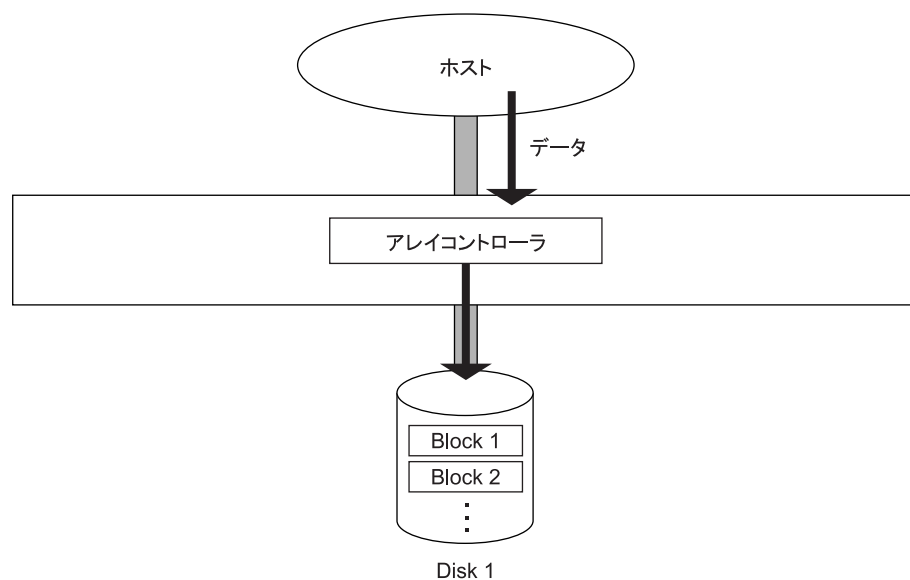
必要な物理ドライブ台数： 最低 4、最大 16

…
補足

必要な物理ドライブ台数は 4、6、8、10、12、14、16 となります。

A.1.6 JBOD

データは 1 台の物理ドライブのみに格納されます。
データ・リダンダンシーは行わず、一般的な SAS/SATA コントローラに接続される物理ドライブと同様の働きをします。



必要な物理ドライブ台数：1



RAID0 を 1 台で構築した場合 JBOD となります。

A.2 ディスクアレイの機能

ディスクアレイの代表的な機能には、次のものがあります。

なお、OS のソフト RAID 機能を使ってディスクアレイを構築する PCIe SSD については、『2.5 型 PCIe SSD 取扱説明書』、OS のヘルプ、OS サポートサービスの Web サイトをご参照ください。

A.2.1 縮退モード

通知

ディスクアレイが縮退モードで動作中のとき、さらに物理ドライブが故障すると、ディスクアレイはデータのリビルドができなくなり、データをすべて消失します。障害ディスクはすぐに交換して、リビルドを行ってください。

RAID1、5、6 または 10 のディスクアレイで、物理ドライブが 1 台 * 故障しても、ユーザーはこのディスクアレイを通常どおり使用し続けることができます。物理ドライブが 1 台 * 故障しているままで動作しているディスクアレイは、**縮退モード (degraded mode)** で動作しているといえます。リード / ライトの要求に対しては、アレイコントローラが動作中のディスクデータとアレイパリティ (RAID5、6 の場合) を使用して障害物理ドライブのデータを計算しますので、そのまま運用を続けることができます。ただし、データ計算を行う必要があるため、通常の状態に比べて処理パフォーマンスは低下します。

* RAID6 では 2 台故障しても動作可能です。

…
補足

複数論理ドライブが存在する Drive Group (ディスクアレイ) で物理ドライブが故障した場合、Drive Group 下の全論理ドライブが縮退モードで動作します。

A.2.2 データのリビルド (再構築)

RAID1、5、6 または 10 のディスクアレイでは、障害物理ドライブを交換したあと、ディスクアレイコントローラが自動的にミラードディスクのデータやパリティデータなどを使用して、交換した物理ドライブにデータを復元し格納します。これをデータの**リビルド (再構築)**といえます。リビルド中も運用を続けることができますが、縮退モードのときと同じように通常の状態に比べて処理パフォーマンスが低下します。

なお、縮退モードで動作中のときにさらに物理ドライブが故障すると、データのリビルドができなくなります。その場合、データはすべて失われてしまいますので、障害物理ドライブはすぐに交換してリビルドを行うようにしてください。

…
補足

RAID0、JBOD のディスクアレイではデータの 2 重化もパリティの生成も行わないため、データのリビルドを行うことはできません。

A.2.3 ホットプラグ

ディスクアレイが縮退モードで動作している場合、障害物理ドライブをなるべく早く交換する必要がありますが、このとき、システム装置の電源を切ってから交換を行ったのでは時間もかかりますし、なによりシステムの運用を止めなければなりません。

これを解決するための機能が**ホットプラグ**または**ホットスワップ**と呼ばれるもので、システム装置の電源が入った状態でも物理ドライブを交換することができます。

A.2.4 ホットスペア

RAID1、5、6 または 10 のディスクアレイで障害が発生した場合、通常の状態に戻すには障害物理ドライブを交換する必要があります。このとき、ディスクアレイコントローラにデータなど入っていない予備のディスク（リザーブディスク）を取り付けておき、障害時に自動的にリザーブディスクにデータを復元させることができます。このリザーブディスクを、いつでも交代ができるように準備していることから**ホットスペア**といいます。また、ホットスペアにディスクアレイコントローラが自動的にデータを復旧させる機能をスタンバイリプレースメントといいます。

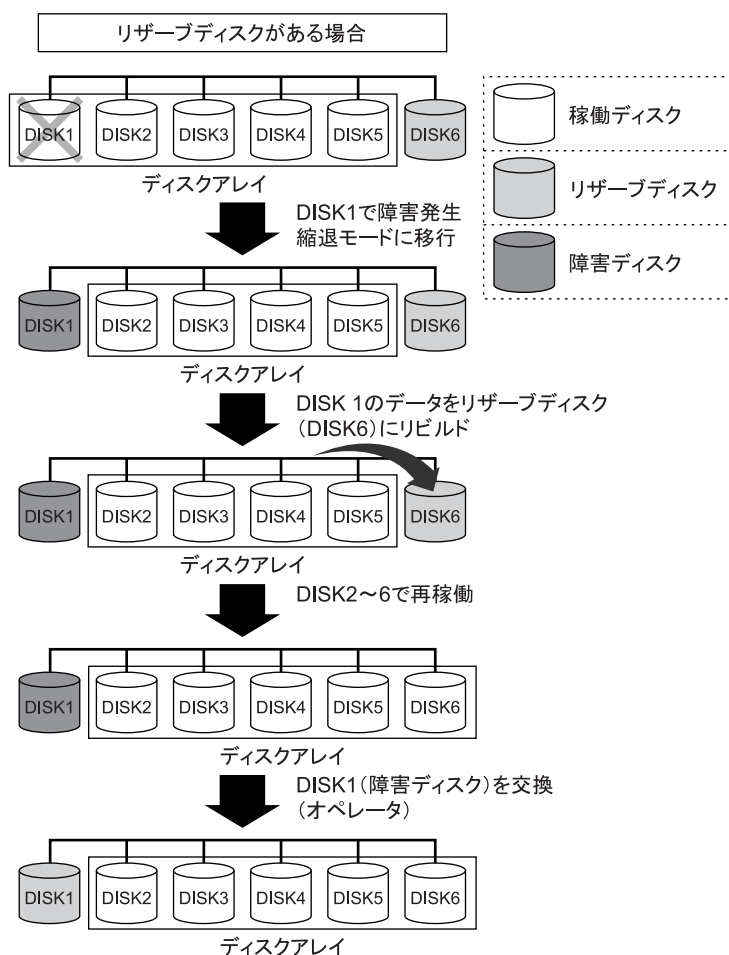
…
補足

- ディスクアレイの構成により、ホットスペアを用意できない場合もあります。
- ホットスペアには、構成されているすべてのディスクアレイ（RAID1、5、6、10）に対して有効となる「グローバルホットスペア」と、構成されているうちの 1 つのディスクアレイ（RAID1、5、6 または 10）に対してのみ有効となる「専用ホットスペア」があります。

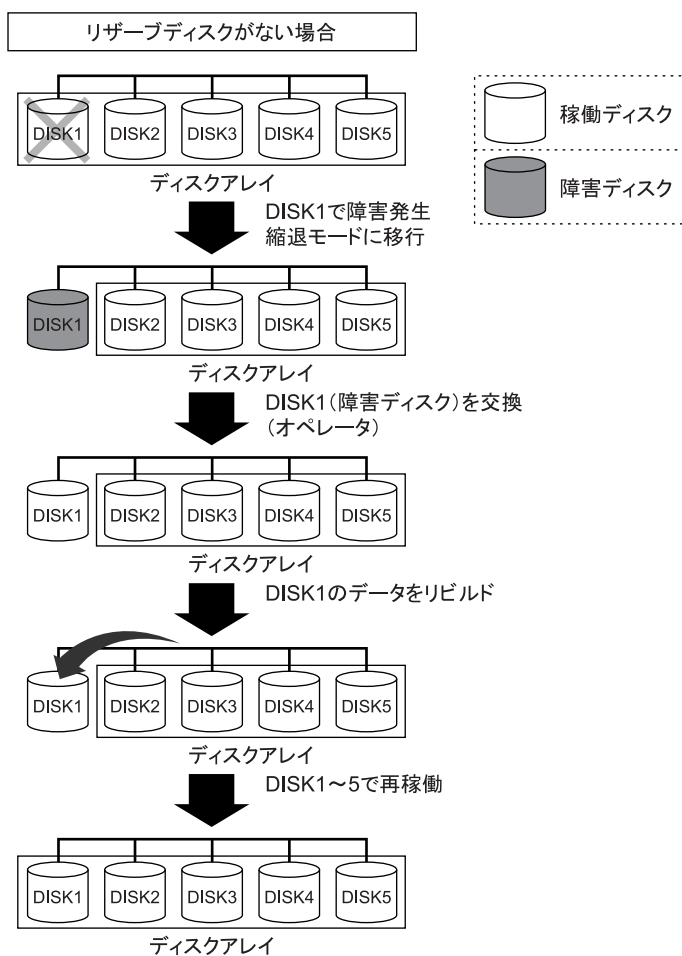
A.2.5 障害復旧の流れ

5 台で運用している RAID5 のディスクアレイで、障害が発生したときの復旧の流れを次に示します。ここでは、リザーブディスクがある場合とない場合に分けて説明します。

▶ リザーブディスクがある場合



▶ リザーブディスクがない場合



[illegible]



付録 B オープンソースソフトウェアの ライセンス通知

本製品に組み込まれたソフトウェアは、複数の独立したソフトウェアで構成され、個々のソフトウェアはそれぞれ日立または第三者の著作権が存在します。

本製品に含まれる日立自身が開発または作成したソフトウェアには、日立の所有権および知的財産権が存在します。また、同様にこれらのソフトウェアに付帯したドキュメントなどにも、日立の所有権および知的財産権が存在します。これらについては、著作権法その他の法律により保護されています。

本製品では、日立自身の開発または作成したソフトウェアのほかに、この章で示すオープンソースソフトウェアをそれぞれのソフトウェア使用許諾契約書に従い使用しています。

弊社は、お客様のご要求に応じて、GNU General Public License (GPL) など、ソースコードの提供義務が記載された使用許諾条件に基づき使用許諾されるソフトウェアのソースコードを、記録媒体 (CD-ROM または DVD-ROM) でお客様にご提供いたします。その際、弊社は記録媒体の費用、送料および手数料をお客様にご請求いたしますのでご了承ください。

なお、ソースコードのご要求は、Web コンソールにて BMC ファームウェアバージョンをご確認のうえ、お買い求め先へご連絡ください。また、オープンソースソフトウェアに関するお問い合わせについても、お買い求め先へご連絡ください。

B.1 ライセンス通知	144
-------------------	-----

B.1 ライセンス通知

本製品の一部（システム BIOS）には下記ライセンスのオープンソースソフトウェアが含まれています。

- EDK from Tianocore.org
- UEFI Network Stack 2
- Crypto package using WPA Supplicant

本製品の一部（オフラインツール）には下記ライセンスのオープンソースソフトウェアが含まれています。

- EDK from Tianocore.org

EDK FROM TIANOCORE.ORG

BSD License from Intel

Copyright (c) 2012, Intel Corporation

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the Intel Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright (c) 2004 - 2007, Intel Corporation

All rights reserved. This program and the accompanying materials are licensed and made available under the terms and conditions of the BSD License which accompanies this distribution. The full text of the license may be found at <http://opensource.org/licenses/bsd-license.php>

THE PROGRAM IS DISTRIBUTED UNDER THE BSD LICENSE ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR REPRESENTATIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED.

UEFI NETWORK STACK 2

OpenSSL License

Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit.
(<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.
6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit
(<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

CRYPTO PACKAGE USING WPA SUPPLICANT

WPA Supplicant

Copyright (c) 2003-2012, Jouni Malinen <jam@w1.fi> and contributors
All Rights Reserved.

This program is licensed under the BSD license (the one with advertisement clause removed).
If you are submitting changes to the project, please see CONTRIBUTIONS file for more instructions.

License

This software may be distributed, used, and modified under the terms of
BSD license:

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name(s) of the above-listed copyright holder(s) nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

本製品の BMC は下記のオープンソースソフトウェアを利用しています。

▶ GNU General Public License

- Busybox
- Linux Kernel
- U-Boot
- stunnel

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what

they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
- c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

- a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
- c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author
 Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'.
 This is free software, and you are welcome to redistribute it
 under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the program
 'Gnomovision' (which makes passes at compilers) written by James Hacker.
 <signature of Ty Coon>, 1 April 1989
 Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

▶ GNU Lesser General Public License

■ glibc

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE Version 2.1, February 1999

Copyright (C) 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.,
 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
 Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

- a) The modified work must itself be a software library.
- b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
- c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
- d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)
- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
- b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE

LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries

If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and a brief idea of what it does.>

Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library 'Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1990

Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

▶ OpenSSL ツールキット

本製品には OpenSSL ツールキットで使用するために OpenSSL プロジェクトで開発されたソフトウェアが含まれています。(<http://www.openssl.org/>)

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)

本製品には Eric Young 氏 (eay@cryptsoft.com) が開発した暗号化ソフトウェアが含まれています。

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)

LICENSE ISSUES

The OpenSSL toolkit stays under a dual license, i.e. both the conditions of the OpenSSL License and the original SSLeay license apply to the toolkit. See below for the actual license texts. Actually both licenses are BSD-style Open Source licenses. In case of any license issues related to OpenSSL please contact openssl-core@openssl.org.

OpenSSL License

```
/* =====
* Copyright (c) 1998-2011 The OpenSSL Project. All rights reserved.
*
* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
* modification, are permitted provided that the following conditions
* are met:
*
* 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
*    notice, this list of conditions and the following disclaimer.
*
* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
*    notice, this list of conditions and the following disclaimer in
*    the documentation and/or other materials provided with the
*    distribution.
*
* 3. All advertising materials mentioning features or use of this
*    software must display the following acknowledgment:
*    "This product includes software developed by the OpenSSL Project
*    for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"
*
* 4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to
*    endorse or promote products derived from this software without
*    prior written permission. For written permission, please contact
*    openssl-core@openssl.org.
*
* 5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL"
*    nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written
*    permission of the OpenSSL Project.
*
* 6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following
*    acknowledgment:
*    "This product includes software developed by the OpenSSL Project
*    for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"
*
* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY
* EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
* IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR
```


* PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR
 * ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,
 * SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
 * NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
 * LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT,
 * STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
 * ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED
 * OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

* =====

*
 * This product includes cryptographic software written by Eric Young
 * (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim
 * Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 */

Original SSLeay License

 /* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
 * All rights reserved.
 *
 * This package is an SSL implementation written
 * by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
 * The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
 *
 * This library is free for commercial and non-commercial use as long as
 * the following conditions are aheared to. The following conditions
 * apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,
 * lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation
 * included with this distribution is covered by the same copyright terms
 * except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 * Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in
 * the code are not to be removed.
 * If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution
 * as the author of the parts of the library used.
 * This can be in the form of a textual message at program startup or
 * in documentation (online or textual) provided with the package.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 * 1. Redistributions of source code must retain the copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
 * documentation and/or other materials provided with the distribution.
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
 * must display the following acknowledgement:
 * "This product includes cryptographic software written by
 * Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
 * The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
 * being used are not cryptographic related :-).
 * 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
 * the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
 * "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
 *

* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND
 * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
 * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
 * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
 * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
 * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
 * SUCH DAMAGE.
 *
 * The licence and distribution terms for any publically available version or
 * derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be
 * copied and put under another distribution licence
 * [including the GNU Public Licence.]
 */

▶ MIT License

- iniParser
Copyright (c) 2000-2011 by Nicolas Devillard.
- jQuery
Copyright (c) 2011 John Resig, <http://jquery.com/>
- canvas-text
Copyright (c) 2008 Fabien Menager
- jQuery TreeView
Copyright (c) 2007 Jorn Zaefferer
- jQuery tablesorter
Copyright (c) 2007 Christian Bach
- typeface.js
Copyright (c) 2008, David Chester (davidchester@gmx.net)
- JSDeferred
Copyright (c) 2007 cho45 (www.lowreal.net)
- jQuery upload
Copyright (c) 2010 lagos
- jQuery LoadMask
Copyright (c) 2009 Sergiy Kovalchuk (serg472@gmail.com)
- flot
Copyright (c) 2007-2009 IOLA and Ole Laursen (<http://code.google.com/p/flot/>)

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A

PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

▶ BSD License

■ SHA2

```
/*
 * FIPS 180-2 SHA-224/256/384/512 implementation
 * Last update: 02/02/2007
 * Issue date: 04/30/2005
 *
 * Copyright (C) 2005, 2007 Olivier Gay <olivier.gay@a3.epfl.ch>
 * All rights reserved.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
 * documentation and/or other materials provided with the distribution.
 * 3. Neither the name of the project nor the names of its contributors
 * may be used to endorse or promote products derived from this software
 * without specific prior written permission.
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND
 * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
 * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
 * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
 * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
 * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
 * SUCH DAMAGE.
 */
```

■ HMAC-SHA2

```
/*
 * HMAC-SHA-224/256/384/512 implementation
 * Last update: 06/15/2005
 * Issue date: 06/15/2005
 *
 * Copyright (C) 2005 Olivier Gay <olivier.gay@a3.epfl.ch>
 * All rights reserved.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
```

* 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
 * documentation and/or other materials provided with the distribution.
 * 3. Neither the name of the project nor the names of its contributors
 * may be used to endorse or promote products derived from this software
 * without specific prior written permission.
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE PROJECT AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND
 * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE PROJECT OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
 * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
 * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
 * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
 * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
 * SUCH DAMAGE.
 */

■ lighttpd

Copyright (c) 2004, Jan Kneschke, incremental All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of the 'incremental' nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS"
 AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED
 WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE
 LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES;
 LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
 THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING
 NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF
 ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ NET-SNMP

Various copyrights apply to this package, listed in various separate parts below. Please make sure that you read all the parts.

---- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) ----

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

---- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2001-2003, Networks Associates Technology, Inc All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of the Networks Associates Technology, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) ----

Portions of this code are copyright (c) 2001-2003, Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT

(INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 4: Sun Microsystems, Inc. copyright notice (BSD) ----

Copyright c 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Use is subject to license terms below.

This distribution may include materials developed by third parties.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of the Sun Microsystems, Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 5: Sparta, Inc copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2003-2009, Sparta, Inc All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of Sparta, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 6: Cisco/BUPTNIC copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2004, Cisco, Inc and Information Network Center of Beijing University of Posts and Telecommunications. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of Cisco, Inc, Beijing University of Posts and Telecommunications, nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 7: Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG, 2003

oss@fabasoft.com

Author: Bernhard Penz

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * The name of Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG or any of its subsidiaries, brand or product names may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 8: Apple Inc. copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2007 Apple Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Apple Inc. ("Apple") nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY APPLE AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL APPLE OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 9: ScienceLogic, LLC copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2009, ScienceLogic, LLC All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of ScienceLogic, LLC nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ TCP Wrapper

```

/*****
* Copyright 1995 by Wietse Venema. All rights reserved. Some individual
* files may be covered by other copyrights.
*
* This material was originally written and compiled by Wietse Venema at
* Eindhoven University of Technology, The Netherlands, in 1990, 1991,
* 1992, 1993, 1994 and 1995.
*
* Redistribution and use in source and binary forms are permitted
* provided that this entire copyright notice is duplicated in all such
* copies.
*
* This software is provided "as is" and without any expressed or implied
* warranties, including, without limitation, the implied warranties of
* merchantability and fitness for any particular purpose.
*****/

/*
* Copyright (c) 1987 Regents of the University of California.
* All rights reserved.
*
* Redistribution and use in source and binary forms are permitted
* provided that the above copyright notice and this paragraph are
* duplicated in all such forms and that any documentation,

```


- * advertising materials, and other materials related to such
- * distribution and use acknowledge that the software was developed
- * by the University of California, Berkeley. The name of the
- * University may not be used to endorse or promote products derived
- * from this software without specific prior written permission.
- * THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR
- * IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THE IMPLIED
- * WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE.
- */

▶ その他のオープンソースソフトウェア

■ OpenSSH

This file is part of the OpenSSH software.

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

- * Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland
- * All rights reserved
- *
- * As far as I am concerned, the code I have written for this software
- * can be used freely for any purpose. Any derived versions of this
- * software must be clearly marked as such, and if the derived work is
- * incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be
- * called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

- * However, I am not implying to give any licenses to any patents or
- * copyrights held by third parties, and the software includes parts that
- * are not under my direct control. As far as I know, all included
- * source code is used in accordance with the relevant license agreements
- * and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most
- * restrictive); see below for details.

[However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "<http://www.cs.hut.fi/crypto>".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

- * Cryptographic attack detector for ssh - source code
- *
- * Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.
- *
- * All rights reserved. Redistribution and use in source and binary
- * forms, with or without modification, are permitted provided that
- * this copyright notice is retained.
- *
- * THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED
- * WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE
- * LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR
- * CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS
- * SOFTWARE.
- *
- * Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>
- * <<http://www.core-sdi.com>>

3)

ssh-keyscan was contributed by David Mazieres under a BSD-style license.

- * Copyright 1995, 1996 by David Mazieres <dm@lcs.mit.edu>.
- *
- * Modification and redistribution in source and binary forms is
- * permitted provided that due credit is given to the author and the
- * OpenBSD project by leaving this copyright notice intact.

4)

The Rijndael implementation by Vincent Rijmen, Antoon Bosselaers and Paulo Barreto is in the public domain and distributed with the following license:

- * @version 3.0 (December 2000)
- *
- * Optimised ANSI C code for the Rijndael cipher (now AES)
- *

* @author Vincent Rijmen <vincent.rijmen@esat.kuleuven.ac.be>
 * @author Antoon Bosselaers <antoon.bosselaers@esat.kuleuven.ac.be>
 * @author Paulo Barreto <paulo.barreto@terra.com.br>

*

* This code is hereby placed in the public domain.

*

* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHORS "AS IS" AND ANY EXPRESS
 * OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED
 * WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR CONTRIBUTORS BE
 * LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR
 * CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF
 * SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR
 * BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY,
 * WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE
 * OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE,
 * EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

* Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

* The Regents of the University of California. All rights reserved.

*

* Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:

* 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer.

* 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
 * documentation and/or other materials provided with the distribution.

* 3. Neither the name of the University nor the names of its contributors
 * may be used to endorse or promote products derived from this software
 * without specific prior written permission.

*

* THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND
 * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
 * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
 * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
 * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
 * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
 * SUCH DAMAGE.

6)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl

Theo de Raadt

Niels Provos

Dug Song

Aaron Campbell

Damien Miller
 Kevin Steves
 Daniel Kouril
 Wesley Griffin
 Per Allansson
 Nils Nordman
 Simon Wilkinson

Portable OpenSSH additionally includes code from the following copyright holders, also under the 2-term BSD license:

Ben Lindstrom
 Tim Rice
 Andre Lucas
 Chris Adams
 Corinna Vinschen
 Cray Inc.
 Denis Parker
 Gert Doering
 Jakob Schlyter
 Jason Downs
 Juha Yrjola
 Michael Stone
 Networks Associates Technology, Inc.
 Solar Designer
 Todd C. Miller
 Wayne Schroeder
 William Jones
 Darren Tucker
 Sun Microsystems
 The SCO Group
 Daniel Walsh

- * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
- * modification, are permitted provided that the following conditions
- * are met:
- * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
- * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
- * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
- * documentation and/or other materials provided with the distribution.
- *
- * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR
- * IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES
- * OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED.
- * IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT,
- * INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT
- * NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE,
- * DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY
- * THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT
- * (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF
- * THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

8) Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

a) md5crypt.c, md5crypt.h

- * "THE BEER-WARE LICENSE" (Revision 42):

- * <phk@login.dknet.dk> wrote this file. As long as you retain this
- * notice you can do whatever you want with this stuff. If we meet
- * some day, and you think this stuff is worth it, you can buy me a
- * beer in return. Poul-Henning Kamp

b) snprintf replacement

- * Copyright Patrick Powell 1995
- * This code is based on code written by Patrick Powell
- * (papowell@astart.com) It may be used for any purpose as long as this
- * notice remains intact on all source code distributions

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller
 Theo de Raadt
 Damien Miller
 Eric P. Allman
 The Regents of the University of California
 Constantin S. Svintsoff

- * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
- * modification, are permitted provided that the following conditions
- * are met:
- * 1. Redistributions of source code must retain the above copyright
- * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
- * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
- * documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * 3. Neither the name of the University nor the names of its contributors
- * may be used to endorse or promote products derived from this software
- * without specific prior written permission.
- *
- * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS" AND
- * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
- * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
- * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
- * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
- * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
- * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
- * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
- * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
- * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
- * SUCH DAMAGE.

Some code is licensed under an ISC-style license, to the following copyright holders:

Internet Software Consortium.
 Todd C. Miller
 Reyk Floeter
 Chad Mynhier

* Permission to use, copy, modify, and distribute this software for any
 * purpose with or without fee is hereby granted, provided that the above
 * copyright notice and this permission notice appear in all copies.
 *
 * THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS" AND TODD C. MILLER DISCLAIMS ALL
 * WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES
 * OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL TODD C. MILLER BE LIABLE
 * FOR ANY SPECIAL, DIRECT, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES
 * WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION
 * OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN
 * CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

Some code is licensed under a MIT-style license to the following copyright holders:

Free Software Foundation, Inc.

```
* Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a *
* copy of this software and associated documentation files (the *
* "Software"), to deal in the Software without restriction, including *
* without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, *
* distribute, distribute with modifications, sublicense, and/or sell *
* copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is *
* furnished to do so, subject to the following conditions: *
* *
* The above copyright notice and this permission notice shall be included *
* in all copies or substantial portions of the Software. *
* *
* THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS *
* OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF *
* MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. *
* IN NO EVENT SHALL THE ABOVE COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, *
* DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR *
* OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR *
* THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE. *
* *
* Except as contained in this notice, the name(s) of the above copyright *
* holders shall not be used in advertising or otherwise to promote the *
* sale, use or other dealings in this Software without prior written *
* authorization. *
```

*****/

■ OpenSLP

The following copyright and license is applicable to the entire OpenSLP project (libslp, slpd, and related documentation):

Copyright (C) 2000 Caldera Systems, Inc All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

Neither the name of Caldera Systems nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE CALDERA SYSTEMS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ OpenLDAP

Copyright 1998-2009 The OpenLDAP Foundation All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

A copy of this license is available in the file LICENSE in the top-level directory of the distribution or, alternatively, at <http://www.OpenLDAP.org/license.html>.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Individual files and/or contributed packages may be copyright by other parties and/or subject to additional restrictions.

This work is derived from the University of Michigan LDAP v3.3 distribution. Information concerning this software is available at <http://www.umich.edu/~dirsvcs/ldap/ldap.html>.

This work also contains materials derived from public sources.

Additional information about OpenLDAP can be obtained at <http://www.openldap.org/>.

Portions Copyright 1998-2008 Kurt D. Zeilenga.

Portions Copyright 1998-2006 Net Boolean Incorporated.

Portions Copyright 2001-2006 IBM Corporation.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted only as authorized by the OpenLDAP Public License.

Portions Copyright 1999-2008 Howard Y.H. Chu.

Portions Copyright 1999-2008 Symas Corporation.

Portions Copyright 1998-2003 Hallvard B. Furuseth.

Portions Copyright 2008-2009 Gavin Henry.

Portions Copyright 2008-2009 Suretec Systems Ltd.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this notice is preserved.

The names of the copyright holders may not be used to endorse or promote products derived from this software without their specific prior written permission. This software is provided ``as is" without express or implied warranty.

Portions Copyright (c) 1992-1996 Regents of the University of Michigan.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms are permitted provided that this notice is preserved and that due credit is given to the University of Michigan at Ann Arbor. The name of the University may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission. This software is provided ``as is" without express or implied warranty.

■ sblim-sfcb

```

/*
 *
 * (C) Copyright IBM Corp. 2005
 *
 * THIS FILE IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THE ECLIPSE PUBLIC LICENSE
 * ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THIS FILE
 * CONSTITUTES RECIPIENTS ACCEPTANCE OF THE AGREEMENT.
 *
 * You can obtain a current copy of the Eclipse Public License from
 * http://www.opensource.org/licenses/eclipse-1.0.php
 *
 */
/* ----- */
/*
/* Copyright (c) 2006 The Open Group
/*
/* Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a
/* copy of this software (the "Software"), to deal in the Software without
/* restriction, including without limitation the rights to use, copy,
/* modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of
/* the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished
/* to do so, subject to the following conditions:
/*
/* The above copyright notice and this permission notice shall be included
/* in all copies or substantial portions of the Software.
/*
/* THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS
/* OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF
/* MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT.
/* IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY
/* CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT
/* OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR
/* THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.
/*
/* ----- */

```

■ SQLite

SQLite is in the Public Domain

All of the deliverable code in SQLite has been dedicated to the public domain by the authors. All code authors, and representatives of the companies they work for, have signed affidavits dedicating their contributions to the public domain and originals of those signed affidavits are stored in a firesafe at the main offices of Hwaci. Anyone is free to copy, modify, publish, use, compile, sell, or distribute the original SQLite code, either in source code form or as a compiled binary, for any purpose, commercial or non-commercial, and by any means.

The previous paragraph applies to the deliverable code in SQLite - those parts of the SQLite library that you actually bundle and ship with a larger application. Portions of the documentation and some code used as part of the build process might fall under other licenses. The details here are unclear. We do not worry about the licensing of the documentation and build code so much because none of these things are part of the core deliverable SQLite library.

All of the deliverable code in SQLite has been written from scratch. No code has been taken from other projects or from the open internet. Every line of code can be traced back to its original author, and all of those authors have public domain dedications on file. So the SQLite code base is clean and is uncontaminated with licensed code from other projects.

■ SQLite

```

/* Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
 * All rights reserved.
 *
 * This package is an SSL implementation written
 * by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
 * The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.
 *
 * This library is free for commercial and non-commercial use as long as
 * the following conditions are aheared to. The following conditions
 * apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA,
 * lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation
 * included with this distribution is covered by the same copyright terms
 * except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
 *
 * Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in
 * the code are not to be removed.
 * If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution
 * as the author of the parts of the library used.
 * This can be in the form of a textual message at program startup or
 * in documentation (online or textual) provided with the package.
 *
 * Redistribution and use in source and binary forms, with or without
 * modification, are permitted provided that the following conditions
 * are met:
 * 1. Redistributions of source code must retain the copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer.
 * 2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright
 * notice, this list of conditions and the following disclaimer in the
 * documentation and/or other materials provided with the distribution.
 * 3. All advertising materials mentioning features or use of this software
 * must display the following acknowledgement:
 * "This product includes cryptographic software written by
 * Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
 * The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library
 * being used are not cryptographic related :-).
 * 4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from
 * the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
 * "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"
 *
 * THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND
 * ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE
 * IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE
 * ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE
 * FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL
 * DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS
 * OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
 * HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT
 * LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY
 * OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF
 * SUCH DAMAGE.
 *
 * The licence and distribution terms for any publically available version or

```

* derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be
 * copied and put under another distribution licence
 * [including the GNU Public Licence.]
 */

■ MD5

/* MD5C.C - RSA Data Security, Inc., MD5 message-digest algorithm
 */

/* Copyright (C) 1991-2, RSA Data Security, Inc. Created 1991. All
 rights reserved.
 License to copy and use this software is granted provided that it
 is identified as the "RSA Data Security, Inc. MD5 Message-Digest
 Algorithm" in all material mentioning or referencing this software
 or this function.

License is also granted to make and use derivative works provided
 that such works are identified as "derived from the RSA Data
 Security, Inc. MD5 Message-Digest Algorithm" in all material
 mentioning or referencing the derived work.

RSA Data Security, Inc. makes no representations concerning either
 the merchantability of this software or the suitability of this
 software for any particular purpose. It is provided "as is"
 without express or implied warranty of any kind.

These notices must be retained in any copies of any part of this
 documentation and/or software.

*/

■ ExplorerCanvas

■ js-tables

Apache License
 Version 2.0, January 2004
<http://www.apache.org/licenses/>

TERMS AND CONDITIONS FOR USE, REPRODUCTION, AND DISTRIBUTION

1. Definitions.

"License" shall mean the terms and conditions for use, reproduction,
 and distribution as defined by Sections 1 through 9 of this document.

"Licensor" shall mean the copyright owner or entity authorized by
 the copyright owner that is granting the License.

"Legal Entity" shall mean the union of the acting entity and all
 other entities that control, are controlled by, or are under common
 control with that entity. For the purposes of this definition,
 "control" means (i) the power, direct or indirect, to cause the
 direction or management of such entity, whether by contract or
 otherwise, or (ii) ownership of fifty percent (50%) or more of the
 outstanding shares, or (iii) beneficial ownership of such entity.

"You" (or "Your") shall mean an individual or Legal Entity
 exercising permissions granted by this License.

"Source" form shall mean the preferred form for making modifications, including but not limited to software source code, documentation source, and configuration files.

"Object" form shall mean any form resulting from mechanical transformation or translation of a Source form, including but not limited to compiled object code, generated documentation, and conversions to other media types.

"Work" shall mean the work of authorship, whether in Source or Object form, made available under the License, as indicated by a copyright notice that is included in or attached to the work (an example is provided in the Appendix below).

"Derivative Works" shall mean any work, whether in Source or Object form, that is based on (or derived from) the Work and for which the editorial revisions, annotations, elaborations, or other modifications represent, as a whole, an original work of authorship. For the purposes of this License, Derivative Works shall not include works that remain separable from, or merely link (or bind by name) to the interfaces of, the Work and Derivative Works thereof.

"Contribution" shall mean any work of authorship, including the original version of the Work and any modifications or additions to that Work or Derivative Works thereof, that is intentionally submitted to Licensor for inclusion in the Work by the copyright owner or by an individual or Legal Entity authorized to submit on behalf of the copyright owner. For the purposes of this definition, "submitted" means any form of electronic, verbal, or written communication sent to the Licensor or its representatives, including but not limited to communication on electronic mailing lists, source code control systems, and issue tracking systems that are managed by, or on behalf of, the Licensor for the purpose of discussing and improving the Work, but excluding communication that is conspicuously marked or otherwise designated in writing by the copyright owner as "Not a Contribution."

"Contributor" shall mean Licensor and any individual or Legal Entity on behalf of whom a Contribution has been received by Licensor and subsequently incorporated within the Work.

2. Grant of Copyright License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable copyright license to reproduce, prepare Derivative Works of, publicly display, publicly perform, sublicense, and distribute the Work and such Derivative Works in Source or Object form.
3. Grant of Patent License. Subject to the terms and conditions of this License, each Contributor hereby grants to You a perpetual, worldwide, non-exclusive, no-charge, royalty-free, irrevocable (except as stated in this section) patent license to make, have made, use, offer to sell, sell, import, and otherwise transfer the Work, where such license applies only to those patent claims licensable by such Contributor that are necessarily infringed by their Contribution(s) alone or by combination of their Contribution(s) with the Work to which such Contribution(s) was submitted. If You institute patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Work or a Contribution incorporated within the Work constitutes direct or contributory patent infringement, then any patent licenses granted to You under this License for that Work shall terminate as of the date such litigation is filed.

4. Redistribution. You may reproduce and distribute copies of the Work or Derivative Works thereof in any medium, with or without modifications, and in Source or Object form, provided that You meet the following conditions:
 - (a) You must give any other recipients of the Work or Derivative Works a copy of this License; and
 - (b) You must cause any modified files to carry prominent notices stating that You changed the files; and
 - (c) You must retain, in the Source form of any Derivative Works that You distribute, all copyright, patent, trademark, and attribution notices from the Source form of the Work, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works; and
 - (d) If the Work includes a "NOTICE" text file as part of its distribution, then any Derivative Works that You distribute must include a readable copy of the attribution notices contained within such NOTICE file, excluding those notices that do not pertain to any part of the Derivative Works, in at least one of the following places: within a NOTICE text file distributed as part of the Derivative Works; within the Source form or documentation, if provided along with the Derivative Works; or, within a display generated by the Derivative Works, if and wherever such third-party notices normally appear. The contents of the NOTICE file are for informational purposes only and do not modify the License. You may add Your own attribution notices within Derivative Works that You distribute, alongside or as an addendum to the NOTICE text from the Work, provided that such additional attribution notices cannot be construed as modifying the License.

You may add Your own copyright statement to Your modifications and may provide additional or different license terms and conditions for use, reproduction, or distribution of Your modifications, or for any such Derivative Works as a whole, provided Your use, reproduction, and distribution of the Work otherwise complies with the conditions stated in this License.

5. Submission of Contributions. Unless You explicitly state otherwise, any Contribution intentionally submitted for inclusion in the Work by You to the Licensor shall be under the terms and conditions of this License, without any additional terms or conditions.
Notwithstanding the above, nothing herein shall supersede or modify the terms of any separate license agreement you may have executed with Licensor regarding such Contributions.
6. Trademarks. This License does not grant permission to use the trade names, trademarks, service marks, or product names of the Licensor, except as required for reasonable and customary use in describing the origin of the Work and reproducing the content of the NOTICE file.
7. Disclaimer of Warranty. Unless required by applicable law or agreed to in writing, Licensor provides the Work (and each Contributor provides its Contributions) on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied, including, without limitation, any warranties or conditions of TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. You are solely responsible for determining the

appropriateness of using or redistributing the Work and assume any risks associated with Your exercise of permissions under this License.

8. **Limitation of Liability.** In no event and under no legal theory, whether in tort (including negligence), contract, or otherwise, unless required by applicable law (such as deliberate and grossly negligent acts) or agreed to in writing, shall any Contributor be liable to You for damages, including any direct, indirect, special, incidental, or consequential damages of any character arising as a result of this License or out of the use or inability to use the Work (including but not limited to damages for loss of goodwill, work stoppage, computer failure or malfunction, or any and all other commercial damages or losses), even if such Contributor has been advised of the possibility of such damages.
9. **Accepting Warranty or Additional Liability.** While redistributing the Work or Derivative Works thereof, You may choose to offer, and charge a fee for, acceptance of support, warranty, indemnity, or other liability obligations and/or rights consistent with this License. However, in accepting such obligations, You may act only on Your own behalf and on Your sole responsibility, not on behalf of any other Contributor, and only if You agree to indemnify, defend, and hold each Contributor harmless for any liability incurred by, or claims asserted against, such Contributor by reason of your accepting any such warranty or additional liability.

END OF TERMS AND CONDITIONS

APPENDIX: How to apply the Apache License to your work.

To apply the Apache License to your work, attach the following boilerplate notice, with the fields enclosed by brackets "[]" replaced with your own identifying information. (Don't include the brackets!) The text should be enclosed in the appropriate comment syntax for the file format. We also recommend that a file or class name and description of purpose be included on the same "printed page" as the copyright notice for easier identification within third-party archives.

Copyright 2006 Google Inc.

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the "License");
you may not use this file except in compliance with the License.
You may obtain a copy of the License at

<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0>

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied. See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

■ IPA Font License Agreement v1.0

The Licensor provides the Licensed Program (as defined in Article 1 below) under the terms of this license agreement ("Agreement"). Any use, reproduction or distribution of the Licensed Program, or any exercise of rights under this Agreement by a Recipient (as defined in Article 1 below) constitutes the Recipient's acceptance of this Agreement.

Article 1 (Definitions)

1. "Digital Font Program" shall mean a computer program containing, or used to render or display fonts.

2. "Licensed Program" shall mean a Digital Font Program licensed by the Licensor under this Agreement.
3. "Derived Program" shall mean a Digital Font Program created as a result of a modification, addition, deletion, replacement or any other adaptation to or of a part or all of the Licensed Program, and includes a case where a Digital Font Program newly created by retrieving font information from a part or all of the Licensed Program or Embedded Fonts from a Digital Document File with or without modification of the retrieved font information.
4. "Digital Content" shall mean products provided to end users in the form of digital data, including video content, motion and/or still pictures, TV programs or other broadcasting content and products consisting of character text, pictures, photographic images, graphic symbols and/or the like.
5. "Digital Document File" shall mean a PDF file or other Digital Content created by various software programs in which a part or all of the Licensed Program becomes embedded or contained in the file for the display of the font ("Embedded Fonts"). Embedded Fonts are used only in the display of characters in the particular Digital Document File within which they are embedded, and shall be distinguished from those in any Digital Font Program, which may be used for display of characters outside that particular Digital Document File.
6. "Computer" shall include a server in this Agreement.
7. "Reproduction and Other Exploitation" shall mean reproduction, transfer, distribution, lease, public transmission, presentation, exhibition, adaptation and any other exploitation.
8. "Recipient" shall mean anyone who receives the Licensed Program under this Agreement, including one that receives the Licensed Program from a Recipient.

Article 2 (Grant of License)

The Licensor grants to the Recipient a license to use the Licensed Program in any and all countries in accordance with each of the provisions set forth in this Agreement. However, any and all rights underlying in the Licensed Program shall be held by the Licensor. In no sense is this Agreement intended to transfer any right relating to the Licensed Program held by the Licensor except as specifically set forth herein or any right relating to any trademark, trade name, or service mark to the Recipient.

1. The Recipient may install the Licensed Program on any number of Computers and use the same in accordance with the provisions set forth in this Agreement.
2. The Recipient may use the Licensed Program, with or without modification in printed materials or in Digital Content as an expression of character texts or the like.
3. The Recipient may conduct Reproduction and Other Exploitation of the printed materials and Digital Content created in accordance with the preceding Paragraph, for commercial or non-commercial purposes and in any form of media including but not limited to broadcasting, communication and various recording media.
4. If any Recipient extracts Embedded Fonts from a Digital Document File to create a Derived Program, such Derived Program shall be subject to the terms of this agreement.
5. If any Recipient performs Reproduction or Other Exploitation of a Digital Document File in which Embedded Fonts of the Licensed Program are used only for rendering the Digital Content within such Digital Document File then such Recipient shall have no further obligations under this Agreement in relation to such actions.
6. The Recipient may reproduce the Licensed Program as is without modification and transfer such copies, publicly transmit or otherwise redistribute the Licensed Program to a third party for commercial or non-commercial purposes ("Redistribute"), in accordance with the provisions set forth in Article 3 Paragraph 2.
7. The Recipient may create, use, reproduce and/or Redistribute a Derived Program under the terms stated above for the Licensed Program: provided, that the Recipient shall follow the provisions set forth in Article 3 Paragraph 1 when Redistributing the Derived Program.

Article 3 (Restriction)

The license granted in the preceding Article shall be subject to the following restrictions:

1. If a Derived Program is Redistributed pursuant to Paragraph 4 and 7 of the preceding Article, the following conditions must be met :
 - (1) The following must be also Redistributed together with the Derived Program, or be made available online or by means of mailing mechanisms in exchange for a cost which does not exceed the total costs of postage, storage medium and handling fees:
 - (a) a copy of the Derived Program; and
 - (b) any additional file created by the font developing program in the course of creating the Derived Program that can be used for further modification of the Derived Program, if any.

- (2) It is required to also Redistribute means to enable recipients of the Derived Program to replace the Derived Program with the Licensed Program first released under this License (the "Original Program"). Such means may be to provide a difference file from the Original Program, or instructions setting out a method to replace the Derived Program with the Original Program.
- (3) The Recipient must license the Derived Program under the terms and conditions of this Agreement.
- (4) No one may use or include the name of the Licensed Program as a program name, font name or file name of the Derived Program.
- (5) Any material to be made available online or by means of mailing a medium to satisfy the requirements of this paragraph may be provided, verbatim, by any party wishing to do so.
2. If the Recipient Redistributes the Licensed Program pursuant to Paragraph 6 of the preceding Article, the Recipient shall meet all of the following conditions:
 - (1) The Recipient may not change the name of the Licensed Program.
 - (2) The Recipient may not alter or otherwise modify the Licensed Program.
 - (3) The Recipient must attach a copy of this Agreement to the Licensed Program.
3. THIS LICENSED PROGRAM IS PROVIDED BY THE LICENSOR "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTY AS TO THE LICENSED PROGRAM OR ANY DERIVED PROGRAM, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF TITLE, NON-INFRINGEMENT, MERCHANTABILITY, OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE LICENSOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXTENDED, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO; PROCUREMENT OF SUBSTITUTED GOODS OR SERVICE; DAMAGES ARISING FROM SYSTEM FAILURE; LOSS OR CORRUPTION OF EXISTING DATA OR PROGRAM; LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE INSTALLATION, USE, THE REPRODUCTION OR OTHER EXPLOITATION OF THE LICENSED PROGRAM OR ANY DERIVED PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.
4. The Licensor is under no obligation to respond to any technical questions or inquiries, or provide any other user support in connection with the installation, use or the Reproduction and Other Exploitation of the Licensed Program or Derived Programs thereof.

Article 4 (Termination of Agreement)

1. The term of this Agreement shall begin from the time of receipt of the Licensed Program by the Recipient and shall continue as long as the Recipient retains any such Licensed Program in any way.
2. Notwithstanding the provision set forth in the preceding Paragraph, in the event of the breach of any of the provisions set forth in this Agreement by the Recipient, this Agreement shall automatically terminate without any notice. In the case of such termination, the Recipient may not use or conduct Reproduction and Other Exploitation of the Licensed Program or a Derived Program; provided that such termination shall not affect any rights of any other Recipient receiving the Licensed Program or the Derived Program from such Recipient who breached this Agreement.

Article 5 (Governing Law)

1. IPA may publish revised and/or new versions of this License. In such an event, the Recipient may select either this Agreement or any subsequent version of the Agreement in using, conducting the Reproduction and Other Exploitation of, or Redistributing the Licensed Program or a Derived Program. Other matters not specified above shall be subject to the Copyright Law of Japan and other related laws and regulations of Japan.
2. This Agreement shall be construed under the laws of Japan.

■ Oracle の Code sample ライセンスについて

[Oracle Code sample] Copyright © 2008, 2010 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. Use is subject to license terms.

- Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

- Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- Neither the name of Oracle Corporation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT OWNER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

索引

■ B

BMC リセット 116

■ H

Hitachi Compute Systems Manager 39, 25

Hitachi RAID Navigator 39

Hitachi Server Navigator 38

■ I

IT Report Utility 40

■ L

LAN 拡張機能 60

Log Monitor 39

Log Monitor Logger 39

■ P

PXE ブート

概要 50

サポート条件 50

前提条件 51

注意 51

■ R

RAID BIOS メッセージ 95

■ W

Wake On LAN

概要 48

サポート条件 48

前提条件 49

注意 49

■ あ

アプリケーションの終了 116

アラートの確認

OS イベントログ 69

RC 一覧 68

SEL 情報 68

システム装置のランプ 66

通知アラート 67

ユーティリティエラー 69

安全にお使いいただくために

一般的な安全上の注意事項 xi

本製品の損害を防ぐための注意 xiii

本マニュアル内の警告表示 xv

安全に関する注意事項 x

■ う

運用時の注意

Hitachi Compute Systems Manager 25

LAN 機能 13

USB Flash Module 22

UTC 設定 15

VMware 11

一般的な注意 6

ディスクアレイ 17

内蔵デバイス 23

ブートモード 22

運用前の設定

10G LAN 32

BMC ネットワーク 29

TCP Checksum Offload 29

UTC 34

Virtual Machine Queues 33

システム BIOS 37

メモリダンプ 35

■ お

オープンソースソフトウェア

ライセンス通知 144

■ き

規制・対策

高調波電流規格：JIS C 61000-3-2 適合品 iii

雑音耐力 iv

電源の瞬時電圧低下対策 iii

電波障害自主規制 iii

輸出規制 iv

強制的に電源を切る 115

■ く

クリーニング

- キーボード 71
- システム装置 70
- ディスプレイ 72
- 内蔵 DVD 72
- マウス 71

■ こ

困ったときには 79

コンシステンシーチェック 2

■ し

システム BIOS エラーメッセージ 85

システムイベントログ 8

システム装置

- クリーニング 70
- 信頼性 iii
- ランプ 66

重要なお知らせ iii

障害状況連絡シート 114

冗長化

- システムファン 45
- 電源ユニット 44

商標 ii

消耗品 78

■ て

ディスクアレイ

- JBOD 137
- RAID0 132
- RAID1 133
- RAID10 136
- RAID5 134
- RAID6 135
- 機能 138
- 構築 43
- 縮退モード 138
- 障害復旧の流れ 140
- ディスクアレイとは 42
- 分類 132
- ホットスワップ 139
- ホットプラグ 139
- リビルド 138

ディスプレイ

- クリーニング 72

電力監視 47

■ と

トラブルシュート

- エラーメッセージ 85
 - 強制オフとリセット 115
 - こんな状態のときには 82
 - システム装置ランプのエラー 105
 - 障害の連絡 114
 - 電源ユニット交換 119
 - ハードディスク／SSD／PCIe SSD 交換 117
 - ハードディスク／SSD 起動時 103
 - ビープ音 104
 - メモリダンプ採取 107
- トラブルを避けるために
- Windows Update 3
 - システムエラーチェック 2
 - 整合性検査 2
 - ドライバ・ユーティリティ・ファームウェアのアップ
デート 5
 - ネットワークセキュリティ 3
 - バックアップ 4

■ は

廃棄・譲渡時のデータ消去 v

バックアップ 4

パワーキャッピング 125, 46

版權 ii

■ ふ

付属ソフトウェア

- Hitachi Compute Systems Manager 39
- Hitachi RAID Navigator 39
- Hitachi Server Navigator 38
- IT Report Utility 40
- Log Monitor 39
- Log Monitor Logger 39

■ ほ

保守作業後の設定

- Administrator パスワード 127
- BIOS 124
- BMC 設定のリストア 123
- MAC アドレス 122
- UUID 129
- Windows BitLocker 126
- Windows ライセンス 128
- パワーキャッピング 125

■ ま

マニュアルの表記

オペレーティングシステムの略称 [vii](#)

記号 [vi](#)

システム装置 [vi](#)

用語 [ix](#)

略語 [ix](#)

■ め

メモリー RAS 機能

Independent [52](#)

Lock Step [57](#)

Mirroring [52](#)

SDDC [58](#)

Sparing [54](#)

メモリースクラビング [59](#)

メモリダンプ

採取 [107](#)

設定 [35](#)

注意 [8](#)

メンテナンス

アップデート [65](#)

アラート [66](#)

クリーニング [70](#)

バックアップ [73](#)

有寿命部品／消耗品の交換 [74](#)

■ ゆ

有寿命部品 [74](#)

■ り

リセット [116](#)

リモートマネジメント機能 [62](#)

日立アドバンストサーバ HA8000 シリーズ

ユーザーズガイド

～運用編～

HA8000/RS220 AN2/BN2

2016 年 4 月～モデル

初 版 2016 年 4 月

第 5 版 2017 年 6 月

無断転載を禁止します。



株式会社 日立製作所

〒100-8280 東京都千代田区丸の内一丁目6番6号

<http://www.hitachi.co.jp>

R22AN21200-5